

第2部 ひとり親家庭の生活実態に関する調査

第2部 ひとり親家庭の生活実態に関する調査

1. 調査の概要

(1)実施状況

アンケート調査は、以下のとおり実施した。

図表 2-1-1 ひとり親家庭の生活実態に関する調査の実施概要

項目	概要
実施時期	令和2年9月4日（金）～9月25日（金） ※調査期間後に回収した調査票についても、できる限り結果に反映した。
調査対象	令和2年度の児童育成手当受給世帯のうち、無作為に抽出した2,000世帯
実施方法	郵送による配布及び回収 御礼兼督促を1回実施 ※調査協力に対する謝品とこども1000人アンケートを調査票封筒に同封
調査項目	家庭の経済状況、就労状況、生活状況、子どもや子育ての状況、公的支援の利用状況、支援ニーズ、新型コロナウイルスの流行による影響 など

(2)回収状況

回答状況は以下のとおりである。

図表 2-1-2 ひとり親家庭の生活実態に関する調査 調査票の回収状況

	配布数	実回答数・回答率	有効回答数・回答率
ひとり親家庭の生活実態に関する調査	2,000件	877件 (43.9%)	843件 (42.2%)
(参考) 前回調査	2,000件	906件 (45.3%)	830件 (41.5%)

(3)集計結果の表示方法

- 本報告書では、調査票の設問順に集計結果を掲載している。
- 文章中および図表内の「n=○○」はその設問についての有効回答数、「SA」は単一回答形式 (Single Answer)、「MA」は複数回答形式 (Multiple Answer)、「I」は数値記入形式を示している。
- 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。
- 単一回答の設問について、複数の選択肢の回答割合の合計に言及する場合は、小数点以下第2位を四捨五入した値を合計している。
- 前回調査結果と比較をしている設問について、今回の調査結果のグラフにある「無回答」の項目は、前回調査結果のグラフにある「無効回答 (無回答・重複回答)」の項目と同義であり、比較を可能にするため集計上のデータ処理方法は変えていない。

2. 調査結果

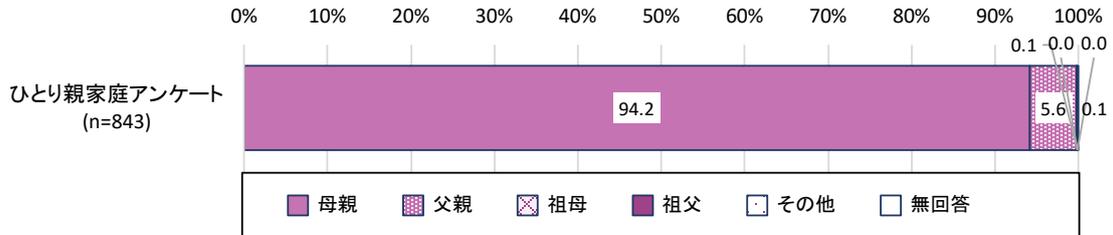
(1) 回答者の属性・世帯に関すること

① 回答者の属性

子どもから見た回答者の立場は、「母親」が94.2%、「父親」が5.6%、「祖母」が0.1%であった。

設問1 お子さんからみて、あなたは次のどの立場にあたりますか。(SA)

図表 2-2-1-1 回答者の属性

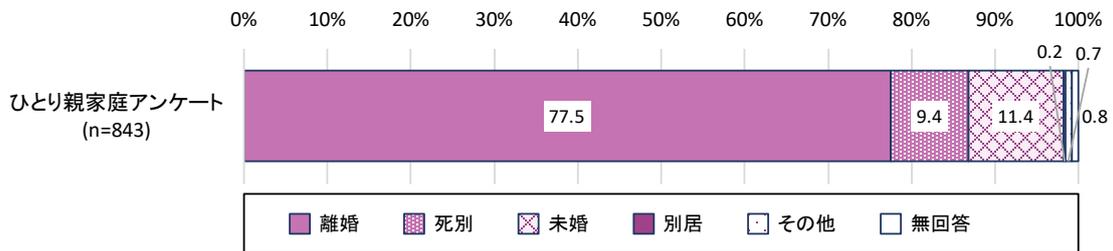


② ひとり親になった理由

ひとり親になった理由を尋ねた設問に対して、「離婚」は77.5%、「死別」は9.4%、「未婚」は11.4%であった。

設問2 ひとり親世帯になった理由は何ですか。(SA)

図表 2-2-1-2 ひとり親になった理由



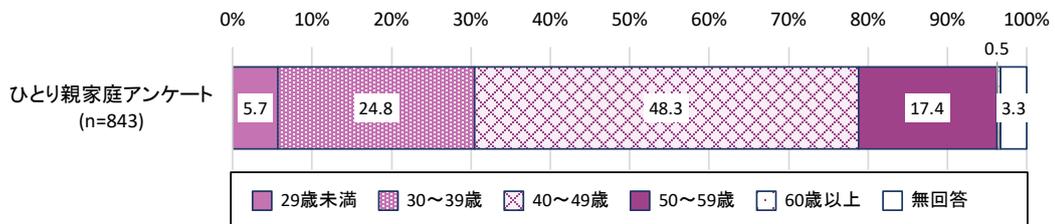
③現在の年齢・ひとり親になったときの年齢

回答者の現在の年齢は「40～49歳」が48.3%、「30～39歳」が24.8%、「50～59歳」が17.4%、「29歳未満」が5.7%であった。

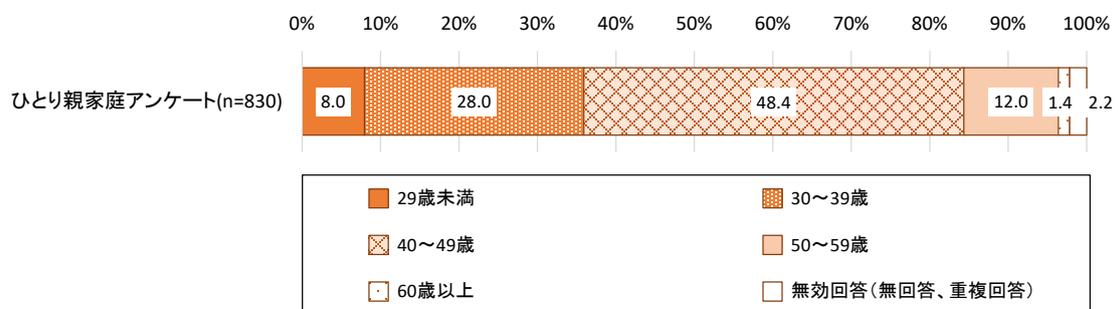
前回調査結果と比較すると、「29歳未満」「30～39歳」の回答割合が低く、「50～59歳」の回答割合が高くなっていった。

設問 3A あなたの現在の年齢と、ひとり親世帯になったときの年齢を教えてください。(SA)

図表 2-2-1-3 回答者の現在の年齢



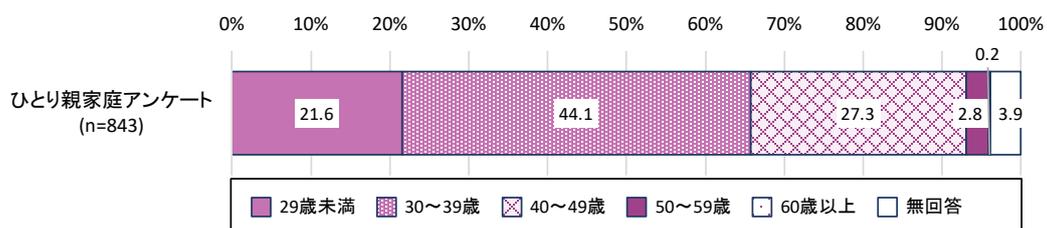
(参考) 前回調査結果



ひとり親になったときの年齢は、「30～39歳」が44.1%、「40～49歳」が27.3%、「29歳未満」が21.6%であった。

設問 3B あなたの現在の年齢と、ひとり親世帯になったときの年齢を教えてください。(SA)

図表 2-2-1-4 ひとり親になったときの年齢



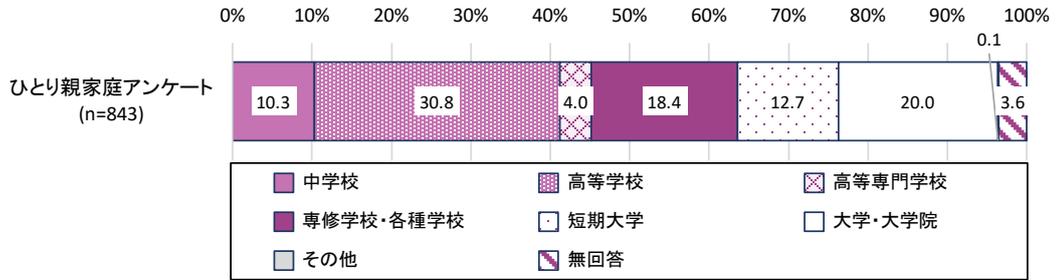
④学歴

最終学歴（最後に卒業した学校）について尋ねた設問に対して、「高等学校」が 30.8%、「大学・大学院」が 20.0%、「専修学校・各種学校」が 18.4%であった。

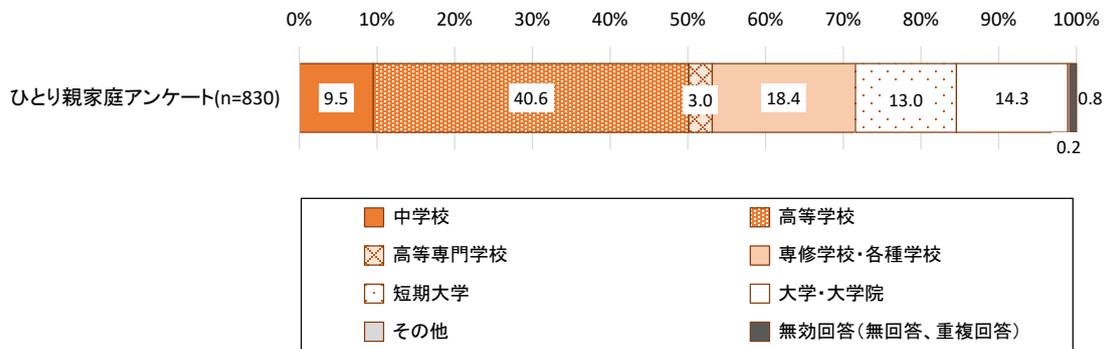
前回調査結果と比較すると、「高等学校」の回答割合が低く、「大学・大学院」の回答割合が高くなっていた。

設問 4 あなたが最後に卒業した学校は次のどれにあたりますか。（SA）

図表 2-2-1-5 学歴（最後に卒業した学校）



(参考) 前回調査結果



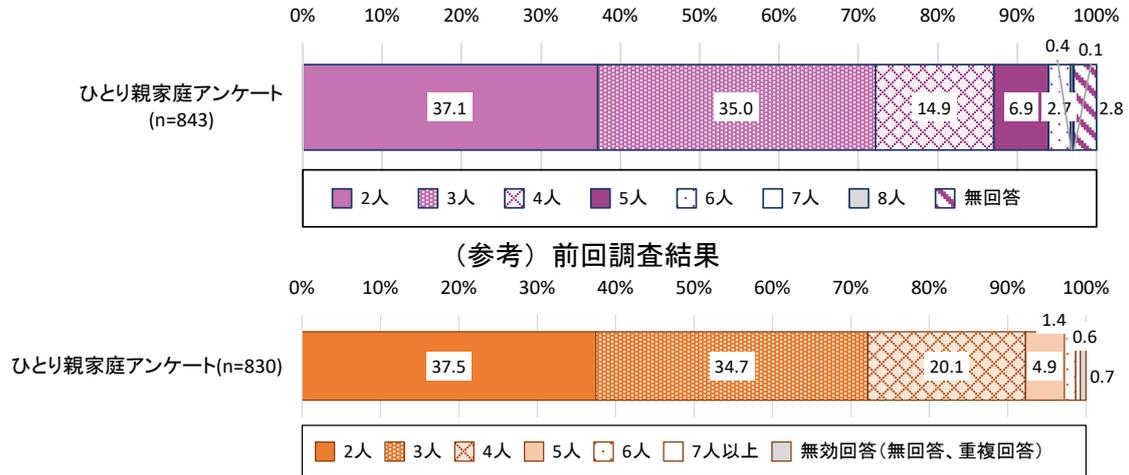
⑤世帯の人数

「あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしている方は、あなたを含めて全部で何人ですか」と尋ねた設問に対して、「2人」が37.1%、「3人」が35.0%、「4人」が14.9%であった¹¹²。

前回調査結果と比較すると、「4人」以上の回答割合が低くなっていた。

設問 5 あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしている方は、あなたを含めて全部で何人ですか。(SA)

図表 2-2-1-6 世帯の人数

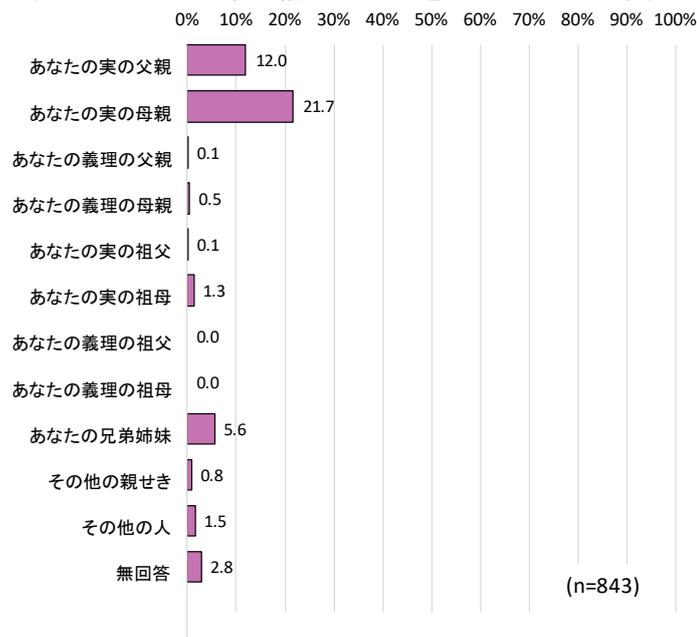


⑥世帯の構成

「あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしている方は、どなたですか」と尋ねた設問に対して、「あなたの実の母親」が21.7%、「あなたの実の父親」が12.0%、「あなたの兄弟姉妹」が5.6%であった¹¹³。

設問 6 あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしている方は、どなたですか。(MA)

図表 2-2-1-7 世帯の構成 (生計を共にしている家族)



¹¹² 単身赴任など、離れて暮らしている家族も含んだ人数を回答いただいた。

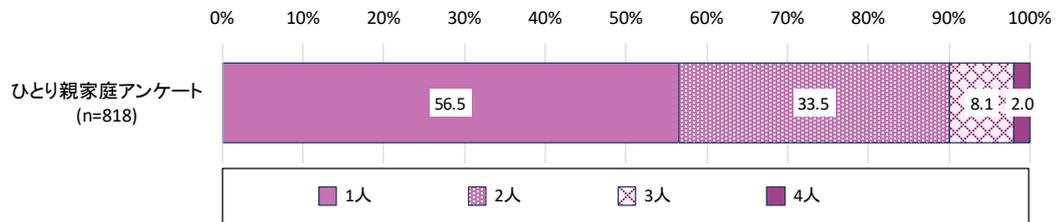
¹¹³ 単身赴任など、離れて暮らしている家族も含んだ人数を回答いただいた。なお、ここでは、「子ども」以外の項目の集計結果を掲載した。

⑦子どもの人数

子どもの人数については、「1人」が56.5%、「2人」が33.5%、「3人」が8.1%であった。

設問 6 あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしている方は、どなたですか。
それぞれ、人数も教えてください。（SA）

図表 2-2-1-8 子どもの人数

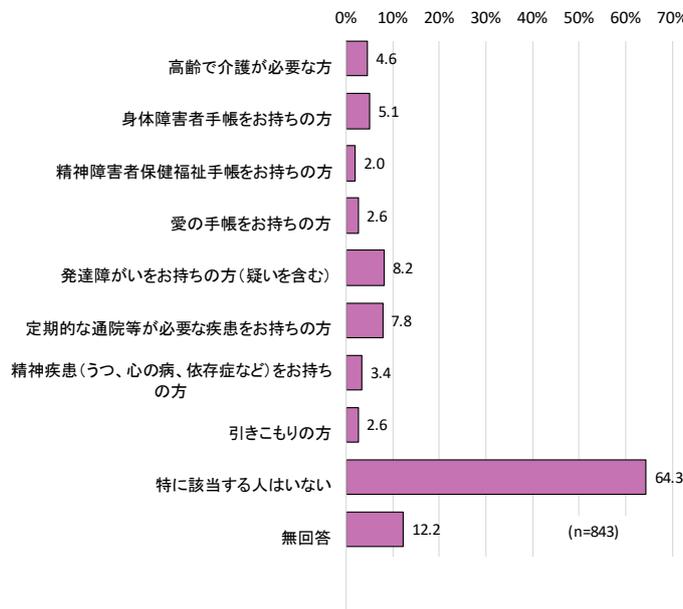


⑧要介護者等の有無

「あなたのご家族の中に、あなたが主に世話をしている人で、以下のような方はいますか」と尋ねた設問に対して、「発達障がいをお持ちの方（疑いを含む）」が8.2%、「定期的な通院等が必要な疾患をお持ちの方」が7.8%、「身体障害者手帳をお持ちの方」が5.1%であった。また、「特に該当する人はいない」は64.3%であった。

設問 7-1 あなたのご家族の中に、あなたが主に世話をしている人で、以下のような方はいますか。（MA）

図表 2-2-1-9 家族の中の要介護者等の有無

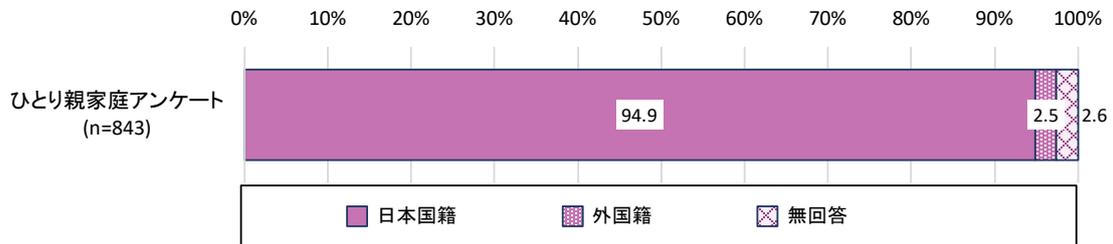


⑨保護者の国籍

「あなたの国籍について教えてください」と尋ねた設問に対して、「外国籍」の回答は2.5%であった。

設問 7-2(新設) あなたの国籍について教えてください。(SA)

図表 2-2-1-10 保護者の国籍

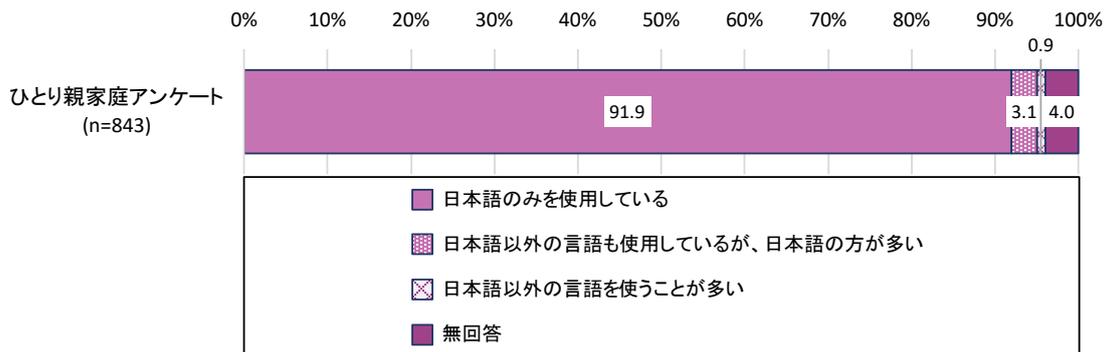


⑩家庭内の使用言語

家庭内での使用言語について尋ねた設問に対して、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多く」と「日本語以外の言語を使うことが多い」を合わせた回答割合は4.0%であった。

設問 7-3(新設) あなたのご家庭ではふだんどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(SA)

図表 2-2-1-11 家庭内の使用言語



(2)子ども・子育てのこと

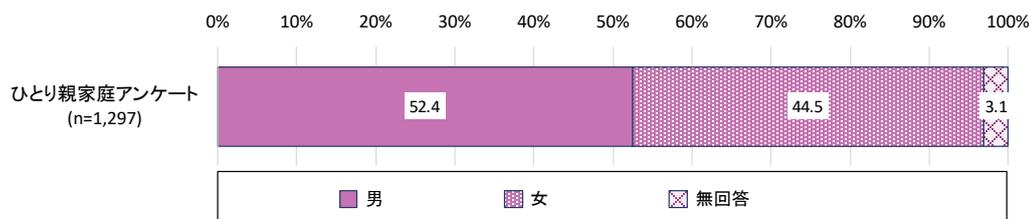
①子どもの性別・生年月¹¹⁴

子どもの性別については、「男」が52.4%、「女」が44.5%であった。

また、子どもが生まれた年代については、「2000年代」が56.7%、「2010年代」が29.9%、「1990年代」が5.9%であった。

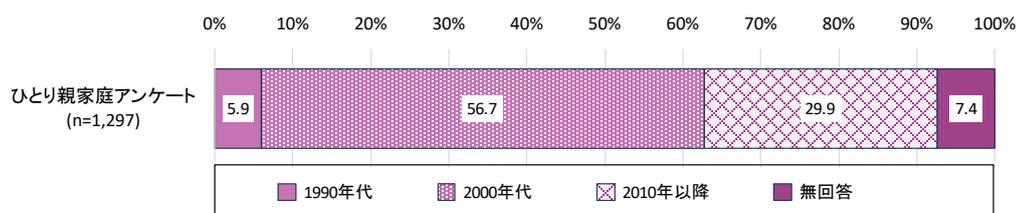
設問 8A あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしているお子さん（最大4人まで）に関して、次のA～Eそれぞれについて教えてください。（SA）

図表 2-2-2-1 子どもの性別



設問 8B あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしているお子さん（最大4人まで）に関して、次のA～Eそれぞれについて教えてください。（SA）

図表 2-2-2-2 子どもが生まれた年

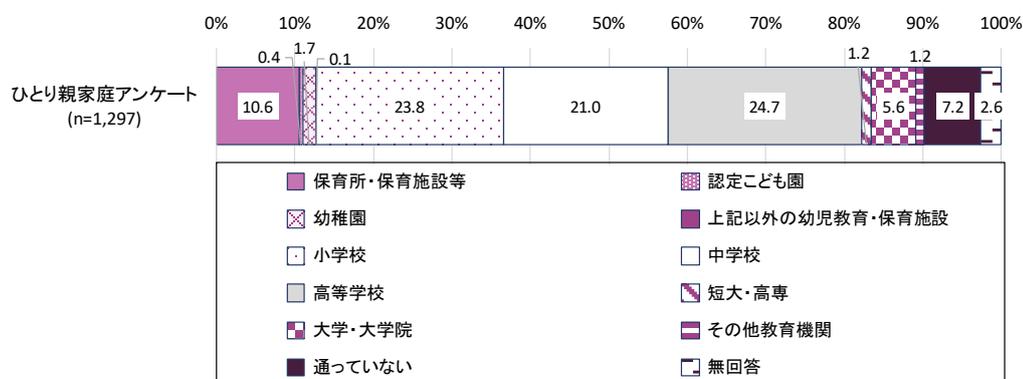


②学校等教育機関での在籍状況

子どもの現在の学校等教育機関の在籍状況を尋ねた設問¹¹⁵に対して、「高等学校」が24.7%、「小学校」が23.8%、「中学校」が21.0%であった。また、未就学児（「保育所・保育施設等」「認定こども園」「幼稚園」「上記以外の幼児教育・保育施設」）は合わせて12.8%であった。

設問 8C あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしているお子さん（最大4人まで）に関して、次のA～Eそれぞれについて教えてください。（SA）

図表 2-2-2-3 学校等教育機関での在籍状況



¹¹⁴ 各回答者に、一緒に暮らしていて生計を共にしているお子さん最大4人までについて尋ねており、ここでは回答が記入された各子ども（合計1,297人分）について集計した。

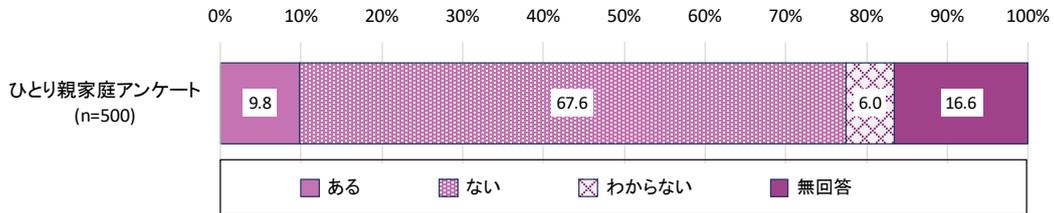
¹¹⁵ 各回答者に、一緒に暮らしていて生計を共にしているお子さん最大4人までについて尋ねており、ここでは回答が記入された各子ども（合計1,297人分）について集計した。

③子どもの未治療の虫歯の有無

子どもの未治療の虫歯の有無について尋ねた設問¹¹⁶に対して、「ある」の回答割合は9.8%であった。

設問 8D あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしているお子さん（最大4人まで）に関して、次のA～Eそれぞれについて教えてください。（SA）

図表 2-2-2-4 小学生以下の子どもの未治療の虫歯の有無



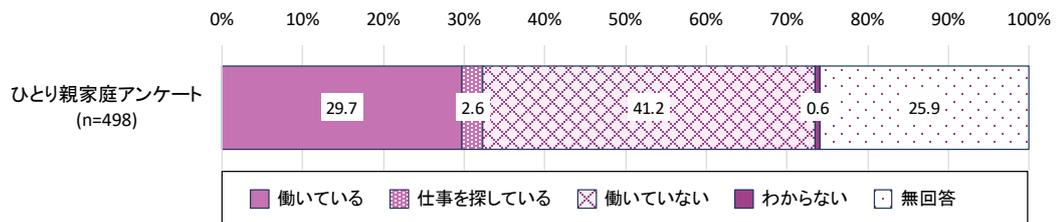
④子どもの就業の状況

子どもの就業の状況を尋ねた設問¹¹⁷に対して、「働いている」は29.7%、「働いていない」は41.2%、「仕事を探している」は2.6%であった。

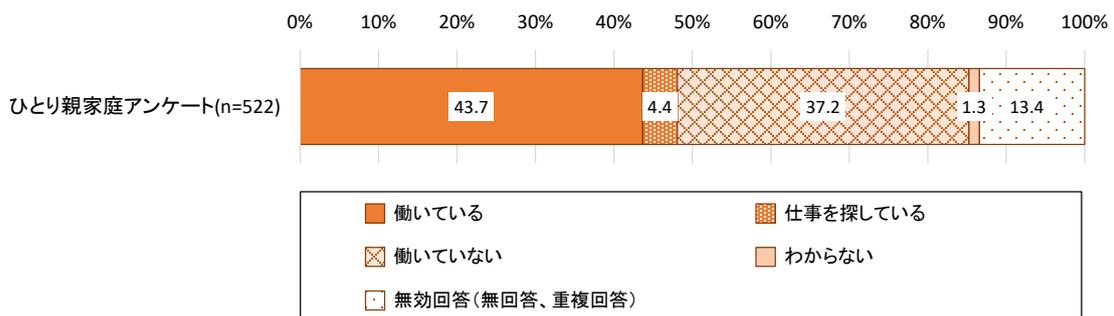
前回調査結果と比較すると、「働いている」「仕事を探している」の回答割合が低くなっていた。

設問 8E あなたと一緒に暮らしており、生計を共にしているお子さん（最大4人まで）に関して、次のA～Eそれぞれについて教えてください。（SA）

図表 2-2-2-5 中学卒業後の就業の状況(アルバイトを含む)



(参考) 前回調査結果



¹¹⁶ 各回答者に、一緒に暮らしていて生計を共にしているお子さん最大4人までについて尋ねており、ここでは回答が記入された各子どものうち、小学生以下の子ども（合計500人分）についてのみ回答する設問を集計した。

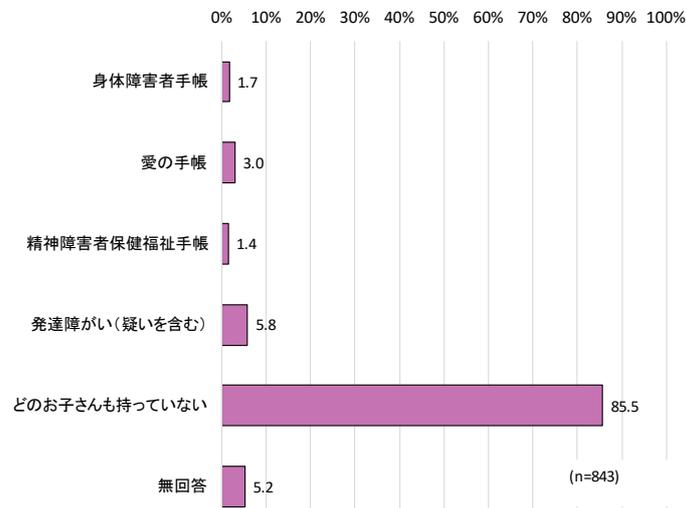
¹¹⁷ 各回答者に、一緒に暮らしていて生計を共にしているお子さん最大4人までについて尋ねており、ここでは回答が記入された各子どものうち、中学校卒業後の子ども（合計498人分）についてのみ回答する設問を集計した。

⑤子どもの障害者手帳等の有無

家庭にいる全ての子どもについて障害者手帳の有無を尋ねた設問に対して、「発達障がい（疑いを含む）」が5.8%、「愛の手帳」が3.0%、「身体障害者手帳」が1.7%、「精神障害者保健福祉手帳」が1.4%であった。

設問 9 あなたのご家庭の全てのお子さんについて、障害者手帳等の有無を教えてください。（MA）

図表 2-2-2-6 子どもの障害者手帳等の有無

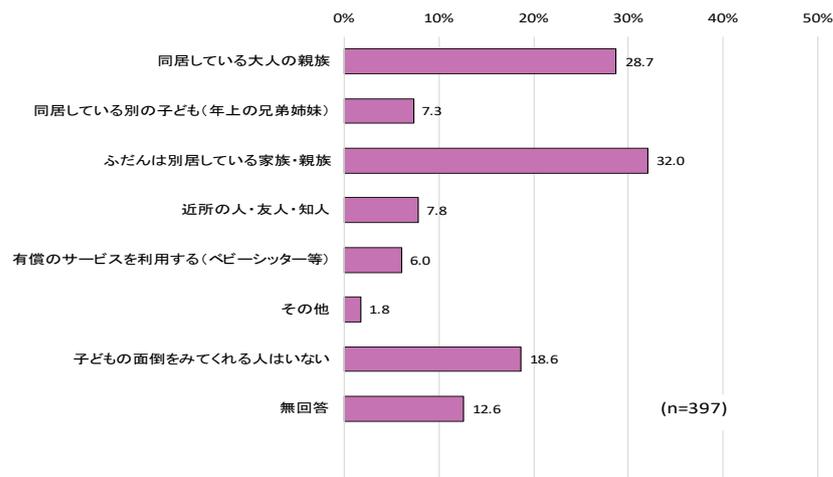


⑥子どもの面倒をみてくれる人の有無

「病気の時や不在の時に、小学生以下のお子さんの面倒をみてくれる人はいますか」と尋ねた設問に対して、「ふだんは別居している家族・親戚」が32.0%、「同居している大人の親族」が28.7%であった。また、「子どもの面倒をみてくれる人はいない」は18.6%であった。

設問 10 あなたが病気の時や不在の時に、小学生以下のお子さんの面倒をみてくれる人はいますか。（MA）

図表 2-2-2-7 子どもの面倒をみてくれる人の有無

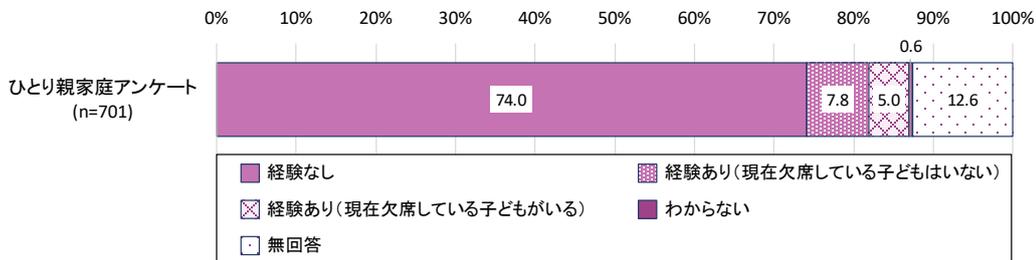


⑦不登校等の経験の有無

小学生以上の子どもの不登校等の経験の有無を尋ねた設問に対して、「経験あり（現在欠席している子どもはいない）」は7.8%、「経験あり（現在欠席している子どもがいる）」は5.0%であった。

設問 11 小学生以上のお子さんが年間30日以上学校を欠席した経験はありますか。（SA）

図表 2-2-2-8 不登校等の経験の有無



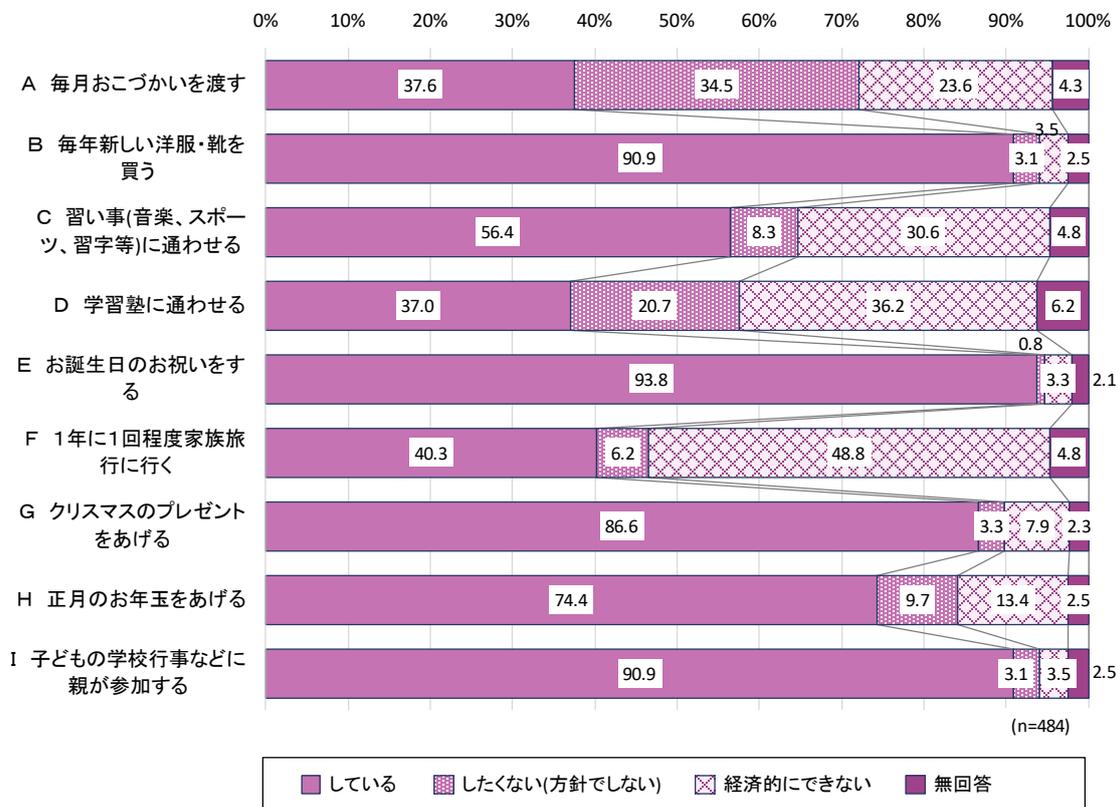
⑧子どもに関する消費

子どもに関する消費について尋ねた設問に対して、「毎月おこづかいを渡す」については、「経済的にできない」の回答が23.6%であった。

同様に、「経済的にできない」の回答は、「1年に1回程度家族旅行に行く」は48.8%、「学習塾に通わせる」は36.2%、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」は30.6%、「正月のお年玉をあげる」は13.4%、「クリスマスのプレゼントをあげる」は7.9%、「毎年新しい洋服・靴を買う」では3.5%、「子どもの学校行事などに親が参加する」は3.5%、「お誕生日のお祝いをする」は3.3%であった。

設問 12 あなたのご家庭では、次のことをしていますか。（SA）

図表 2-2-2-9 子どもに関する消費

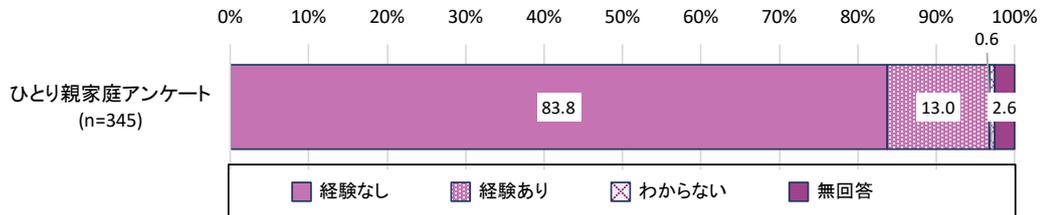


⑨高校・大学等の中退経験の有無

子どもの高校・大学等の中退経験の有無を尋ねた設問に対して、「経験あり」の回答が13.0%であった。

設問 13 中学校を卒業したお子さんが、高校・大学等の中退した経験はありますか。(SA)

図表 2-2-2-10 高校・大学等の中退経験の有無

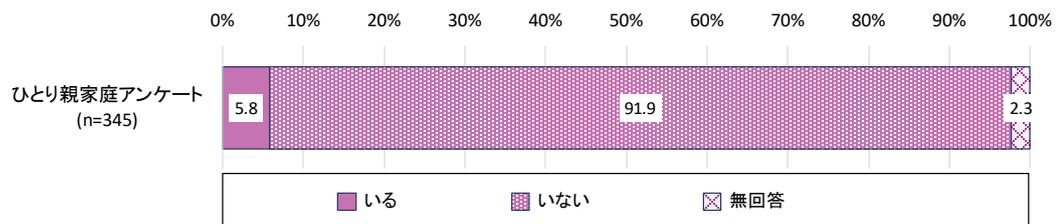


⑩ニート状態の子どもの有無

中学校を卒業した子どものうち、いわゆるニートの状態の子どもがいるかを尋ねた設問に対して、「いる」の回答が5.8%であった。

設問 14 中学校を卒業したお子さんのうち、いわゆるニートの状態のお子さんはいらっしゃいますか。(SA)

図表 2-2-2-11 ニート状態の子どもの有無



(3)就業に関すること

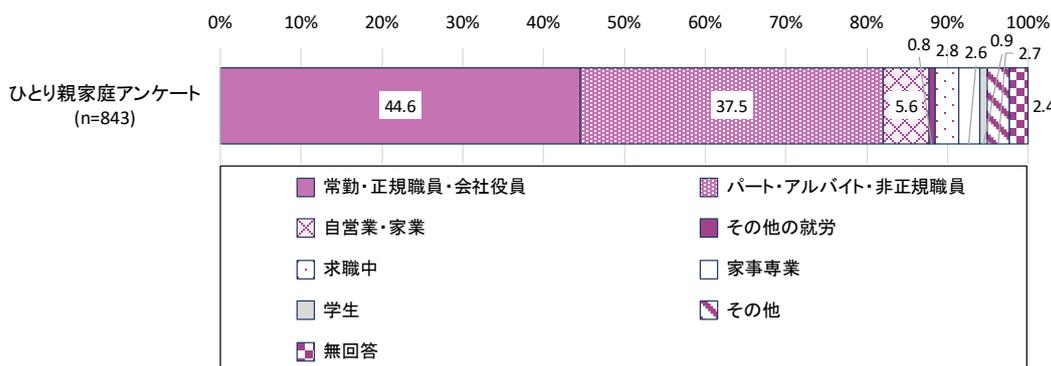
①就業形態

新型コロナウイルス感染症拡大前（2020年2月頃）の就労状況を尋ねた設問に対して、「常勤・正規社員・会社役員」の回答が44.6%、「パート・アルバイト・非正規職員」の回答が37.5%であった。

現在（2020年9月1日時点）の就労状況について尋ねた設問に対しては、「常勤・正規職員・会社役員」の回答が44.1%、「パート・アルバイト・非正規職員」の回答が35.0%であった。

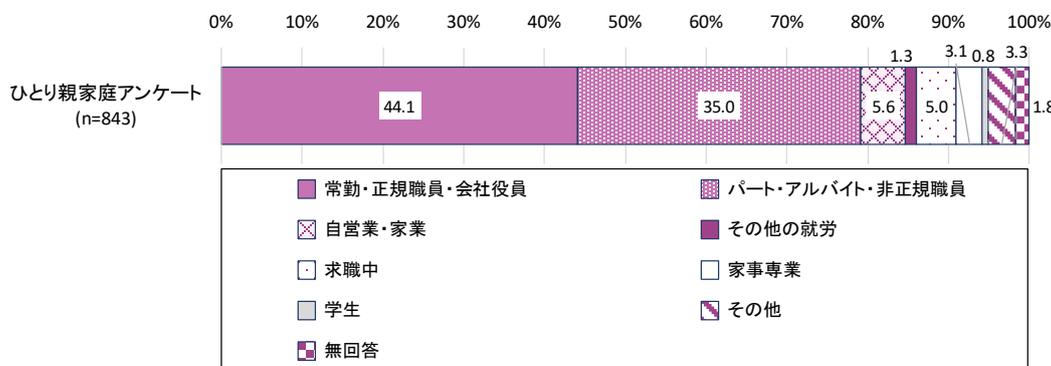
設問 15(1) A あなたの就労状況についてうかがいます。（A）新型コロナウイルス感染症拡大前（2020年2月頃）の就労状況について、以下の選択肢の中から最も近いものをお選びください。（SA）

図表 2-2-3-1 主な仕事の就業形態（A）新型コロナウイルス感染症拡大前（2020年2月頃）



設問 15(1) B あなたの就労状況についてうかがいます。（B）現在（2020年9月1日時点）の就労状況について、以下の選択肢の中から最も近いものをお選びください。（SA）

図表 2-2-3-2 主な仕事の就業形態（B）現在（2020年9月1日時点）

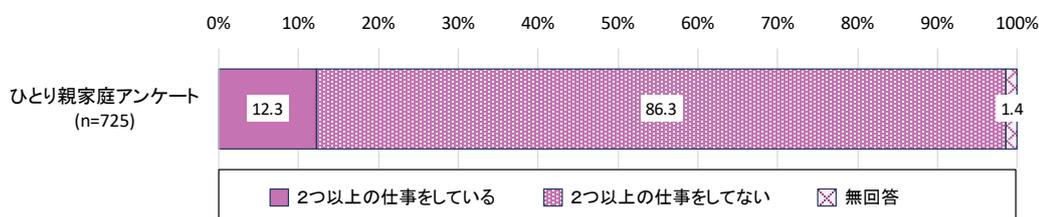


②2つ以上の仕事の有無

「現在（9月1日時点）2つ以上の仕事をしていますか」という設問に対して、「2つ以上の仕事をしている」と回答した割合は12.3%、「2つ以上の仕事をしてない」と回答した割合は86.3%であった。

設問 15(2) あなたは、現在（9月1日時点）2つ以上の仕事をしていますか。（SA）

図表 2-2-3-3 2つ以上の仕事の有無

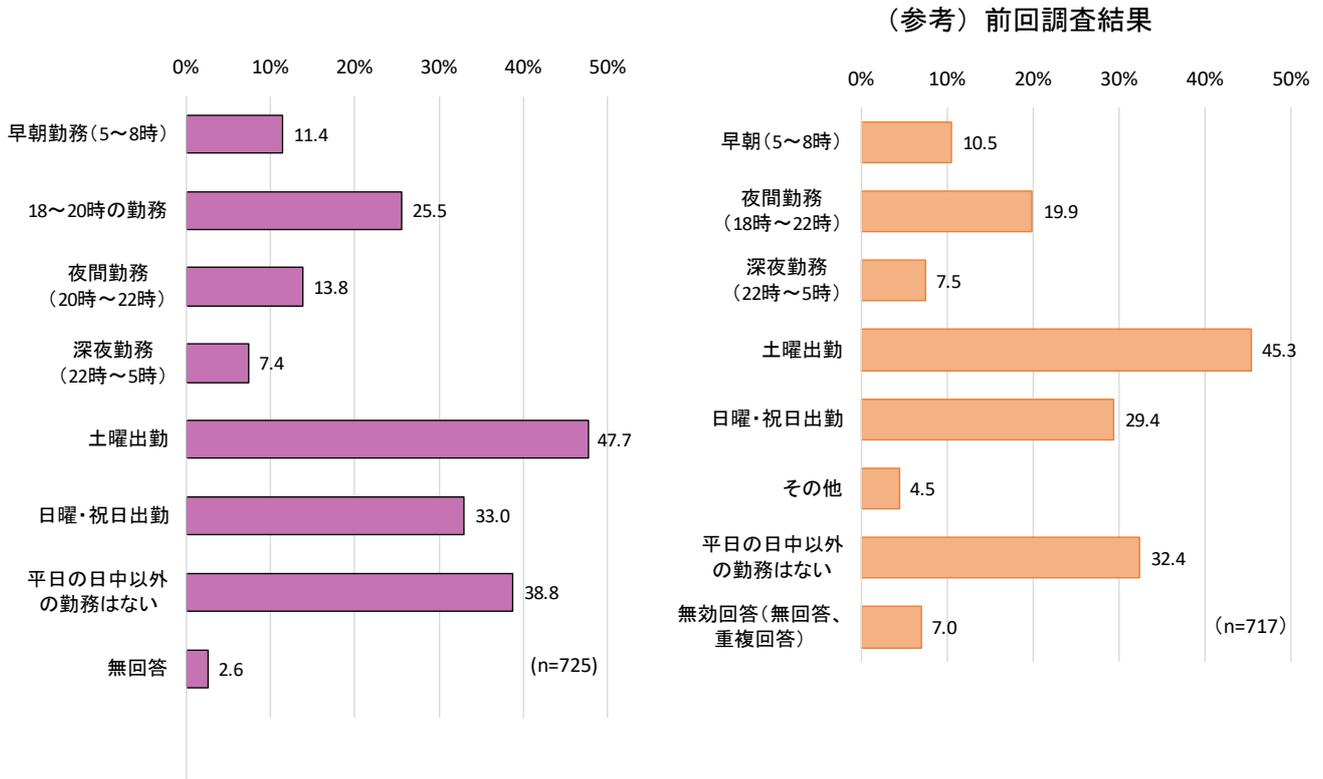


③早朝・深夜・休日における勤務の有無

働いている場合に、平日の日中以外の勤務もあるかを尋ねた設問に対して、「土曜出勤」の回答が47.7%、「日曜・祝日出勤」の回答が33.0%、「18～20時の勤務」の回答が25.5%であった。また、「平日の日中以外の勤務はない」の回答は38.8%であった。
 前回調査結果と比較すると、「平日日中以外の勤務はない」の回答割合が高くなっていた。

設問 15(3) あなたは、平日の日中以外の勤務もありますか。(MA)

図表 2-2-3-4 早朝・深夜・休日における勤務の有無



④仕事をしていない理由

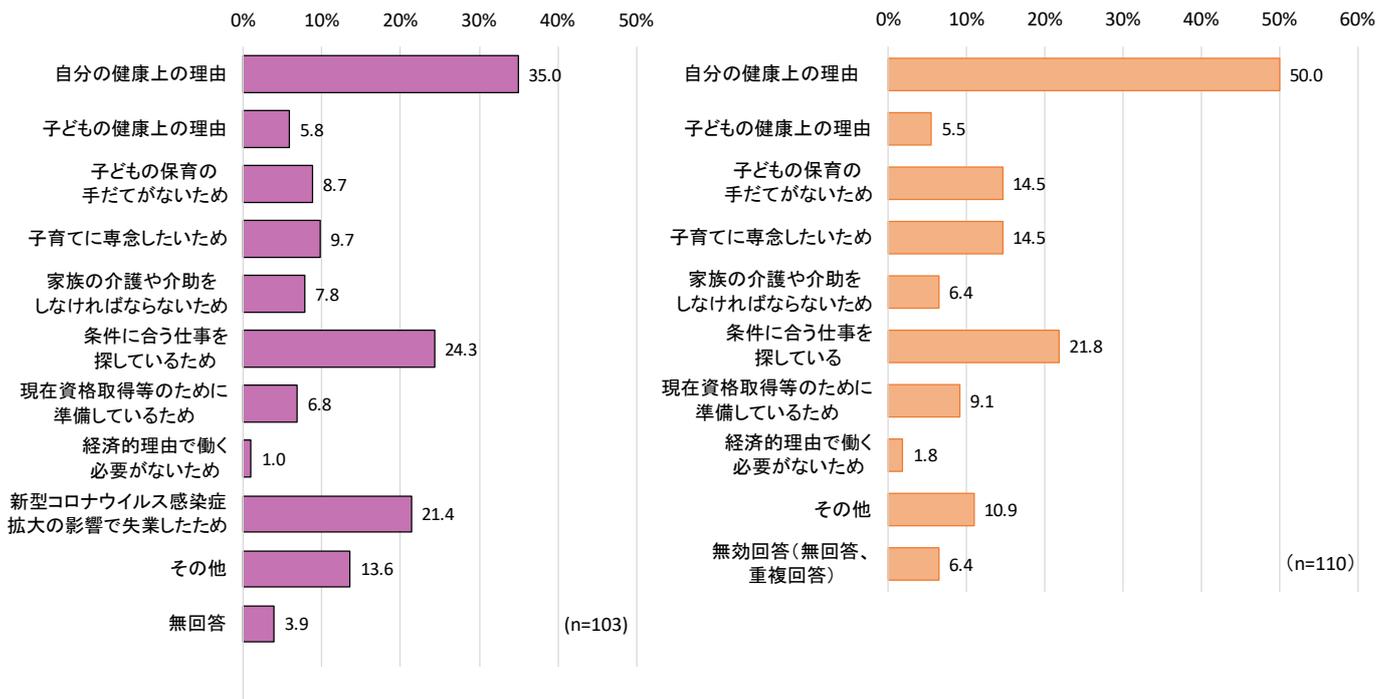
働いていない場合に、その理由を尋ねる設問に対して、「自分の健康上の理由」が 35.0%、「条件に合う仕事を探しているため」が 24.3%、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で失業したため」が 21.4%であった。

前回調査結果と比較すると、「自分の健康上の理由」の回答割合が低くなっていた。

設問 15(4) 現在仕事をしていない理由は何ですか。(MA)

図表 2-2-3-5 仕事をしていない理由

(参考) 前回調査結果

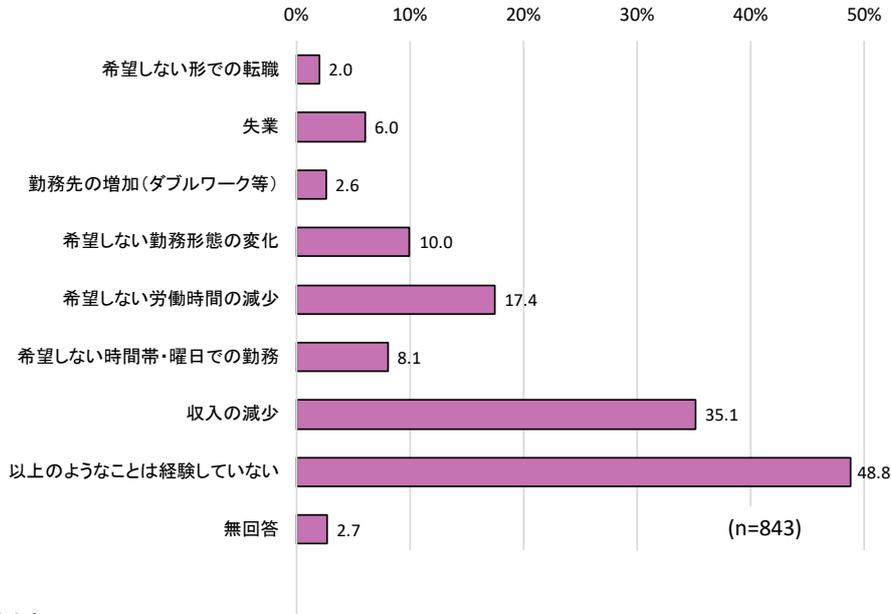


⑤就業への新型コロナウイルス感染症拡大の影響

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経験した就業への影響について尋ねた設問に対して、「収入の減少」の回答が35.1%、「希望しない労働時間の減少」の回答が17.4%、「希望しない勤務形態の変化」の回答が10.0%、「失業」の回答が6.0%であった。

設問 16(新設) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたは以下のようなことを経験しましたか。(MA)

図表 2-2-3-6 就業への新型コロナウイルス感染症拡大の影響

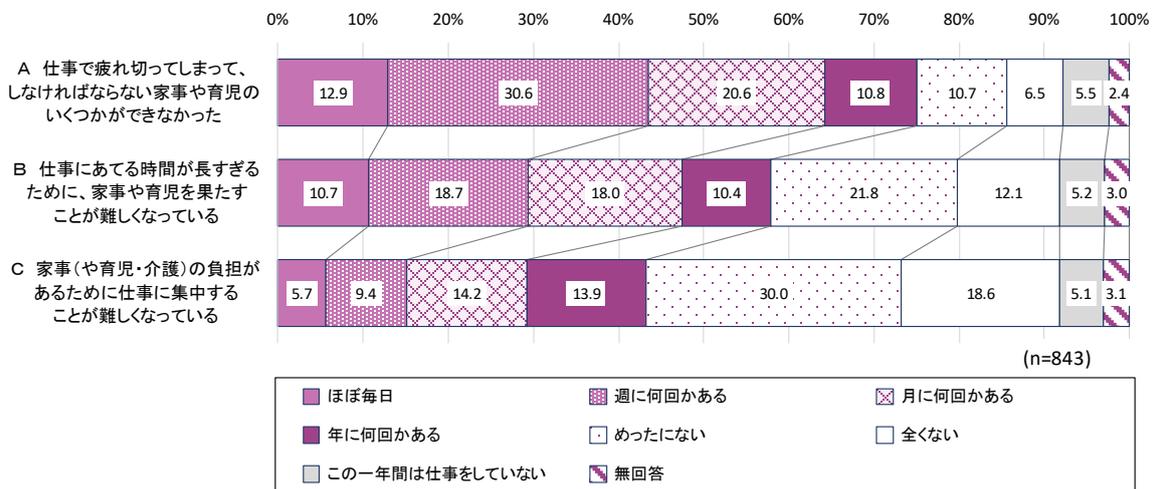


⑥仕事と家庭生活のバランス

働いている場合に、仕事と家庭生活のバランスについて尋ねた設問に対して、「仕事で疲れ切ってしまうと、しなければならない家事や育児のいくつかができなかった」について「ほぼ毎日」と「週に何回かある」を合わせた回答割合は43.5%であった。また、「仕事にあてる時間が長すぎるために、家事や育児を果たすことが難しくなっている」ことが「ほぼ毎日」「週に何回かある」と回答した割合は合わせて29.4%、「家事(や育児・介護)の負担があるために仕事に集中することが難しくなっている」ことが「ほぼ毎日」「週に何回かある」と回答した割合は合わせて15.1%であった。

設問 17 仕事と家庭生活のバランスについて、この1年間に以下のようなことがどのくらい起きていますか。(SA)

図表 2-2-3-7 仕事と家庭生活のバランス(この1年間に起きていること)



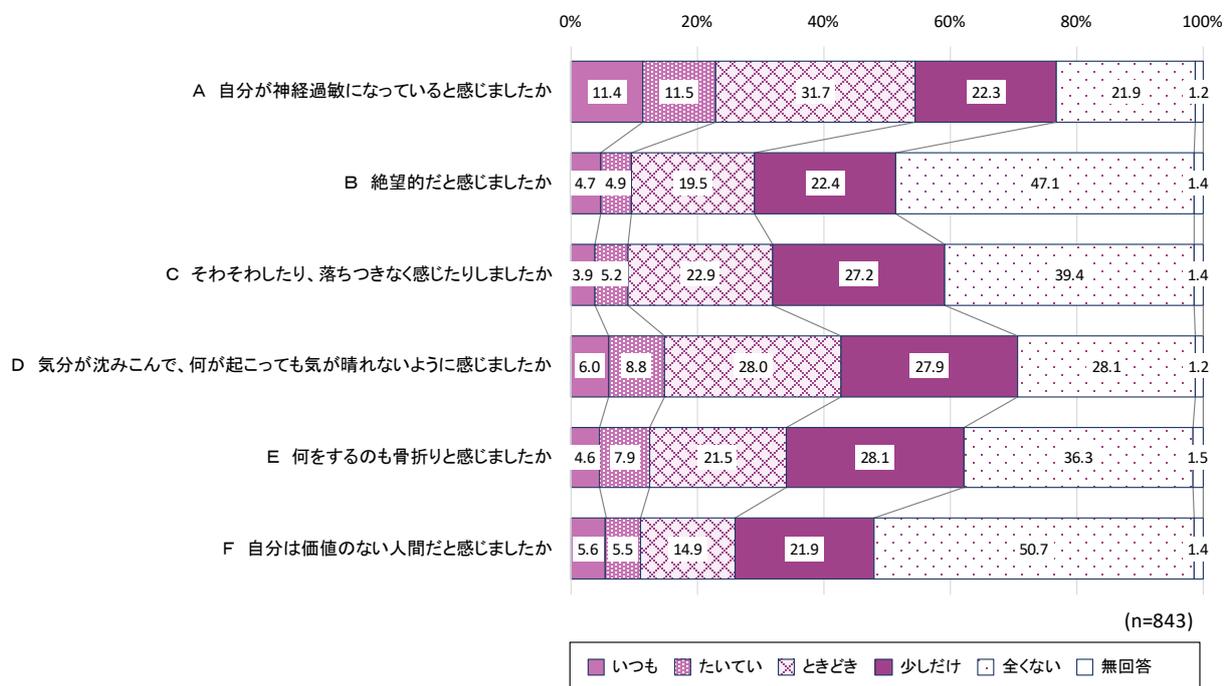
(4)健康に関すること

①日常における意識

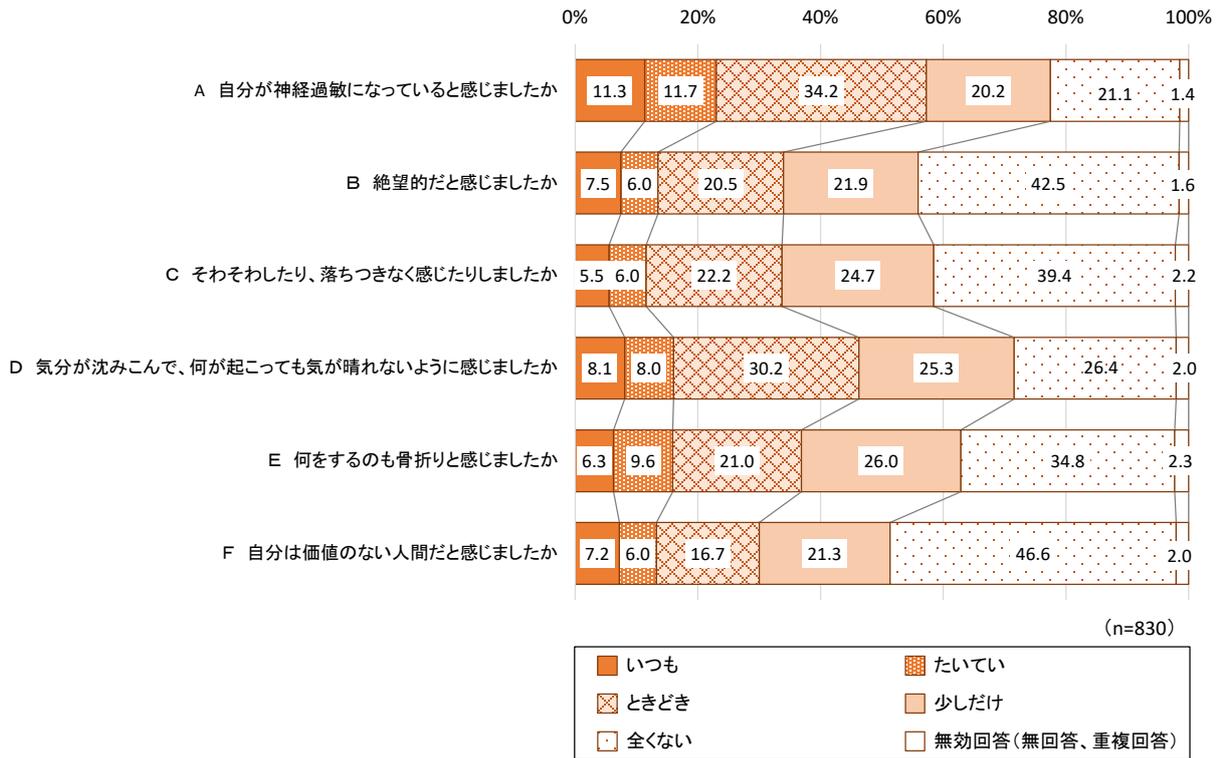
過去1か月間に「自分が神経過敏になっていると感じましたか」と尋ねた設問に対して、「いつも」「たいてい」と回答した割合は合わせて22.9%であった。また、「絶望的だと感じましたか」について「いつも」「たいてい」と回答した割合は合わせて9.6%、「そわそわしたり、落ちつきなく感じたりしましたか」は9.1%、「気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか」は14.8%、「何をするのも骨折りと感じましたか」は12.5%、「自分は価値のない人間だと感じましたか」は11.1%であった。

設問 18 次のそれぞれの質問について、あなたは、
過去1か月の間にどのように感じましたか。(SA)

図表 2-2-4-1 日常における意識（過去1か月の間に感じたこと）

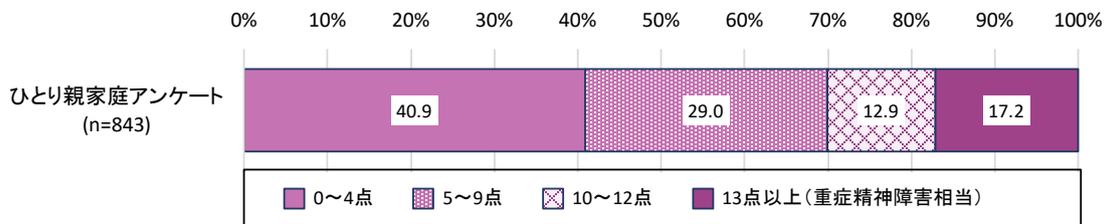


(参考) 前回調査結果



「自分が神経過敏になっていると感じましたか」から「自分は価値のない人間だと感じましたか」までの6つの項目から回答者のうつ傾向を測る指標 (K 6¹¹⁸) を算出したところ、「10～12点」であったのは 12.9%、「13点以上 (重症精神障害相当)」であったのは 17.2%であった^{119, 120}。

図表 2-2-4-2 うつ傾向指標 (K 6) の分布 (ひとり親)



¹¹⁸ 厚生労働省「国民生活基礎調査」の用語集によれば、「K 6は米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。(中略) 合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性がある」とされている。(https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21-yougo_2019.pdf, 2021年3月19日最終閲覧)

¹¹⁹ 「自分が神経過敏になっていると感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわしたり、落ちつきなく感じたりしましたか」「気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」の6項目それぞれについて、「まったくない」を0点、「少しだけ」を1点、「ときどき」を2点、「たいてい」を3点、「いつも」を4点とし、すべてを足し上げて0から24点の指標を作成した。また、6項目すべてに回答があった票のみを集計している。なお、K 6の作成方法および点数区分については、東京都健康福祉局 (2017)『東京都子供の生活実態調査報告書【小中高校生等調査】』「第5部 子供の健康と自己肯定感」(p. 141)を参照した。

¹²⁰ 脚注120で挙げた東京都調査では、5点以上を「心理的ストレス反応相当」、9点以上および10点以上を「気分・不安障害相当」、13点以上を「重症精神障害相当」とされている。この区分に従って今回調査結果を集計すると、5点以上が59.1%、9点以上が34.7%、10点以上が30.1%であった。

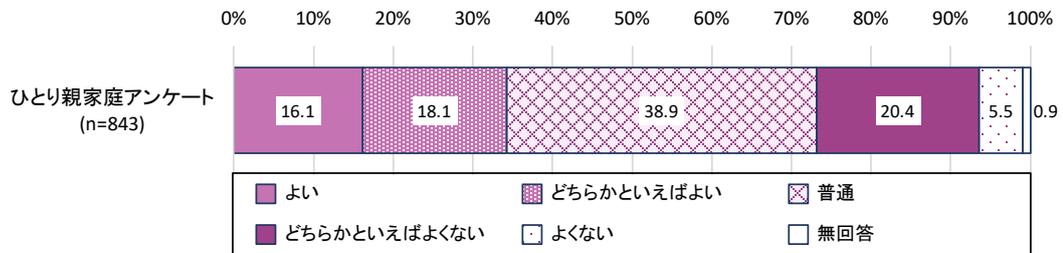
②回答者（保護者）の健康状態

回答者（子どもの保護者）の健康状態を尋ねた設問に対して、「よくない」と「どちらかといえばよくない」の回答割合は合わせて25.9%であった。

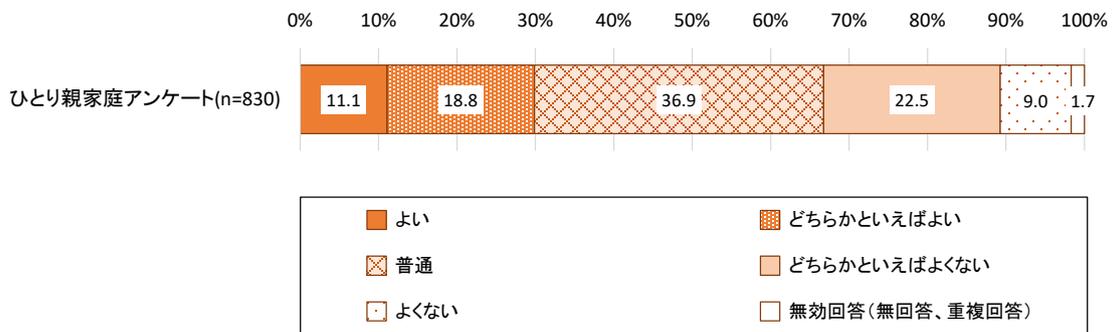
前回調査結果と比較すると、「どちらかといえばよくない」「よくない」の回答割合が低くなっていた。

設問 19 あなたの健康状態について、最も近いものに○をつけてください。（SA）

図表 2-2-4-3 回答者（保護者）の健康状態



(参考) 前回調査結果



(5)資格に関すること

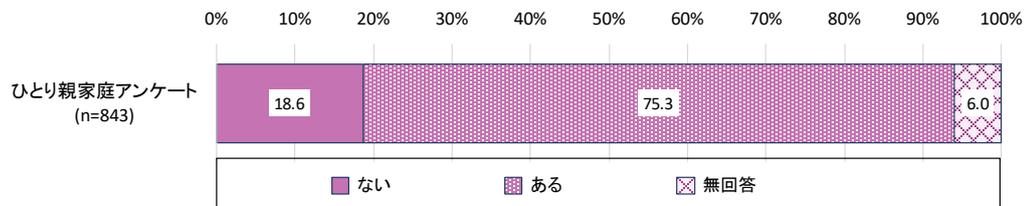
①保有資格

資格の保有状況を尋ねた設問に対して、「ない」は18.6%、「ある」は75.3%であった。

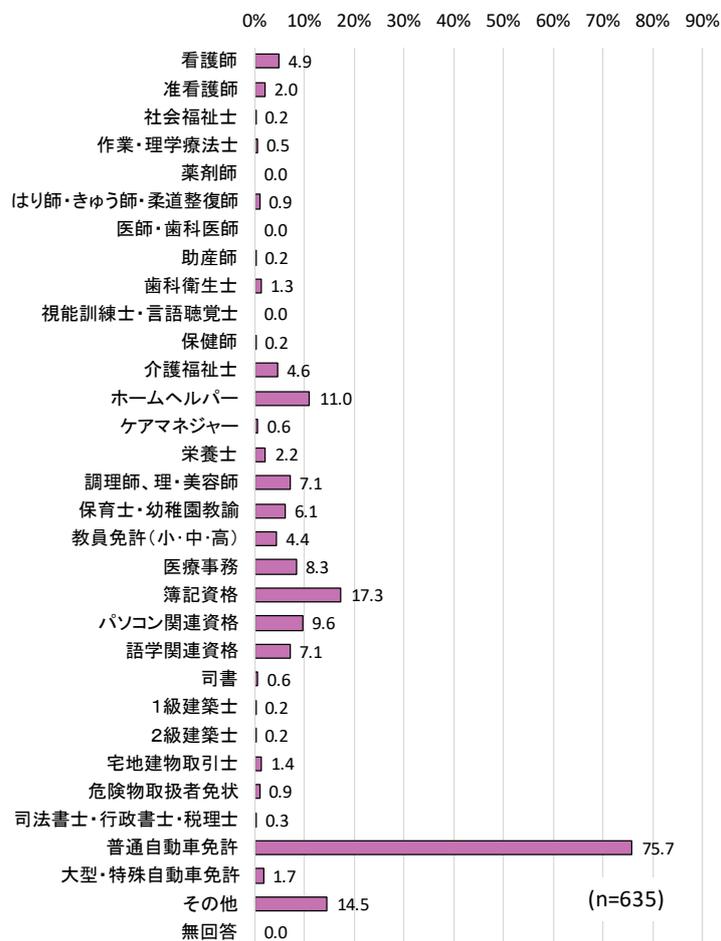
また、資格の内容としては、「普通自動車免許」が75.7%、「簿記資格」が17.3%、「ホームヘルパー」が11.0%、「パソコン関連資格」が9.6%、「医療事務」が8.3%であった。

設問 20(1) 上記の資格の中で、あなたが持っているものを教えてください。(SA・MA)

図表 2-2-5-1 保有資格の有無



図表 2-2-5-2 保有資格の内容



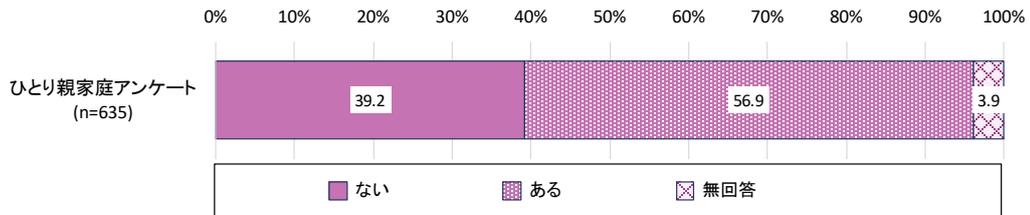
②役に立っている（いた）資格

持っている資格のうち仕事に役に立っている（いた）ものがあるかを尋ねた設問に対して、「ない」が39.2%、「ある」が56.9%であった。

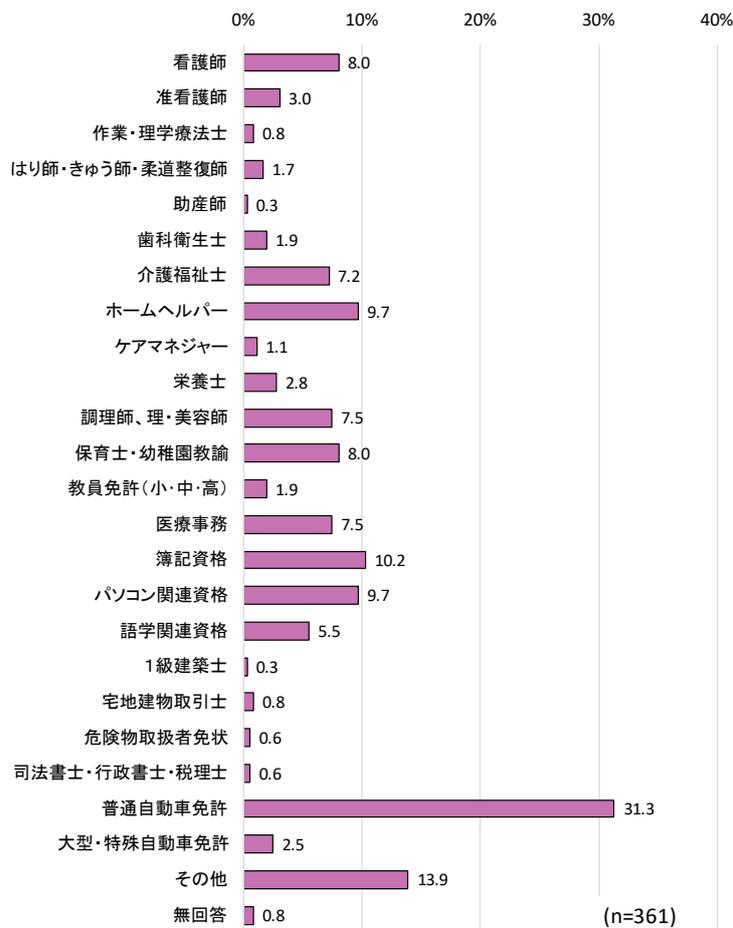
また、役に立っている（いた）資格があると回答した方にその内容について尋ねたところ、「普通自動車免許」が31.3%、「簿記資格」が10.2%、「ホームヘルパー」「パソコン関連資格」が9.7%、「看護師」「保育士・幼稚園教諭」が8.0%であった。

設問 20(2) 持っている資格のうち、仕事に役立っている（いた）ものがありますか。（SA・MA）

図表 2-2-5-3 役に立っている（いた）資格の有無



図表 2-2-5-4 仕事に役立っている（いた）資格



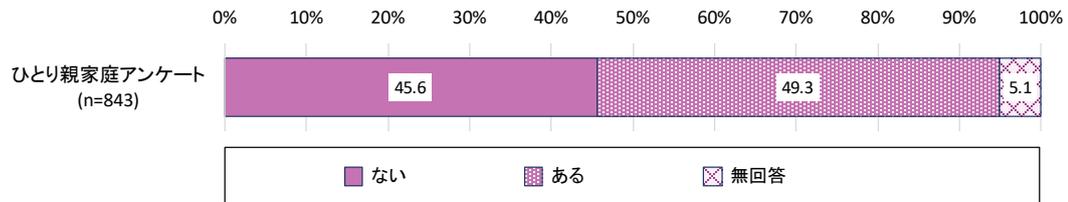
③今後取りたい資格

今後取りたいと思う資格があるかどうか尋ねた設問に対して、「ない」と回答した割合は45.6%、「ある」と回答した割合は49.3%であった。

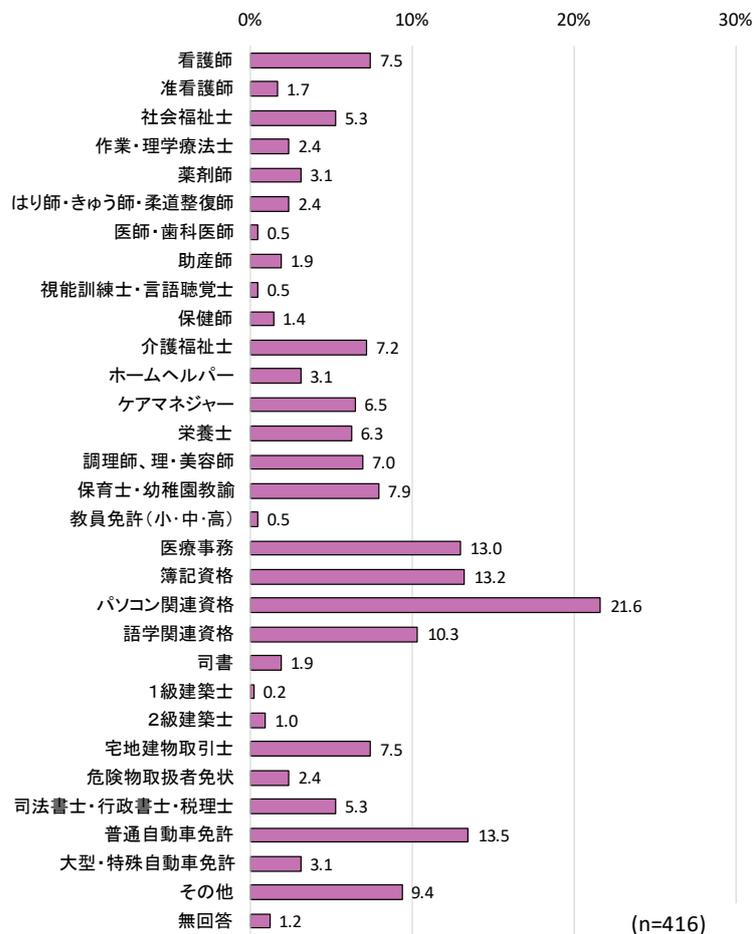
また、取りたいと思う資格の内容については、「パソコン関連資格」が21.6%、「普通自動車免許」が13.5%、「簿記資格」が13.2%、「医療事務」が13.0%、「保育士・幼稚園教諭」が7.9%であった。また、「その他」と回答した割合は9.4%であった。

設問 20(3) 上記の資格の中で、今後、取りたいと思うものはありますか。(SA・MA)

図表 2-2-5-5 今後取りたい資格の有無



図表 2-2-5-6 今後取りたい資格の内容



(6)子どものこと

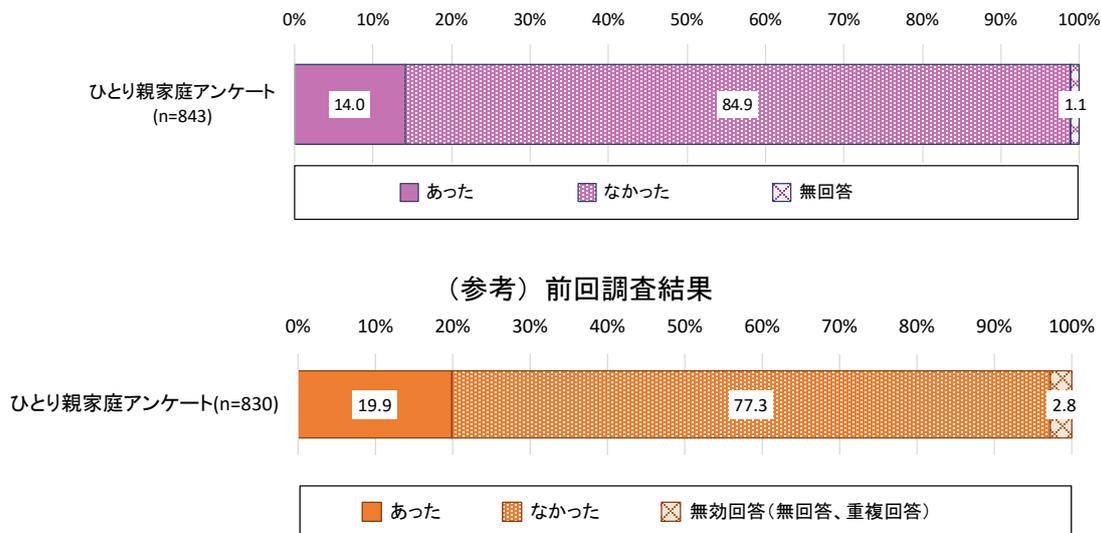
①医療機関の受診状況

「過去1年間に、お子さんについて病気や怪我の治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、実際には受診しなかったことがありますか」と尋ねた設問に対して、「あった」の回答は14.0%であった。

前回調査結果と比較すると、受診させなかったことが「あった」の回答割合が低くなっていた。

設問 21(1) あなたのご家庭では、過去1年間に、お子さんについて病気や怪我の治療のために病院や診療所を受診させたほうがよいと思ったのに、実際には受診させなかったことがありますか。(SA)

図表 2-2-6-1 病院や診療所を受診させたほうがよいと思ったが、受診させなかった経験

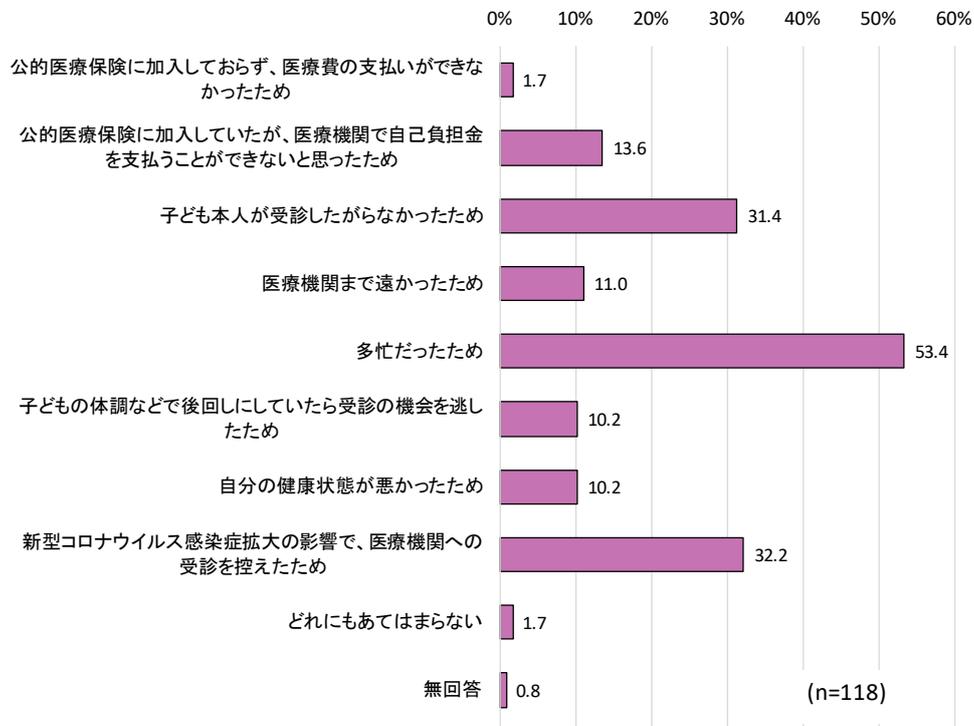


また、受診しなかった理由について尋ねた設問に対しては、「多忙だったため」が 53.4%、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、医療機関への受診を控えたため」が 32.2%、「子ども本人が受診しなかったため」が 31.4%であった。

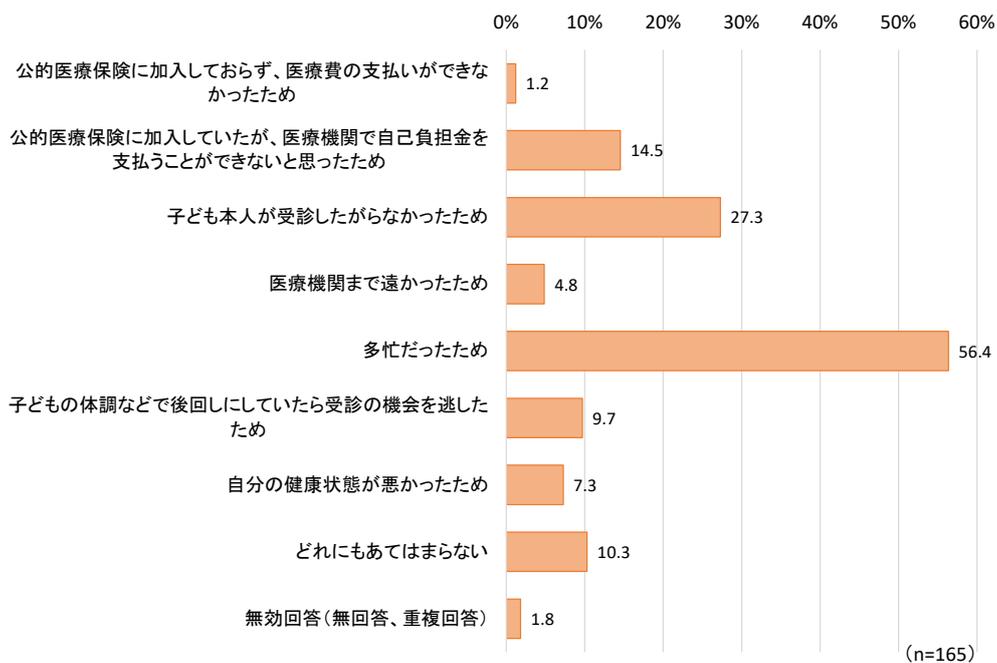
前回調査結果と比較すると、「医療機関まで遠かったため」の回答割合が高くなっていた。

設問 21 (2) その理由は何でしたか。(MA)

図表 2-2-6-2 受診させなかった理由



(参考) 前回調査結果



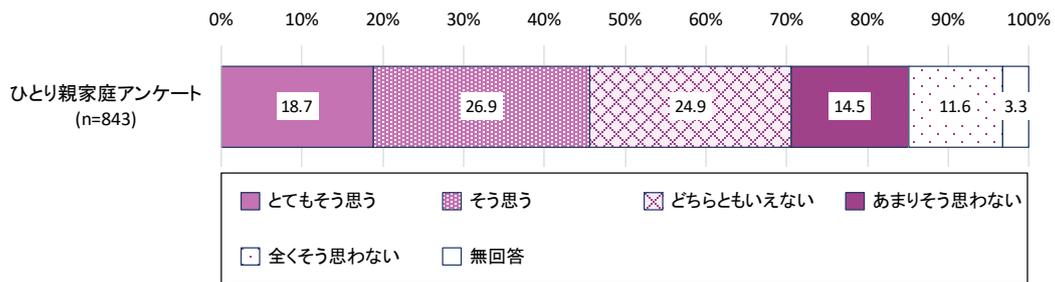
②臨時休校・休業の影響

A お子さんの学力が低下した

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんの学力が低下した」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて45.6%であった。

設問 22 A (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-3 お子さんの学力が低下した

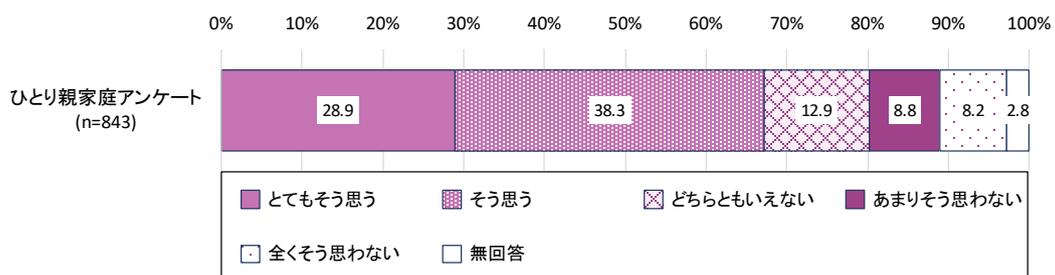


B お子さんの体力が低下した

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんの体力が低下した」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて67.2%であった。

設問 22 B (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-4 お子さんの体力が低下した

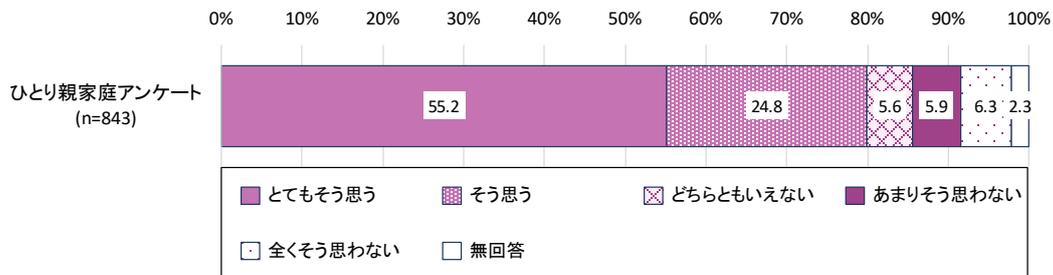


C お子さんがゲームやスマホをみる時間が増えた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんがゲームやスマホをみる時間が増えた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて80.0%であった。

設問 22C (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-5 お子さんがゲームやスマホをみる時間が増えた

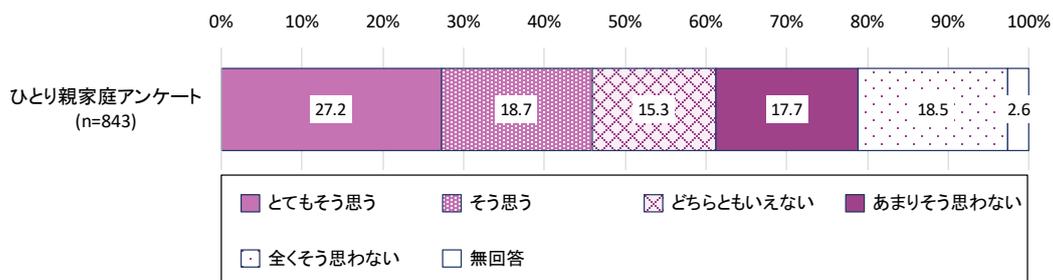


D お子さんが一人でいる時間が多すぎた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんが一人でいる時間が多すぎた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて45.9%であった。

設問 22D (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-6 お子さんが一人でいる時間が多すぎた

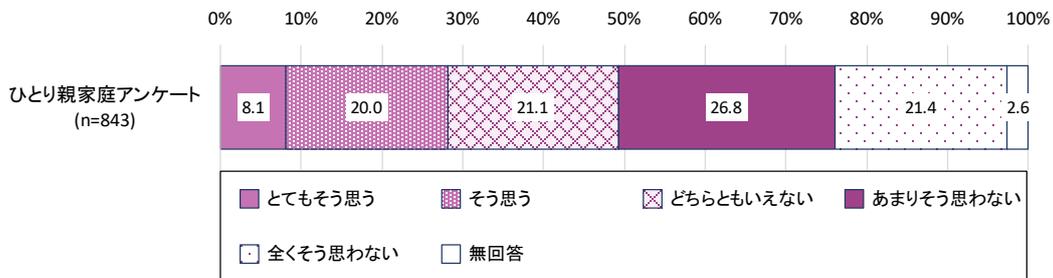


E お子さんが落ち込んだ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんが落ち込んだ」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて28.1%であった。

設問 22 E (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-7 お子さんが落ち込んだ

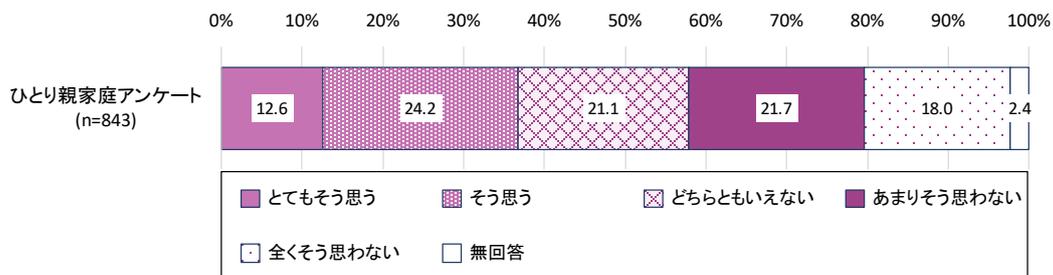


F お子さんが不安を感じていた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんが不安を感じていた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて36.8%であった。

設問 22 F (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-8 お子さんが不安を感じていた

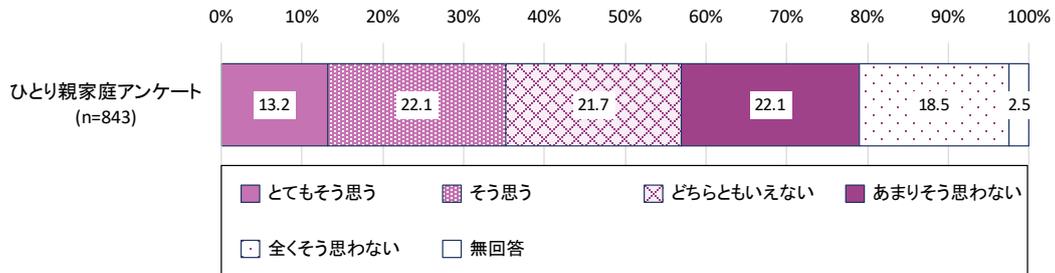


G お子さんが寂しそうだった

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんが寂しそうだった」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて35.3%であった。

設問 22G (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-9 お子さんが寂しそうだった

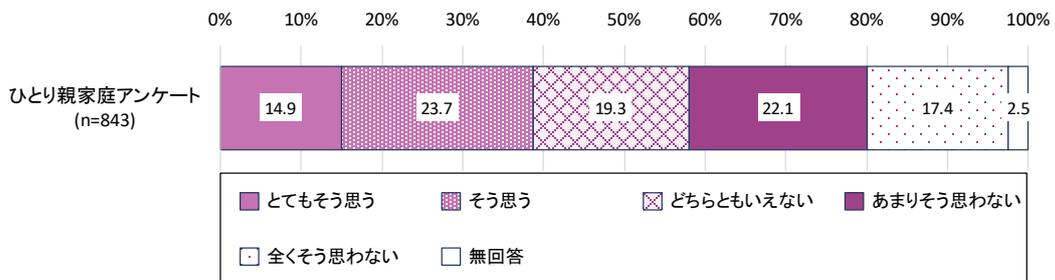


H お子さんがイライラしていた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんがイライラしていた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて38.6%であった。

設問 22H (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-10 お子さんがイライラしていた

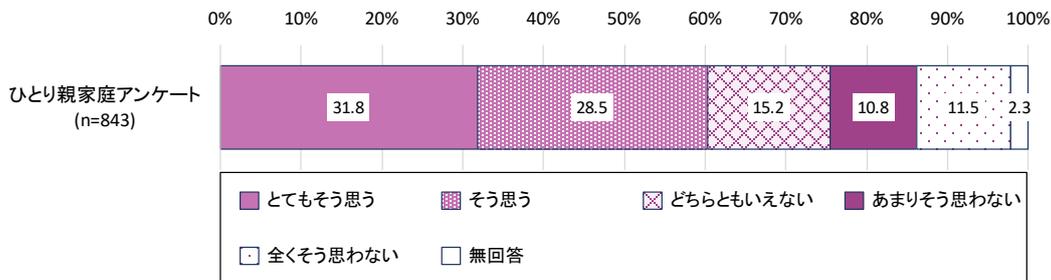


I お子さんと過ごす時間が増えた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんと過ごす時間が増えた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて60.3%であった。

設問 22 I (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-11 お子さんと過ごす時間が増えた

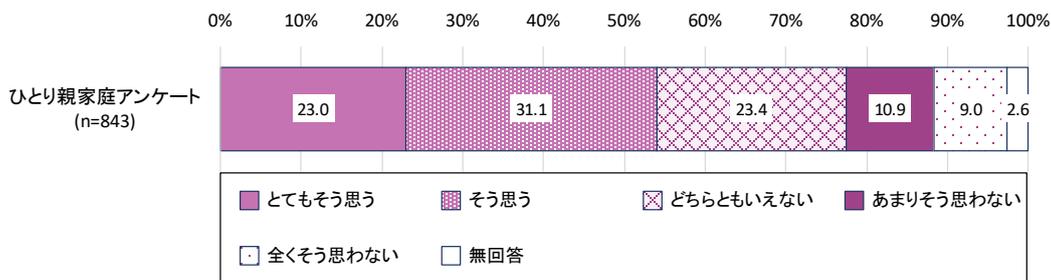


J お子さんと話す時間が増えた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんと話す時間が増えた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて54.1%であった。

設問 22 J (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-12 お子さんと話す時間が増えた

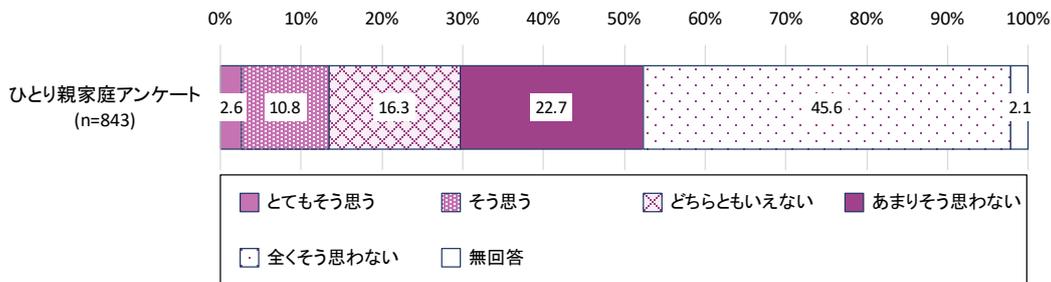


K お子さんに手をあげたり、きつくしかったりした

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんに手をあげたり、きつくしかったりした」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて13.4%であった。

設問 22K (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-13 お子さんに手をあげたり、きつくしかったりした

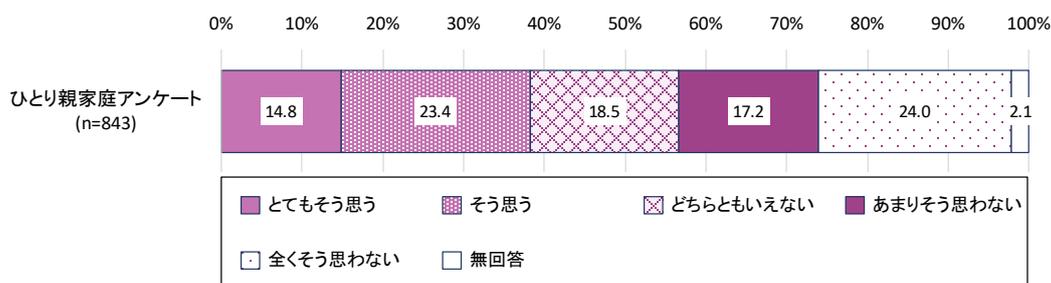


L 家庭内でのストレスが高まった

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「家庭内でのストレスが高まった」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて38.2%であった。

設問 22L (新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-14 家庭内でのストレスが高まった

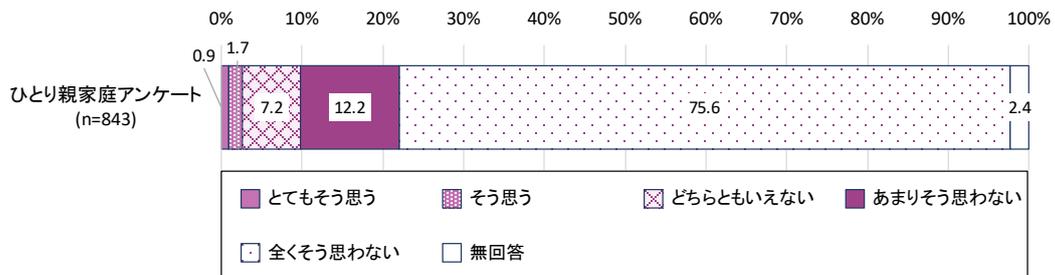


M 家庭内で暴力が増えた

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「家庭内で暴力が増えた」かを尋ねた設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は合わせて2.6%であった。

設問 22M(新設) 大田区においては、3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、多くの教育機関や保育施設が臨時休校・休業となりました。これによるお子さんへの影響にはどのようなものがありましたか。(SA)

図表 2-2-6-15 家庭内で暴力が増えた



(7) 悩み事・相談相手等に関すること

① 現在の悩み事

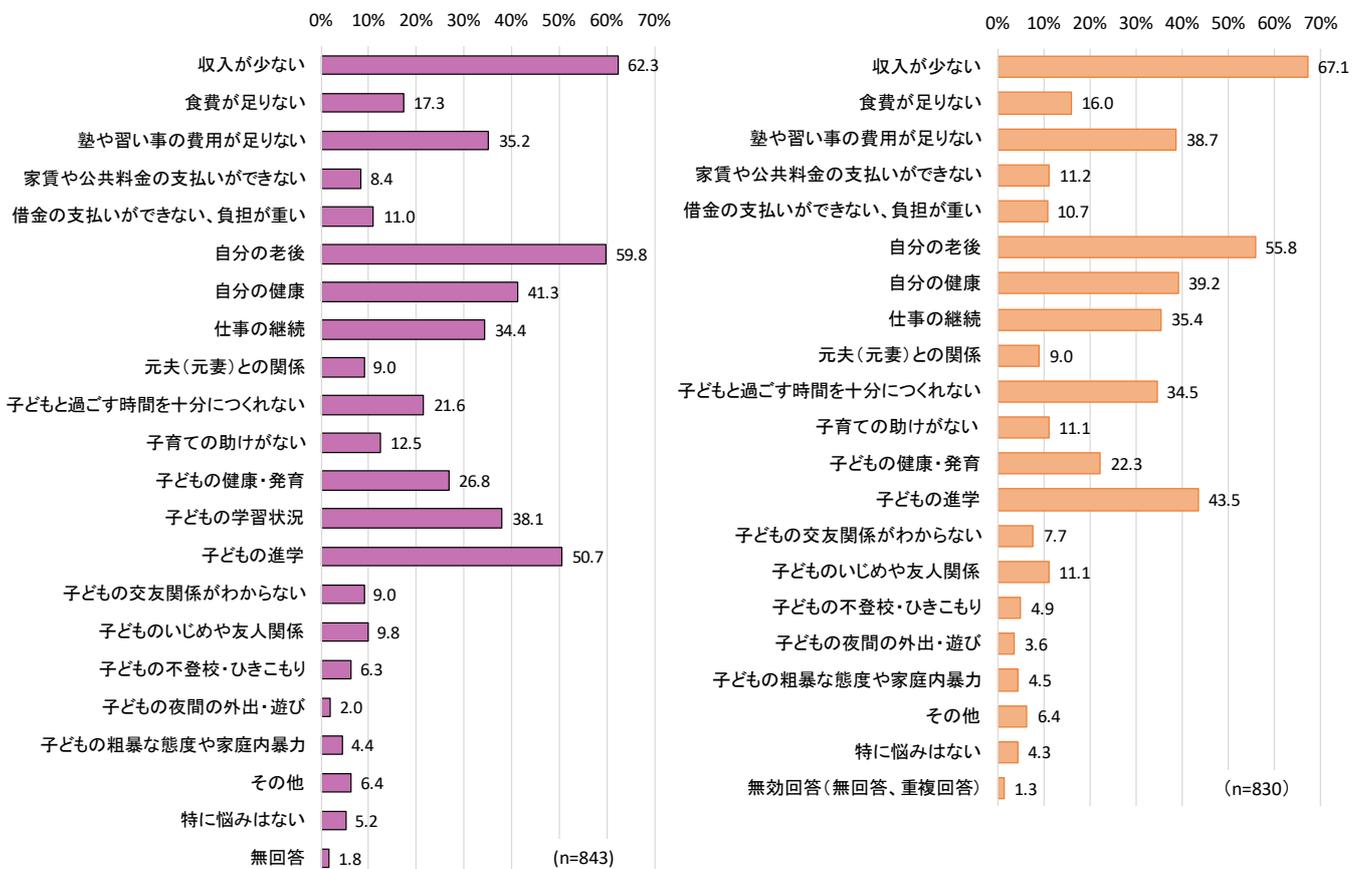
現在の悩み事について尋ねた設問に対して、「収入が少ない」と回答した割合は 62.3%、「自分の老後」と回答した割合は 59.8%、「子どもの進学」と回答した割合は 50.7%、「自分の健康」と回答した割合は 41.3%であった。

前回調査結果と比較すると、「収入が少ない」「子どもと過ごす時間を十分につくれない」の回答割合は低く、「子どもの健康・発育」「子どもの進学」の回答割合は高くなっていた。

設問 23 現在、あなたは、次のようなことで悩んでいますか。(MA)

図表 2-2-7-1 現在の悩み事

(参考) 前回調査結果



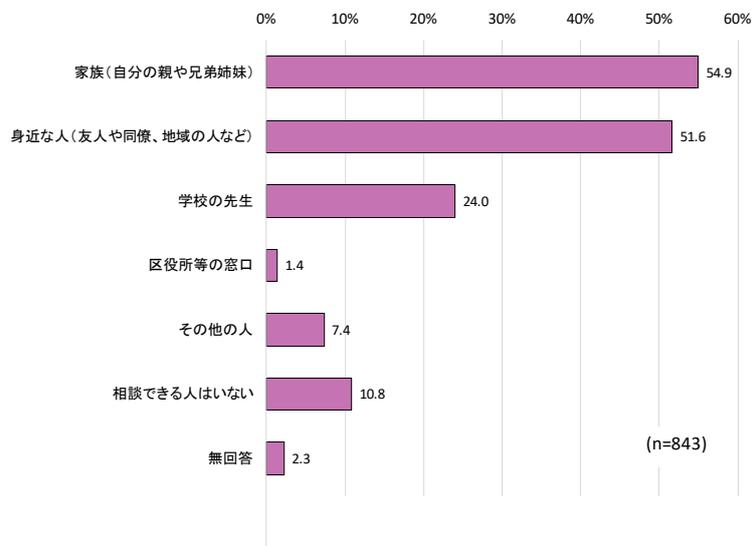
②相談内容別の相談相手の有無

A 子どものしつけや勉強・就労

「子どものしつけや勉強・就労」について相談する相手を尋ねたところ、「家族（自分の親や兄弟姉妹）」が54.9%、「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が51.6%であった。なお、「相談できる人はいない」と回答した割合は10.8%であった。

設問 24A あなたは次のことで以下の人に相談しますか。（MA）

図表 2-2-7-2 子どものしつけや勉強・就労

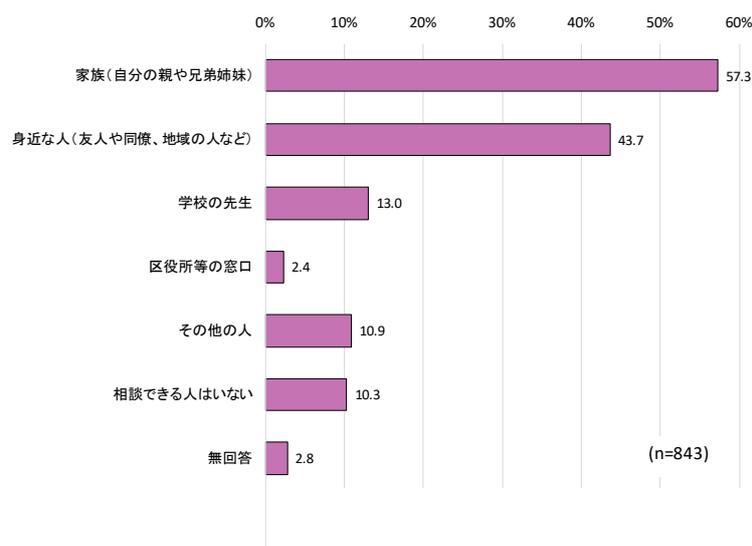


B 子どもの健康・発育

「子どもの健康・発育」について相談する相手を尋ねたところ、「家族（自分の親や兄弟姉妹）」が57.3%、「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が43.7%、であった。なお、「相談できる人はいない」と回答した割合は10.3%であった。

設問 24B あなたは次のことで以下の人に相談しますか。（MA）

図表 2-2-7-3 子どもの健康・発育

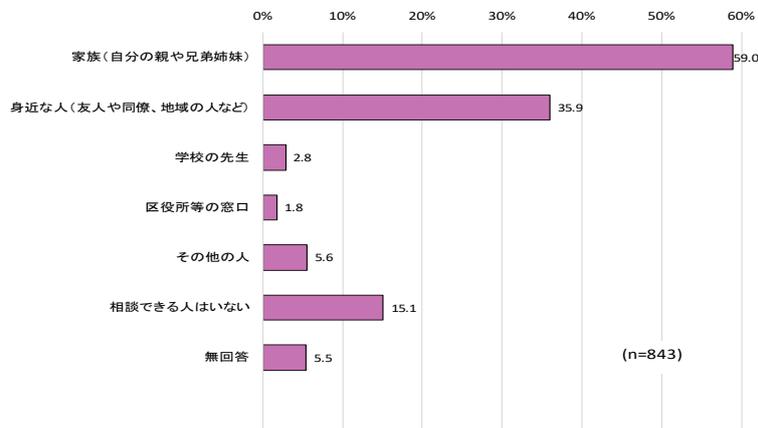


C 看病、介護、子どもの世話

「看病、介護、子どもの世話」について相談する相手を尋ねたところ、「家族（自分の親や兄弟姉妹）」が59.0%「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が35.9%であった。なお、「相談できる人はいない」と回答した割合は15.1%であった。

設問 24C あなたは次のことで以下の人に相談しますか。（MA）

図表 2-2-7-4 看病、介護、子どもの世話

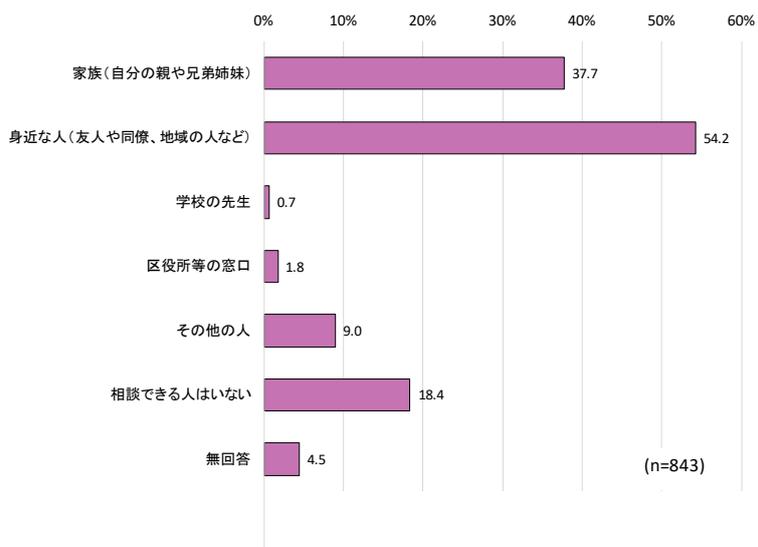


D 自分の仕事に関すること

「看病、自分の仕事に関すること」について相談する相手を尋ねたところ、「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が54.2%、「家族（自分の親や兄弟姉妹）」が37.7%であった。なお、「相談できる人はいない」と回答した割合は18.4%であった。

設問 24D あなたは次のことで以下の人に相談しますか。（MA）

図表 2-2-7-5 自分の仕事に関すること

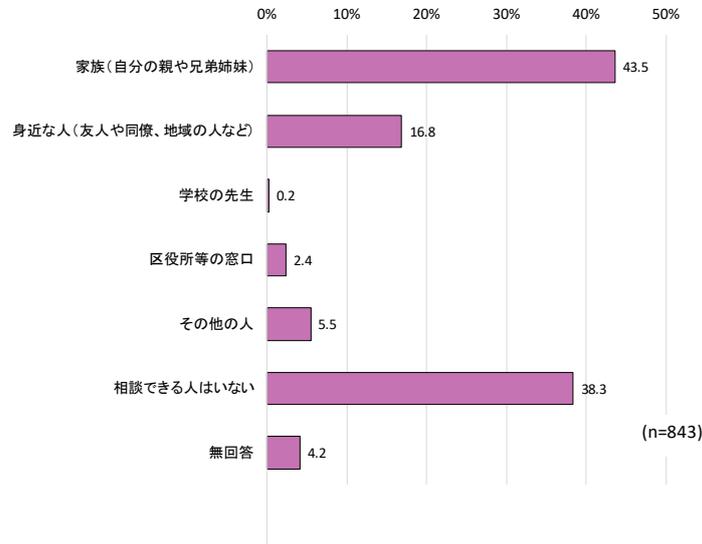


E お金の相談・家計管理

「お金の相談・家計管理」について相談する相手を尋ねたところ、「家族（自分の親や兄弟姉妹）」が43.5%、「相談できる人はいない」が38.3%であった。

設問 24 E あなたは次のことで以下の人に相談しますか。（MA）

図表 2-2-7-6 お金の相談・家計管理

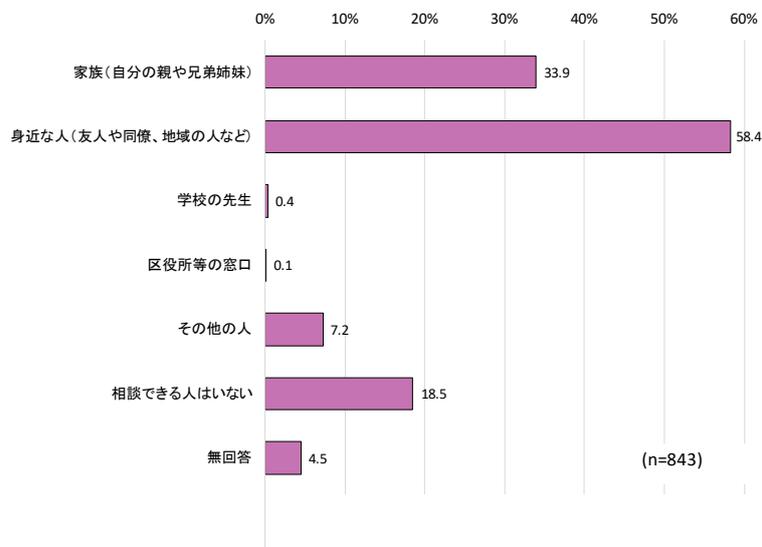


F 人間関係の悩み

「人間関係の悩み」について相談する相手を尋ねたところ、「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が58.4%、「家族（自分の親や兄弟姉妹）」が33.9%であった。なお、「相談できる人はいない」と回答した割合は18.5%であった。

設問 24 F あなたは次のことで以下の人に相談しますか。（MA）

図表 2-2-7-7 人間関係の悩み



G 公的機関への申請や手続きに関すること

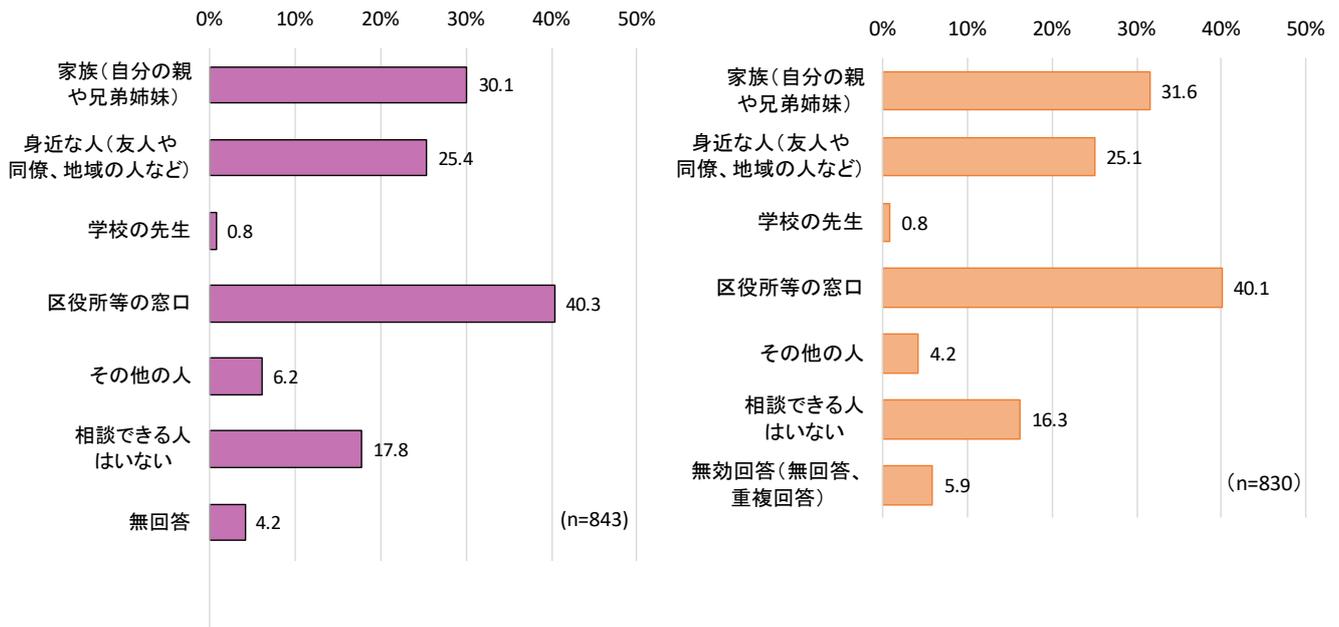
「公的機関への申請や手続きに関すること」について相談する相手を尋ねたところ、「区役所等の窓口」が40.3%、「家族（自分の親や兄弟姉妹）」が30.1%であった。なお、「相談できる人はいない」と回答した割合は17.8%であった。

前回調査結果と比較すると、「その他の人」の回答割合が高くなっていった。

設問 24G あなたは次のことで以下の人に相談しますか。（MA）

図表 2-2-7-8 公的機関への申請や手続きに関すること

（参考） 前回調査結果



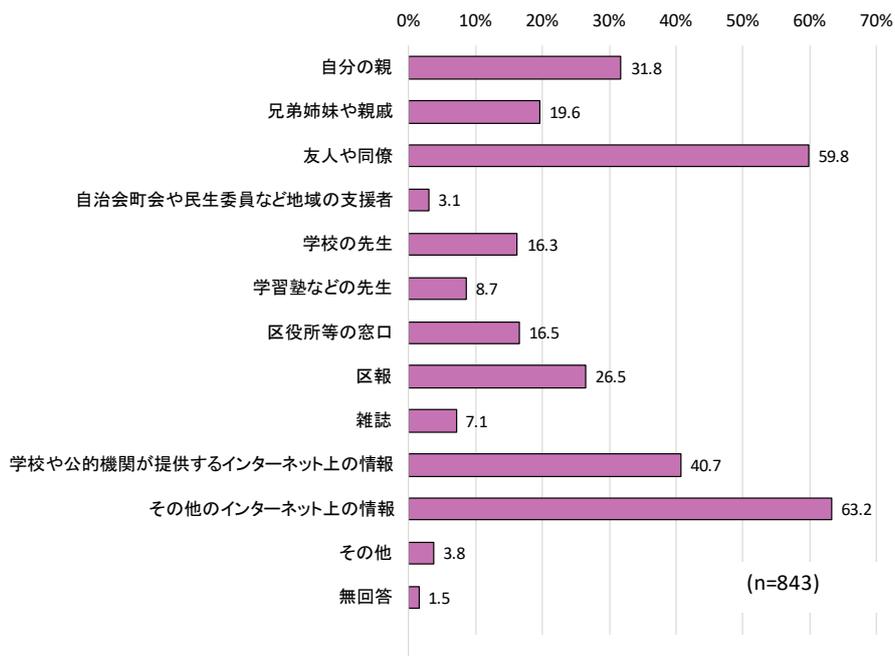
③子育てや暮らしに関する情報の入手方法

「あなたは子育てや暮らしに関する情報をどこから手に入れますか」と尋ねた設問に対して、「その他のインターネット上の情報」と回答した割合は63.2%、「友人や同僚」と回答した割合は59.8%、「学校や公的機関が提供するインターネット上の情報」と回答した割合は40.7%、「自分の親」と回答した割合は31.8%であった。

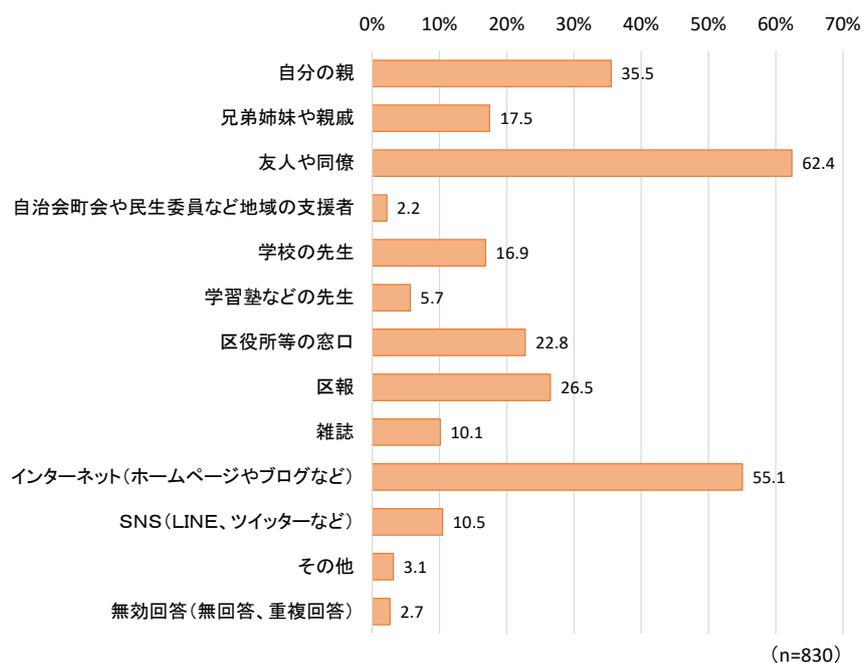
前回調査結果と比較すると、「学習塾などの先生」の回答割合は高く、「区役所等の窓口」「雑誌」の回答割合は低くなっていた。

設問 25 あなたは子育てや暮らしに関する情報をどこから手に入れますか。(MA)

図表 2-2-7-9 子育てや暮らしに関する情報の入手方法



(参考) 前回調査結果



(8)家庭の経済状況に関すること

①公的年金・社会保障給付費

「児童手当」「児童育成手当」「児童扶養手当」「特別児童扶養手当」「年金（遺族年金、老齢年金など）」「生活保護費」について、それぞれ1回あたり受給額を尋ねた。回答の集計結果については、巻末の集計表を参照のこと。

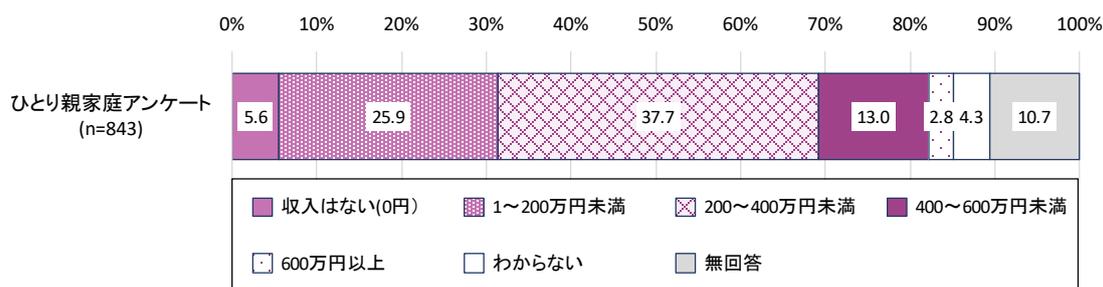
②世帯収入

公的年金と社会保障給付金以外の収入について、世帯全員の年間収入を尋ねた設問に対して、「200～400万円未満」の回答が37.7%、「1～200万円未満」の回答が25.9%であった。また、「収入はない（0円）」の回答は5.6%であった。

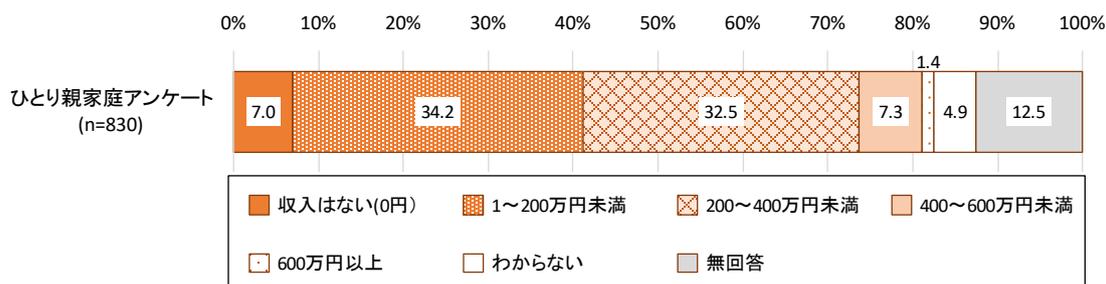
前回調査結果と比較すると、「200～400万円未満」「400～600万円未満」「600万円以上」の回答割合が高くなっていた。

設問 27 公的年金と社会保障給付金以外の収入についてお聞きします。お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、おおよその年間収入（税込）はいくらですか。（SA）

図表 2-2-8-1 世帯収入



(参考) 前回調査結果



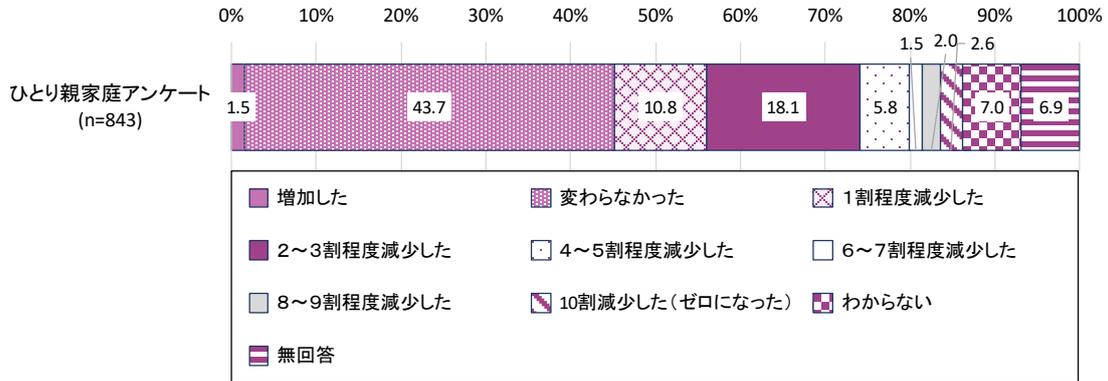
③新型コロナウイルス感染拡大による収入の変化

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令の前後で世帯の月間収入が最大でどれくらい変わったかを尋ねた設問に対して、減少したとの回答を合わせた割合は40.8%であった。

設問 27(2) (新設) 新型コロナウイルス感染拡大による収入の変化についてお聞きします。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令前と、緊急事態宣言発令後を比べて、お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、月間収入（税込）の合計は、最大でどれくらい変わりましたか。（SA）

図表 2-2-8-2 新型コロナウイルス感染拡大の影響による月間収入（税込）の変化

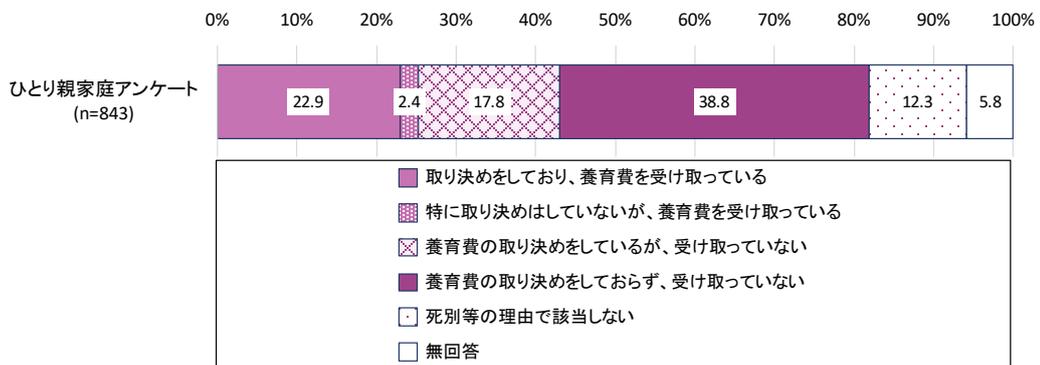


④養育費受け取りの有無

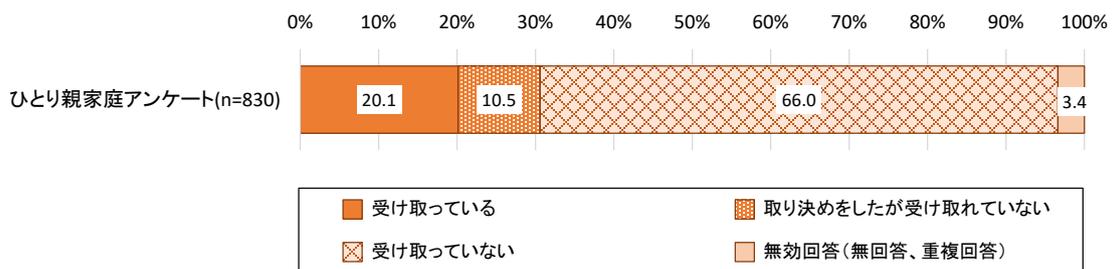
養育費の受け取りの状況を尋ねた設問に対して、「受け取っている」と回答した割合は合わせて25.3%、「受け取っていない」と回答した割合は合わせて56.6%であった¹²¹。

設問 28 お子さんの親（相手方）とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。（SA）

図表 2-2-8-3 養育費受け取りの有無



(参考) 前回調査結果



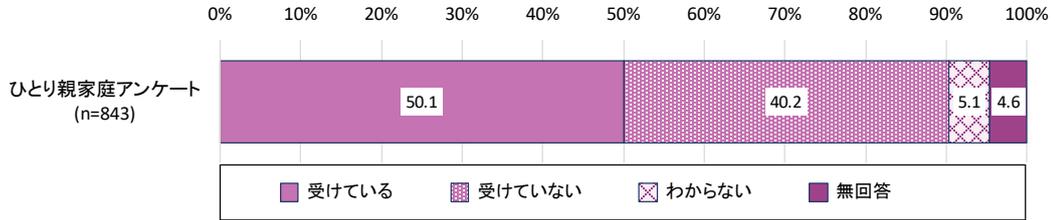
¹²¹ 前回調査では設問文・選択肢が異なるため厳密には比較はできないが、今回調査では「受け取っている」旨の回答割合は高くなっている。

⑤就学援助費の受給の有無

就学援助費の受給の状況を探った設問に対して、「受けている」の回答は 50.1%、「受けていない」の回答は 40.2%、「わからない」の回答は 5.1%であった。

設問 29 あなたのご家庭では、現在、就学援助費を受けていますか。(SA)

図表 2-2-8-4 就学援助費受給の有無



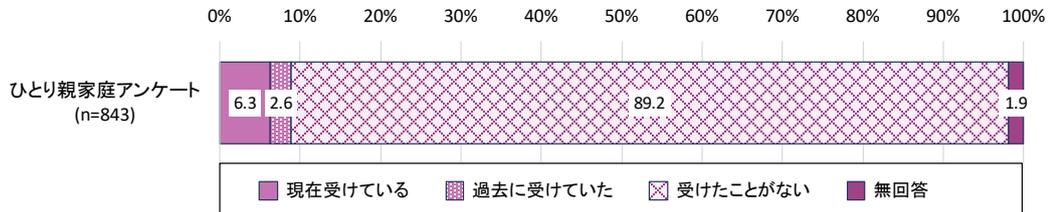
⑥生活保護の受給

「ひとり親世帯として暮らし始めてから、生活保護を受けたことがありますか」と探った設問に対して、「現在受けている」と回答した割合は 6.3%、「過去に受けていた」は 2.6%、「受けたことがない」は 89.2%であった。

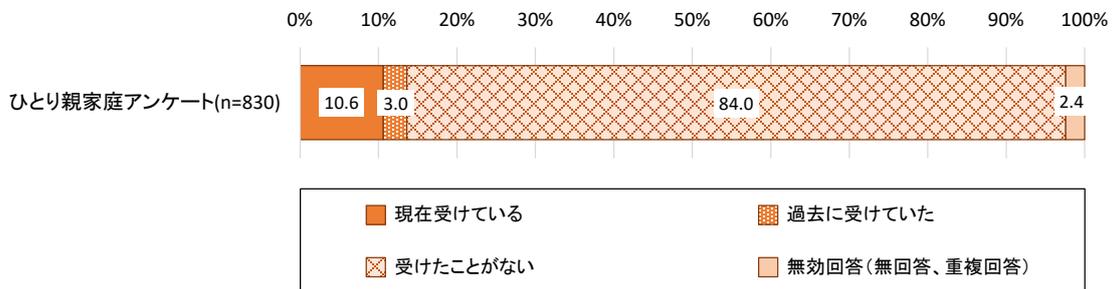
前回調査結果と比較すると、受給の有無については「現在受けている」の回答割合が低くなっていた。

設問 30(1) あなたは、ひとり親世帯として暮らし始めてから、生活保護を受けたことがありますか。(SA)

図表 2-2-8-5 生活保護の受給の有無



(参考) 前回調査結果



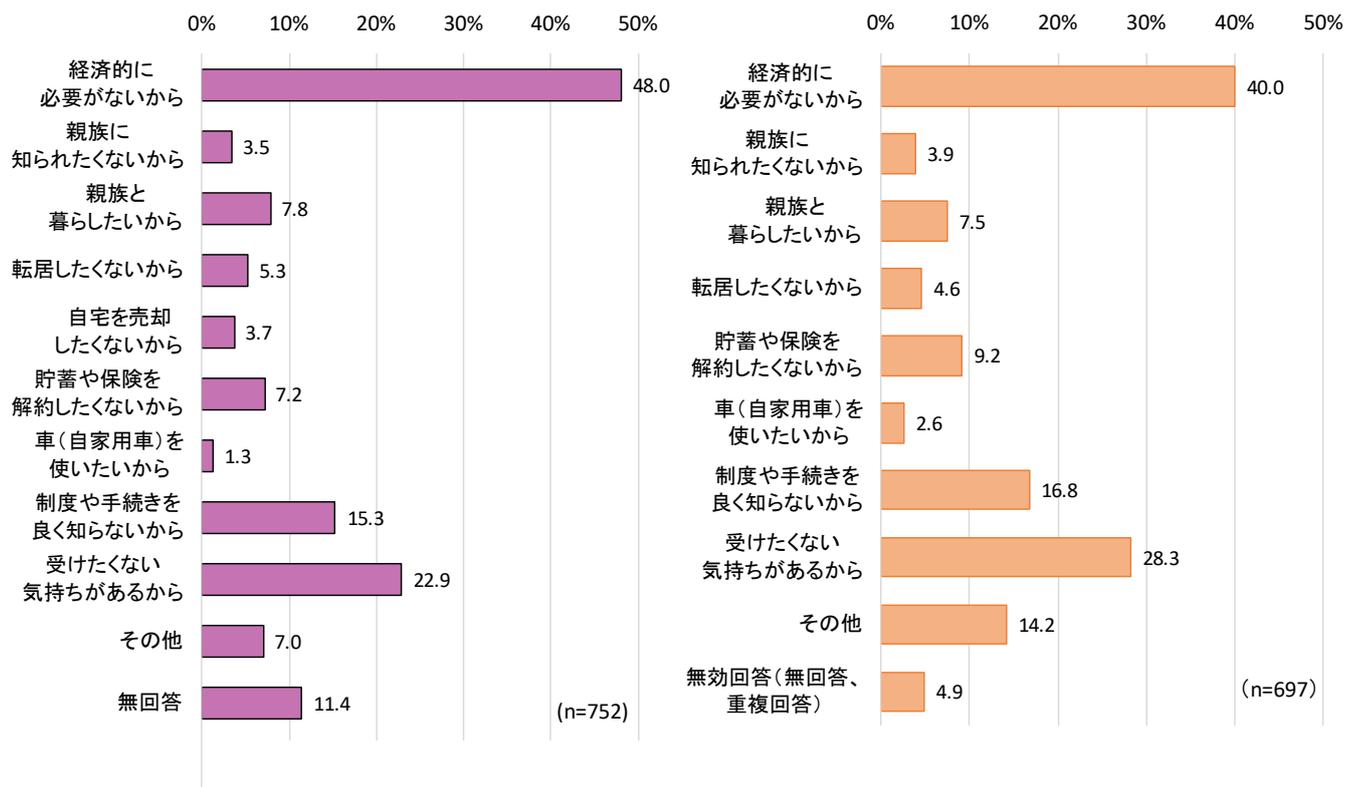
また、生活保護を受けたことがない理由を尋ねた設問に対しては、「経済的に必要がないから」が48.0%、「受けたくない気持ちがあるから」が22.9%、「制度や手続きを良く知らないから」が15.3%であった。

前回調査結果と比較すると、「経済的に必要がないから」の回答割合が高く、「受けたくない気持ちがあるから」の回答割合が低くなっていた。

設問 30(2) 受けたくない理由を教えてください。(MA)

図表 2-2-8-6 生活保護を受けたことがない理由

(参考) 前回調査結果



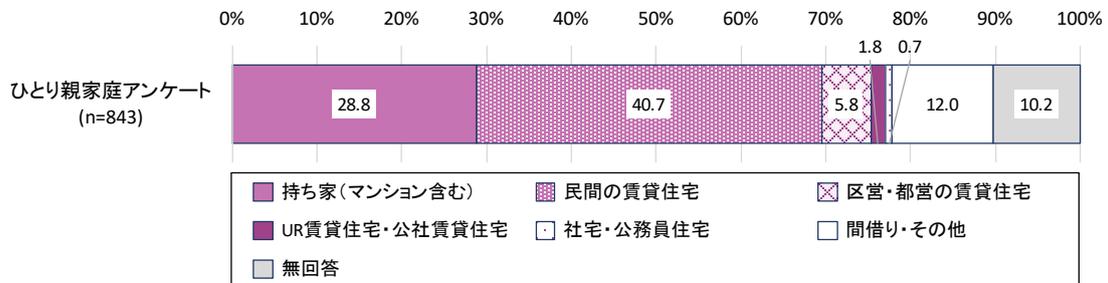
⑦住居の形態

住居の形態について尋ねた設問に対して、「民間の賃貸住宅」が40.7%、「持ち家（マンション含む）」が28.8%、「間借り・その他」が12.0%であった。

設問 31(1) 現在お住いの住居の形態は、次のどれが最もよくあてはまりますか。

※「持ち家（マンション含む）」には、住宅ローン支払い中の場合も含まれます。（SA）

図表 2-2-8-7 現在お住まいの住居の形態



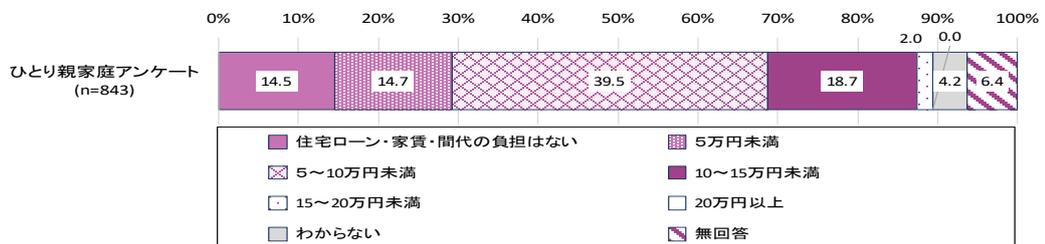
⑧住居費負担

「1か月あたりの住居費負担はいくらですか」と尋ねた設問に対して、「住宅ローン・家賃・間代の負担はない」の回答は14.5%、「5万円未満」が14.7%、「5～10万円未満」が39.5%、「10～15万円未満」が18.7%であった¹²²。

設問 31(2) 1か月あたりの住宅ローン支払額、家賃、間代はいくらですか。

※共益費または管理費を含んだ額をお答えください。（SA）

図表 2-2-8-8 1か月あたりの住居費負担



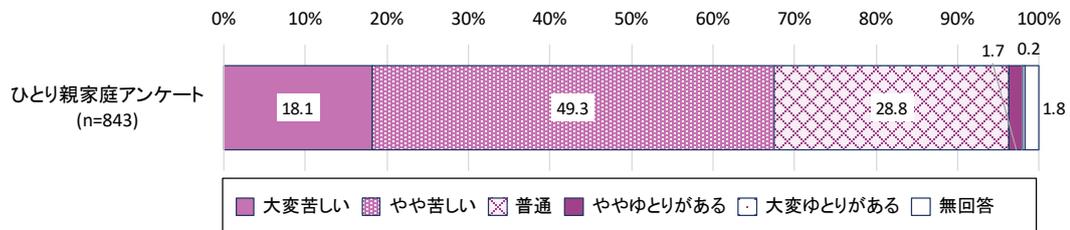
¹²² 「持ち家の場合」、「賃貸の場合」を別々に尋ねたが、ここでは合わせて集計した結果を掲載した。

⑨現在の暮らしの状況に関する認識

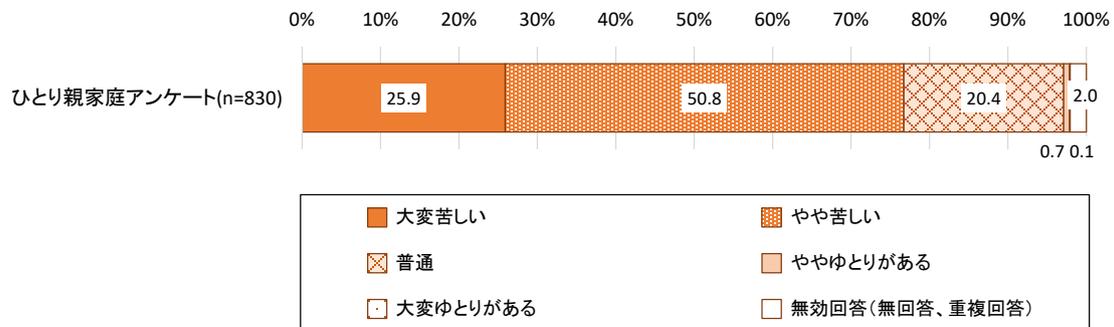
「現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか」と尋ねた設問に対して、「大変苦しい」と回答した割合は18.1%、「やや苦しい」と回答した割合は49.3%、「普通」と回答した割合は28.8%、「ややゆとりがある」と回答した割合は1.7%、「大変ゆとりがある」と回答した割合は0.2%であった。前回調査結果と比較すると、「大変苦しい」の回答割合が低くなっていた。

設問 32 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(SA)

図表 2-2-8-9 現在の暮らしの状況に関する認識



(参考) 前回調査結果

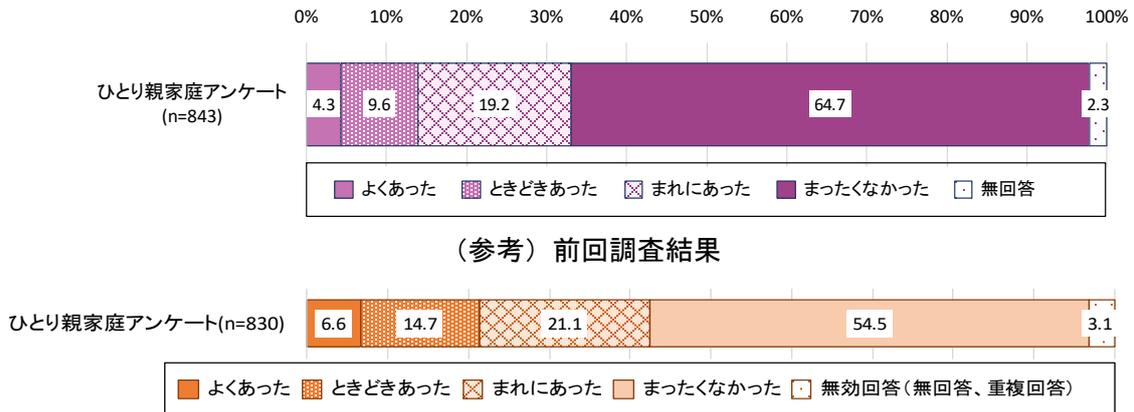


⑩食料・衣類が買えなかった経験

「過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか」と尋ねた設問に対して、「よくあった」と回答した割合は4.3%、「ときどきあった」と回答した割合は9.6%であった。また、「まったくなかった」と回答した割合は64.7%であった。前回調査結果と比較すると、「まったくなかった」の回答割合が高くなっていた。

設問 33 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。(SA)

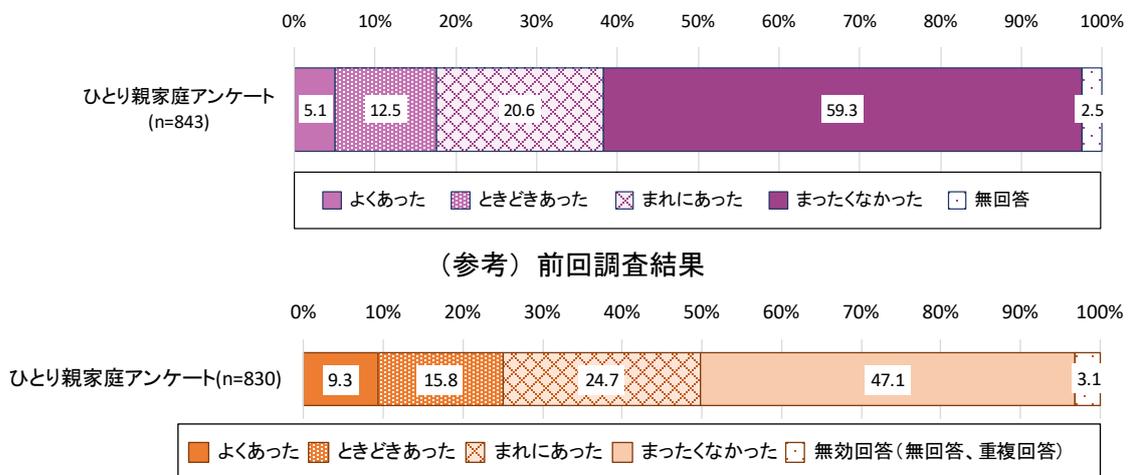
図表 2-2-8-10 食料が買えなかった経験



「過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか」という設問に対して、「よくあった」と回答した割合は5.1%、「ときどきあった」と回答した割合は12.5%であった。また、「まったくなかった」と回答した割合は59.3%であった。前回調査結果と比較すると、「まったくなかった」の回答割合が高くなっていた。

設問 34 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか。(SA)

図表 2-2-8-11 衣類が買えなかった経験



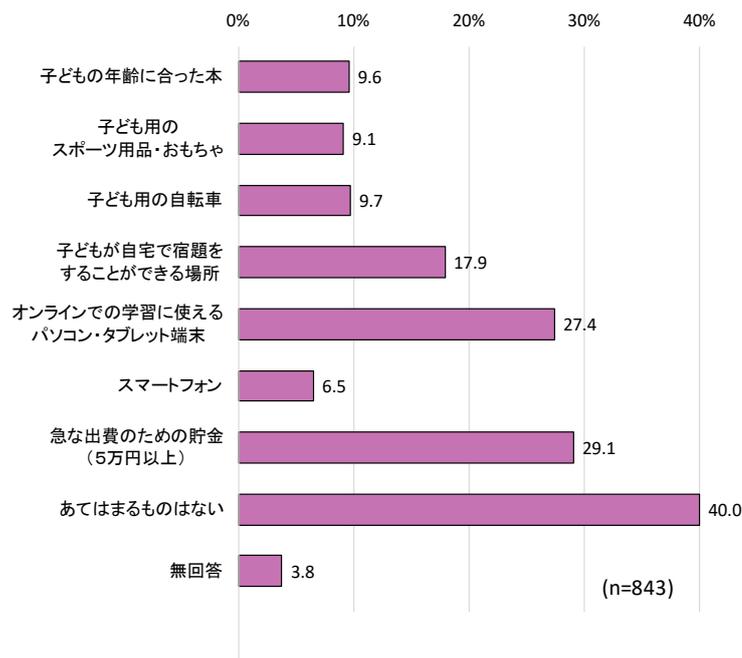
⑪物質的剥奪の状況

「経済的理由のためにあなたの世帯にないものがありますか」と尋ねた設問に対して、「急な出費のための貯金（5万円以上）」と回答した割合は29.1%、「オンラインでの学習に使えるパソコン・タブレット端末」と回答した割合は27.4%、「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」と回答した割合は17.9%であった。

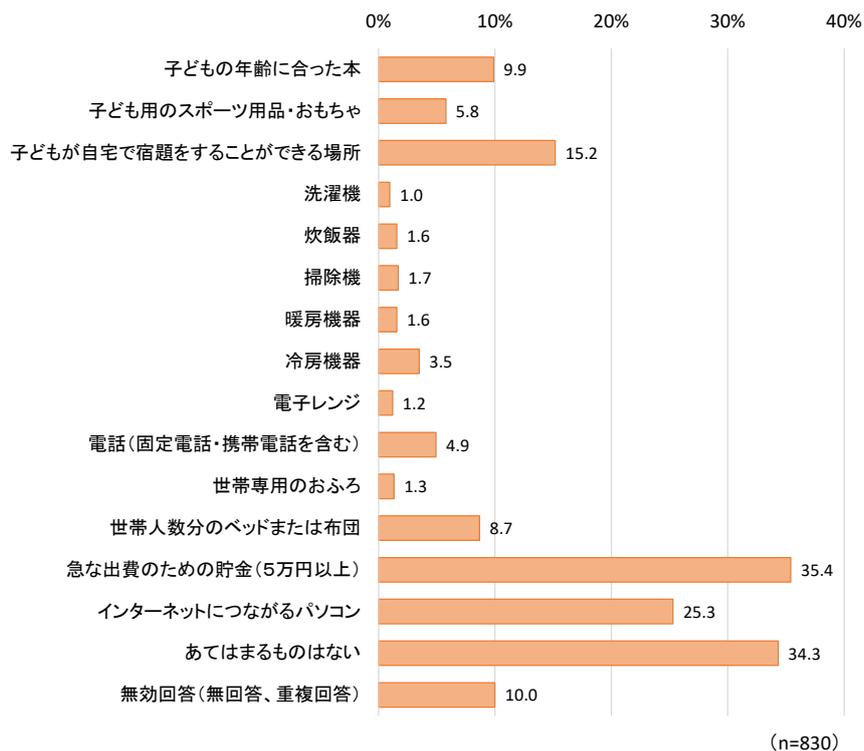
前回調査結果と比較すると「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「あてはまるものはない」の回答割合が高く、「急な出費のための貯金（5万円以上）」の回答割合が低くなっていた。

設問 35 次のうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものがありますか。（MA）

図表 2-2-8-12 物質的剥奪の状況（経済的理由のためにないもの）



（参考） 前回調査結果



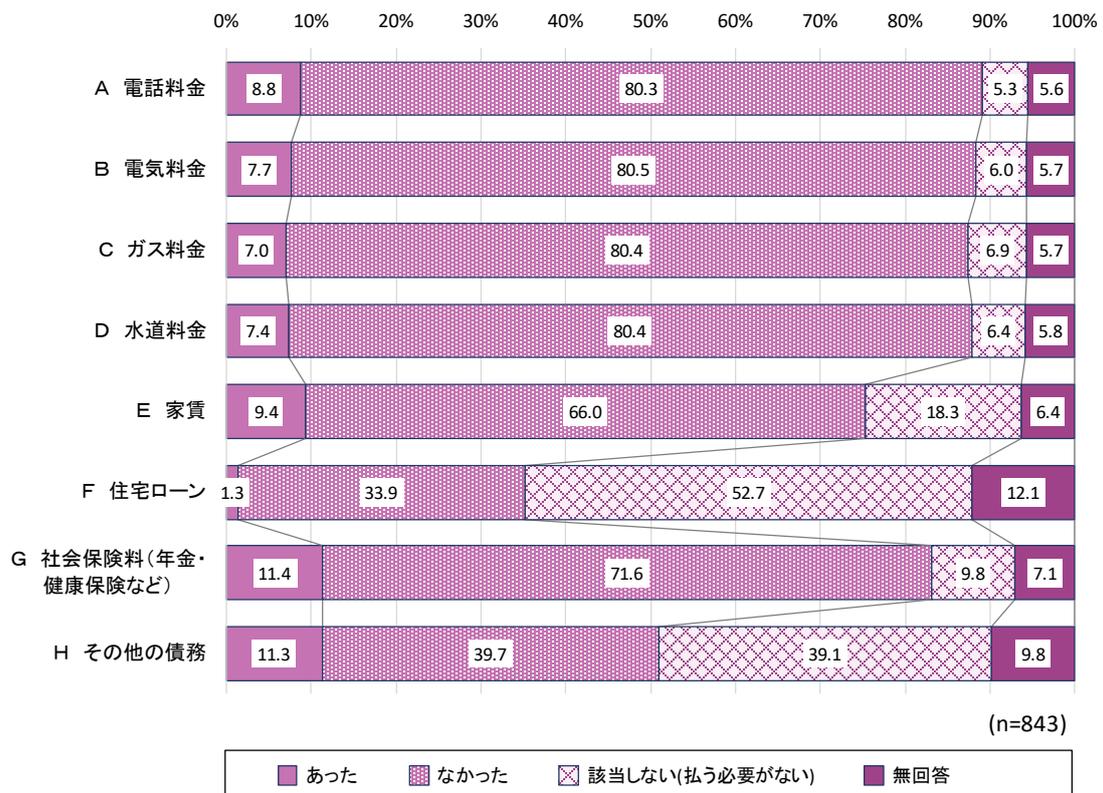
⑫公共料金等不払いの経験

過去1年の間に、経済的な理由のために支払えなかった費用があったか尋ねた設問に対して、「電話料金」については8.8%が「あった」と回答している。同様に、期限通りに支払えなかったことが「あった」と回答した割合は、「電気料金」が7.7%、「ガス料金」が7.0%、「水道料金」が7.4%、「家賃」が9.4%、「住宅ローン」が1.3%、「社会保険料（年金・健康保険など）」が11.4%、「その他の債務」が11.3%であった。

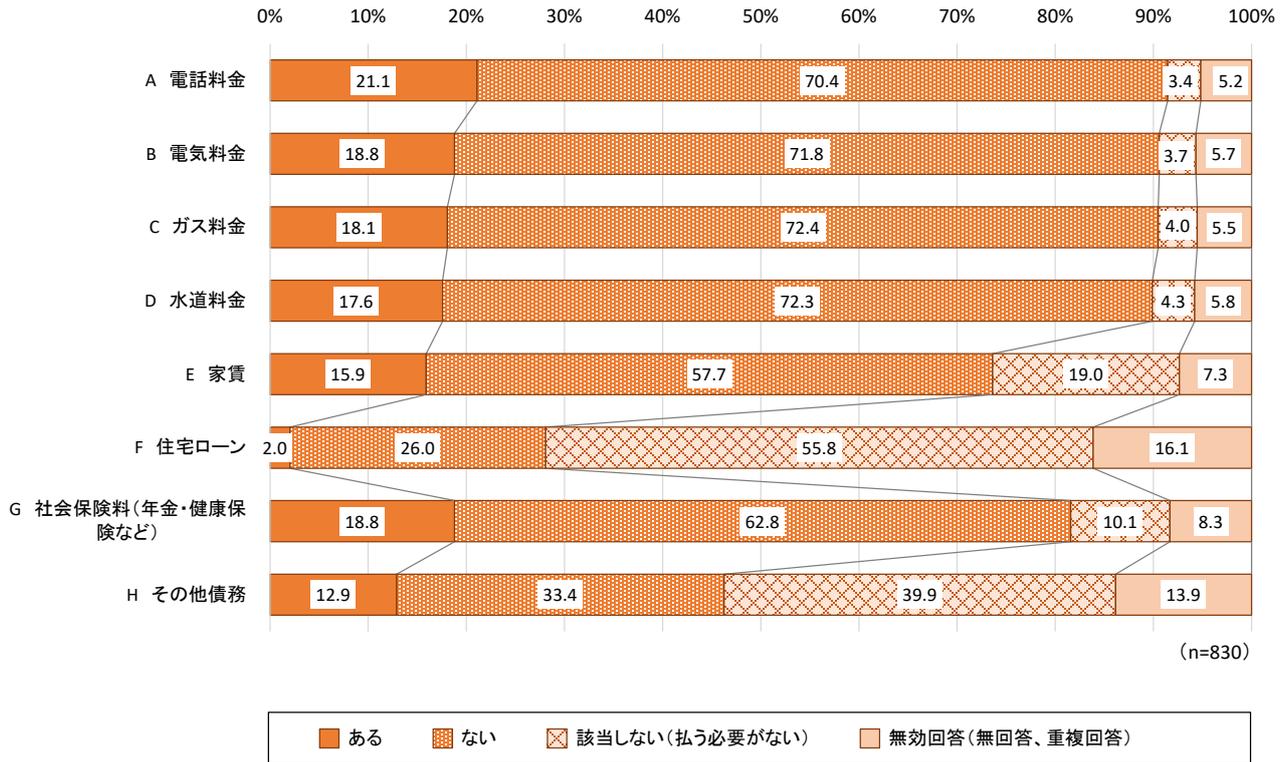
前回調査結果と比較すると、すべての項目について「あった」の回答割合が低くなっていた。

設問 36(1) あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Hを支払えないことがありましたか。（SA）

図表 2-2-8-13 公共料金等不払いの経験



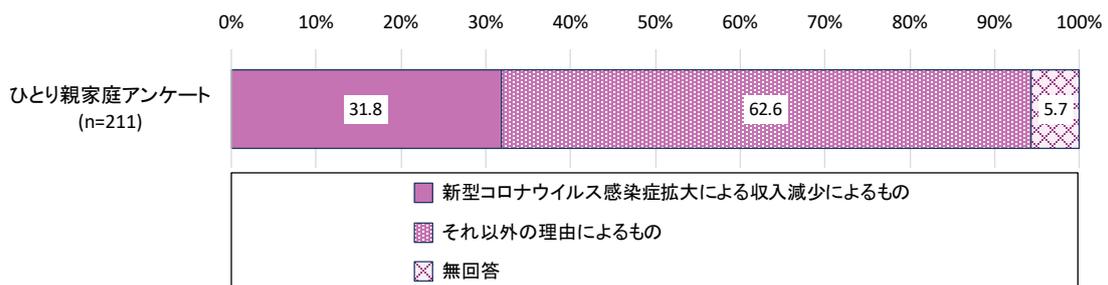
(参考) 前回調査結果



上記のような公共料金等について過去1年間に経済的な理由で支払えないことがあった理由を尋ねた設問に対して、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う収入減少によるもの」との回答は31.8%であった。

設問 36(2) (新設) 上記のような料金等が支払えないことがあったのは、
新型コロナウイルス感染症拡大に伴う収入減少によるものですか。(SA)

図表 2-2-8-14 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う収入減少



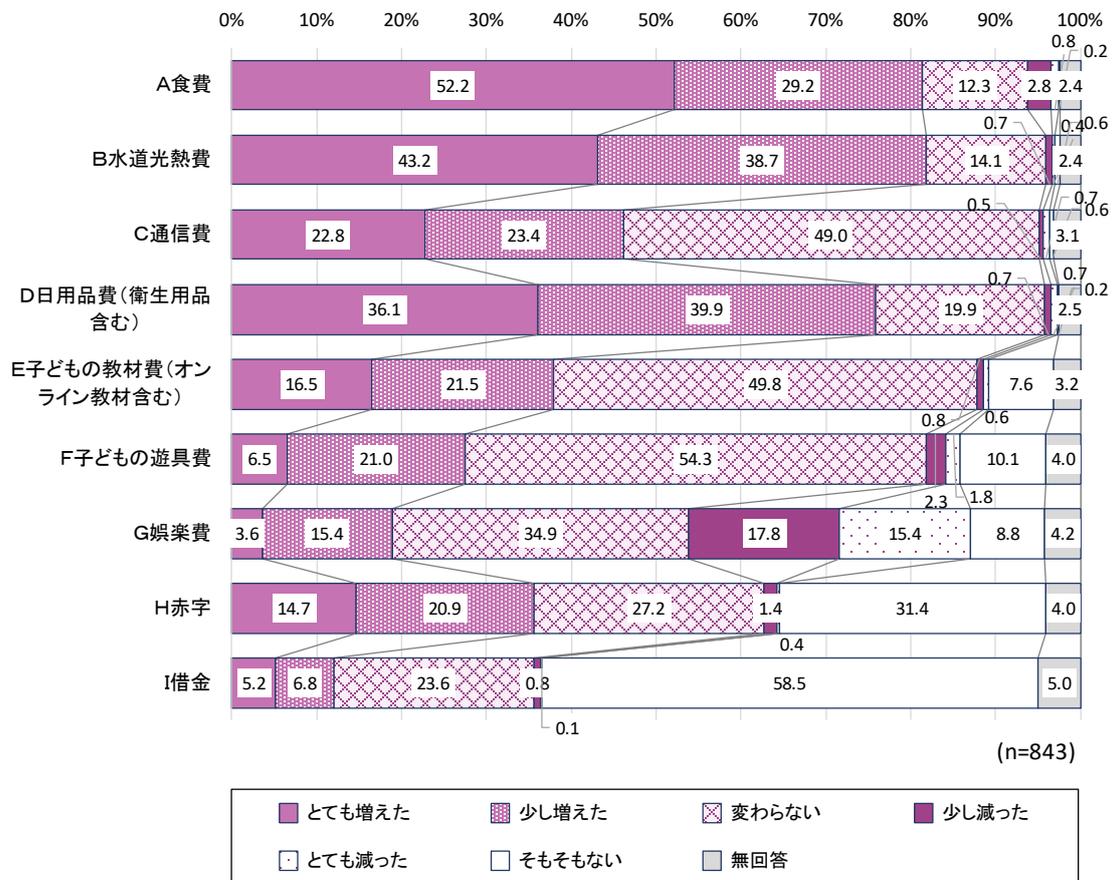
⑬新型コロナウイルス感染拡大の家計への影響

「新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、あなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか」という設問に対して、「食費」については「とても増えた」の回答が52.2%であった。同様に「とても増えた」の回答は、「水道光熱費」については43.2%、「通信費」については22.8%、「日用品費（衛生用品含む）」については36.1%、「子どもの教材費（オンライン教材含む）」については16.5%、「子どもの遊具費」については6.5%、「娯楽費」については3.6%、「赤字」については14.7%、「借金」については5.2%であった。

設問 37(新設) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、

あなたのご家庭の家計の状況として、次のようなものは増えましたか、減りましたか。(SA)

図表 2-2-8-15 新型コロナウイルス感染拡大の家計への影響



(9) 保護者の過去の経験等に関すること

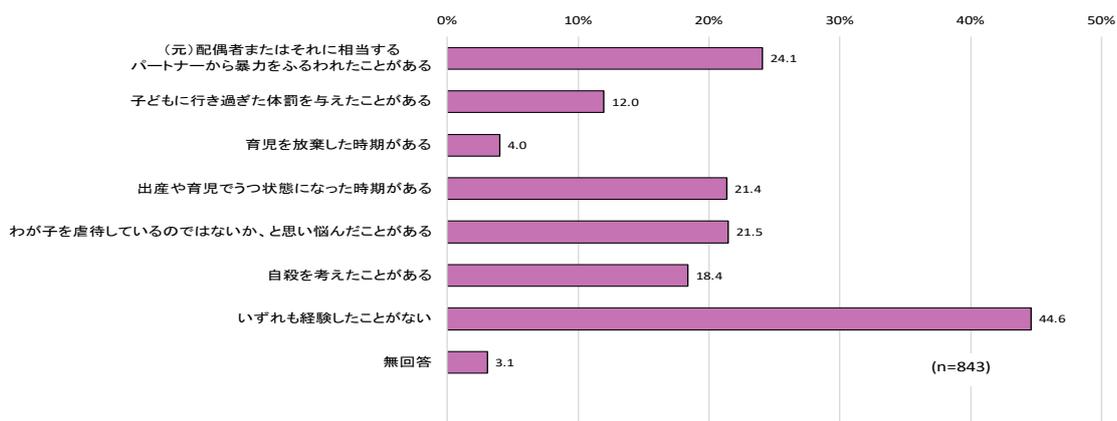
① DV・ネグレクトの状況等

子育てに関わってから経験したことを尋ねた設問に対して、「(元)配偶者またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある」が24.1%、「わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」が21.5%、「出産や育児でうつ状態になった時期がある」が21.4%であった。

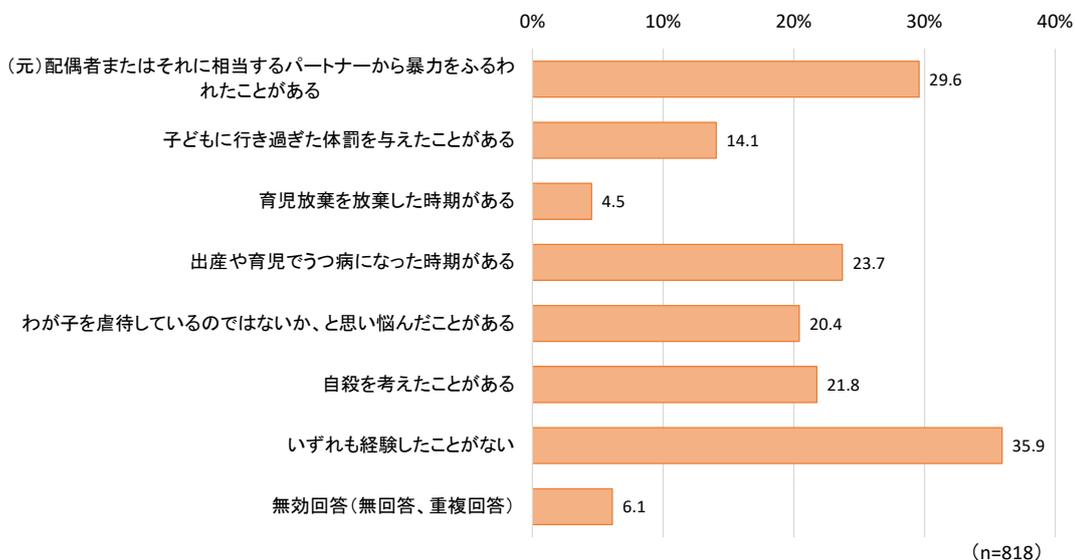
前回調査結果と比較すると、「(元)配偶者またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある」の回答割合は低く、「いずれも経験したことがない」の回答割合は高くなっていた。

設問 38 あなたは、子育てにかかわってから以下のような経験をしたことがありますか。(MA)

図表 2-2-9-1 子育てに関わってから経験したこと



(参考) 前回調査結果



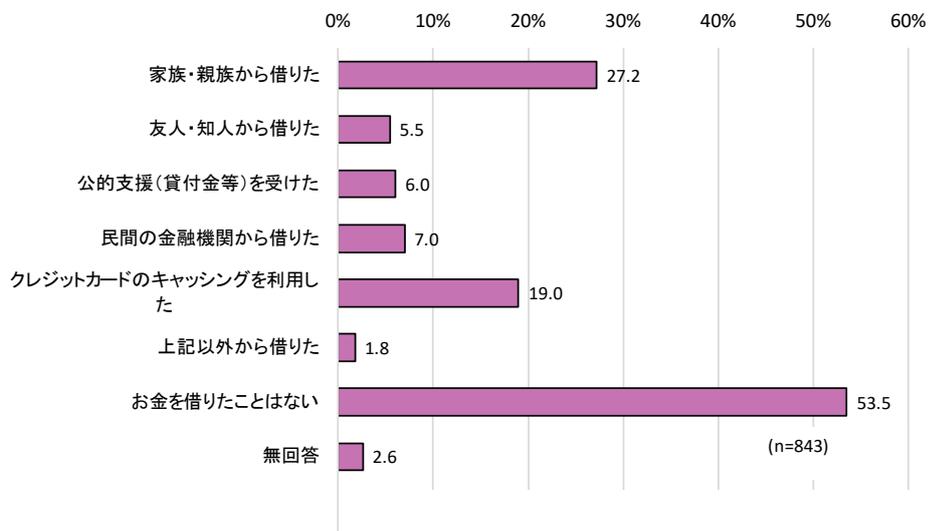
②借入れ等の有無

「ひとり親世帯として暮らし始めてから、生活費をまかなうために、お金を借りたことがありましたか」と尋ねた設問に対して、「家族・親族から借りた」の回答が 27.2%、「クレジットカードのキャッシングを利用した」が 19.0%、「民間の金融機関から借りた」が 7.0%であった。また、「お金を借りたことはない」の回答は 53.5%であった。

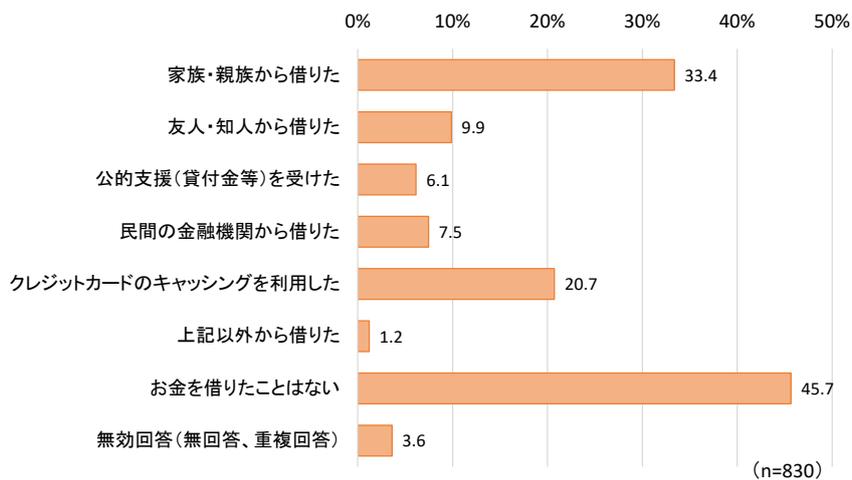
前回調査結果と比較すると、「家族・親族から借りた」「友人・知人から借りた」の回答割合は低く、「お金を借りたことはない」の回答割合は高くなっていた。

設問 39 あなたは、ひとり親世帯として暮らし始めてから、生活費をまかなうために、お金を借りたことがありましたか。
 ※住宅ローン・自動車ローン・子どもの奨学金は含みません。(MA)

図表 2-2-9-2 借入れ等の有無



(参考) 前回調査結果

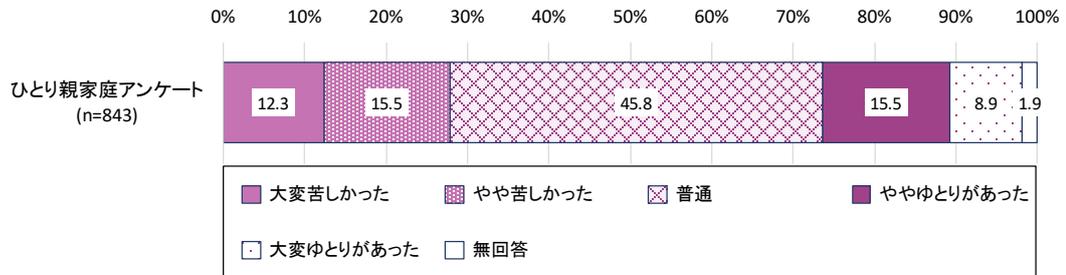


③保護者が15歳の頃の暮らし向き

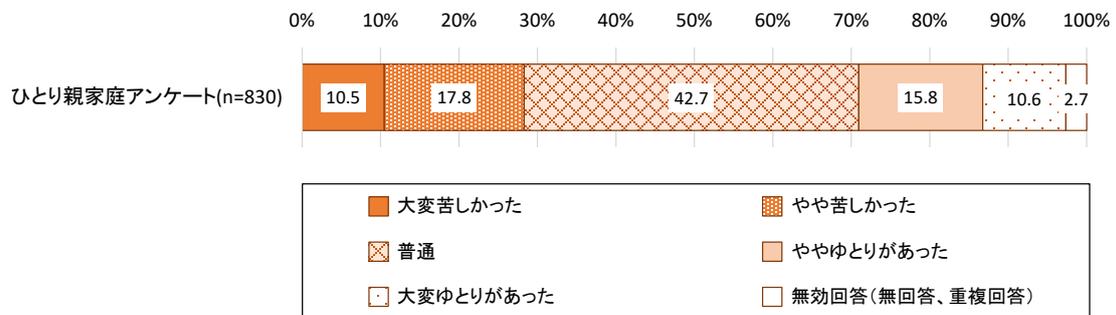
回答者（子どもの保護者）が15歳の頃の暮らし向きについて尋ねた設問に対して、「大変苦しかった」と回答した割合は12.3%、「やや苦しかった」と回答した割合は15.5%、「普通」と回答した割合は45.8%であった。

設問 40 あなたが15歳の頃のご家庭の暮らし向きについて
最も近いものに○をつけてください。(SA)

図表 2-2-9-3 15歳の頃の暮らし向き



(参考) 前回調査結果



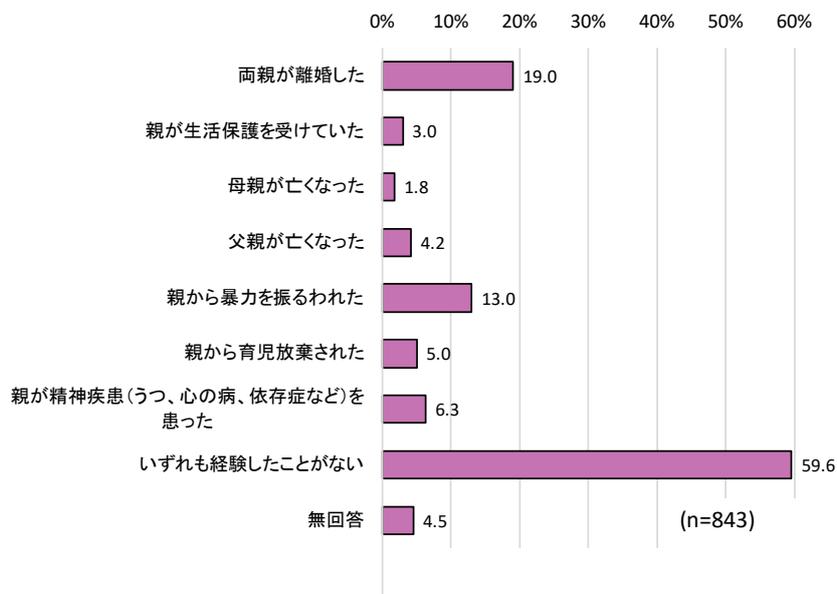
④保護者が成人する前に体験したこと¹²³

回答者（子どもの保護者）が成人前に体験したことを尋ねた設問に対して、「両親が離婚した」と回答した割合は19.0%、「親から暴力を振るわれた」は13.0%、「親が精神疾患（うつ、心の病、依存症など）を患った」は6.3%、「親から育児放棄された」は5.0%であった。

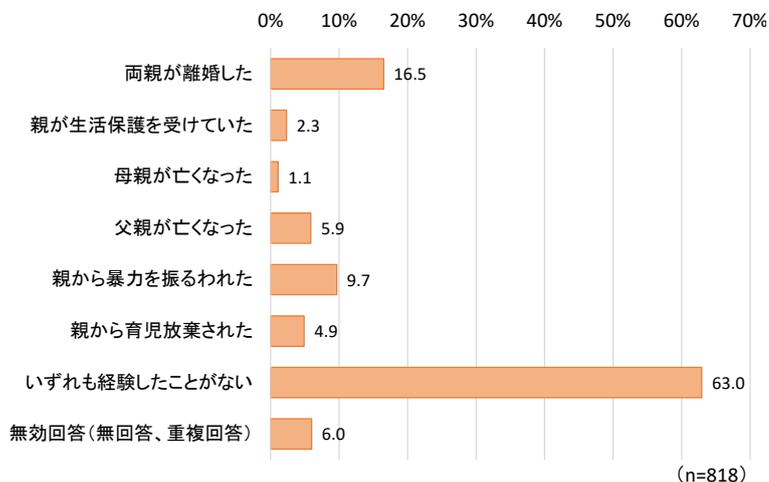
前回調査結果と比較すると、「親から暴力を振るわれた」の回答割合が高くなっていた。

設問 41 あなたは、成人する前に以下のような経験をしたことがありますか。（MA）

図表 2-2-9-4 保護者自身の子どもの頃の経験



(参考) 前回調査結果



¹²³ 子どもから見た関係が「母親」または「父親」と回答したもののみを集計対象とした。

(10) 各種支援制度に関すること

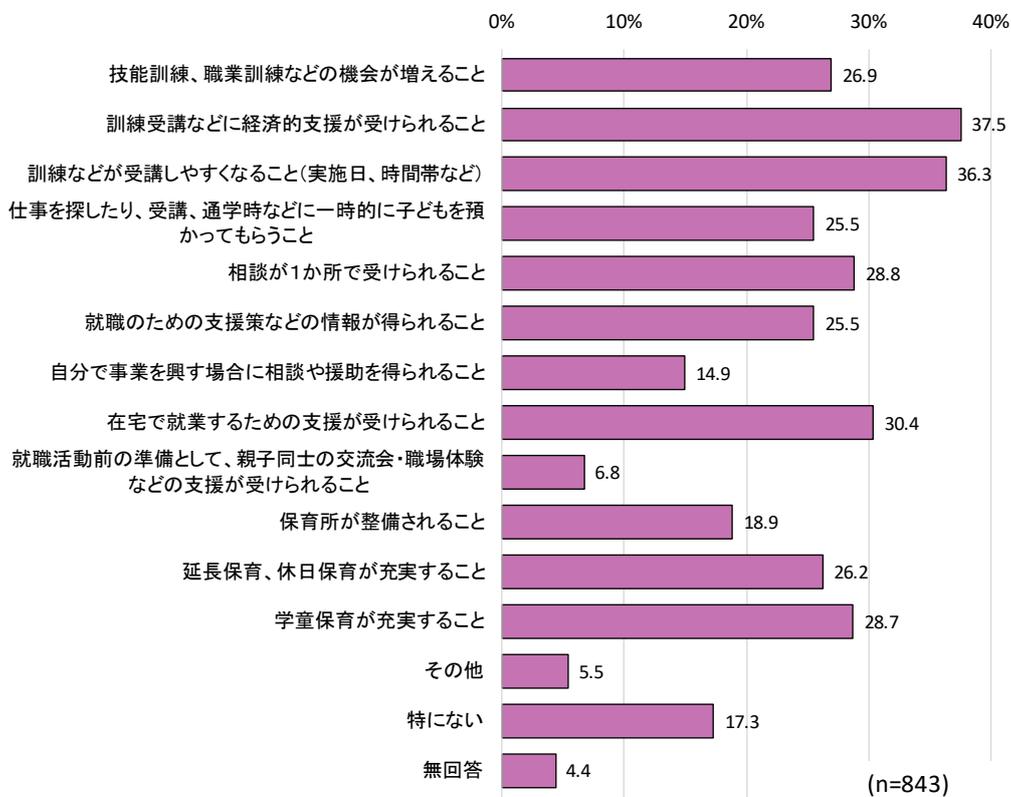
①就業のために必要と考える支援

「よりよい就職や仕事のため、どのような支援がほしいと思いますか」と尋ねた設問に対して、「訓練受講などに経済的支援が受けられること」が37.5%、「訓練などが受講しやすくなること（実施日、時間帯など）」が36.3%、「在宅で就業するための支援が受けられること」が30.4%となっている。

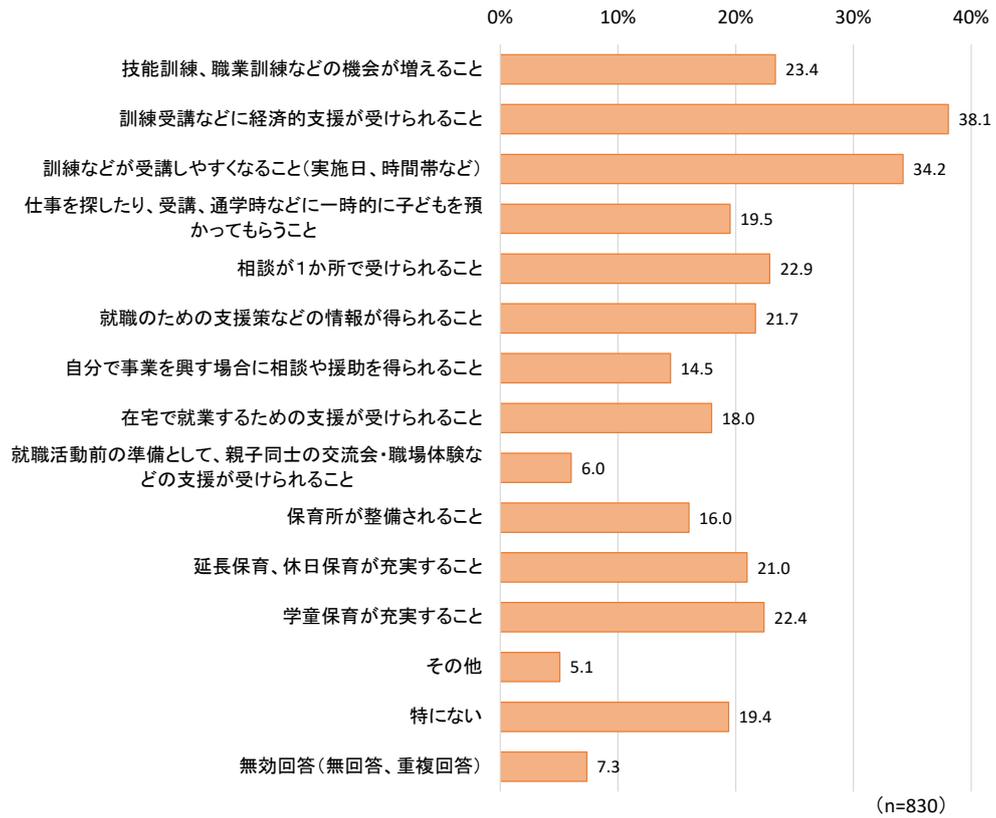
前回調査結果と比較すると、「仕事を探したり、受講、通学時などに一時的に子どもを預かってもらうこと」「相談が1か所で受けられること」「就職のための支援策などの情報が得られること」「在宅で就業するための支援が受けられること」「延長保育、休日保育が充実すること」「学童保育が充実すること」の回答割合が高くなっていた。

設問 42 よりよい就職や仕事のため、どのような支援がほしいと思いますか。(MA)

図表 2-2-10-1 就業のために必要と考える支援



(参考) 前回調査結果



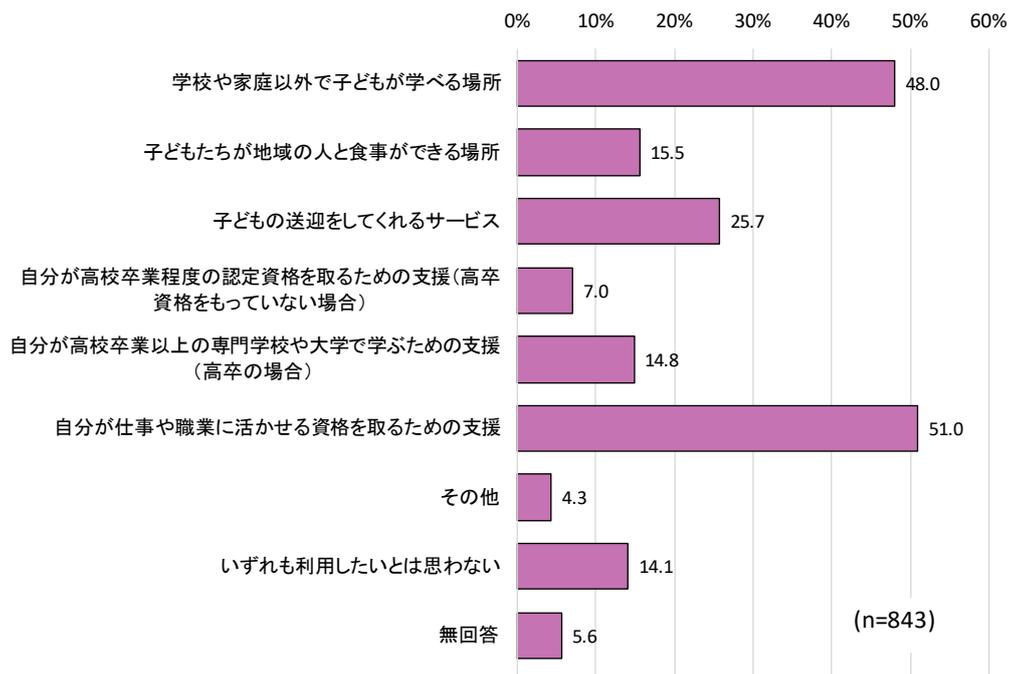
②利用したいと思う支援やサービス

どのような支援やサービスを利用したいかを尋ねた設問に対して、「自分が仕事や職業に活かせる資格を取るための支援」が51.0%、「学校や家庭以外で子どもが学べる場所」が48.0%、「子どもの送迎をしてくれるサービス」が25.7%であった。

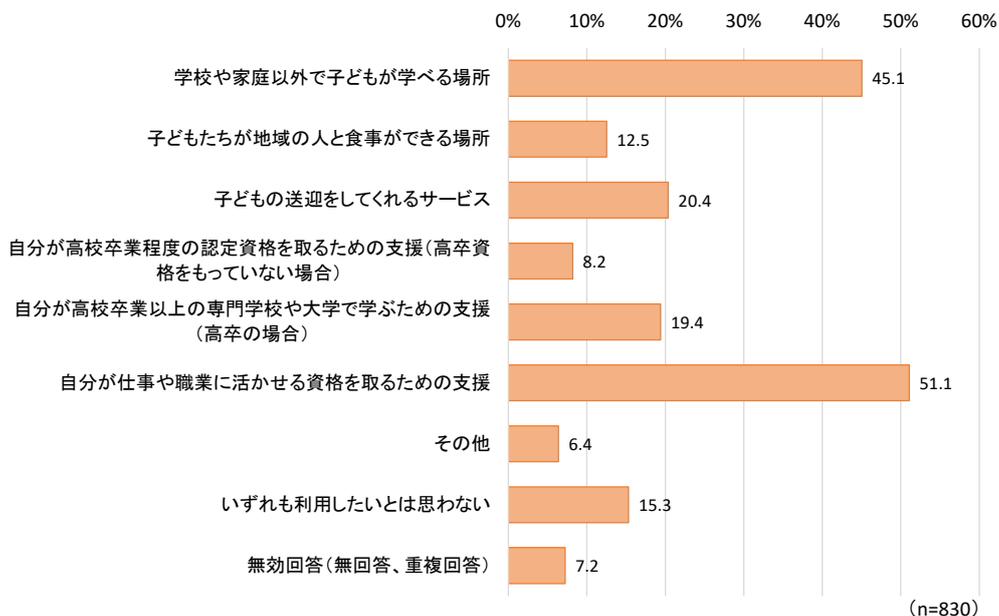
前回調査結果と比較すると、「子どもたちが地域の人と食事ができる場所」「子どもの送迎をしてくれるサービス」の回答割合が高く、「自分が高校卒業以上の専門学校や大学で学ぶための支援（高卒の場合）」の回答割合が低くなっていた。

設問 43 あなたは、次のような支援やサービスがあれば利用したいと思いますか。（MA）

図表 2-2-10-2 利用したいと思う支援やサービス



(参考) 前回調査結果



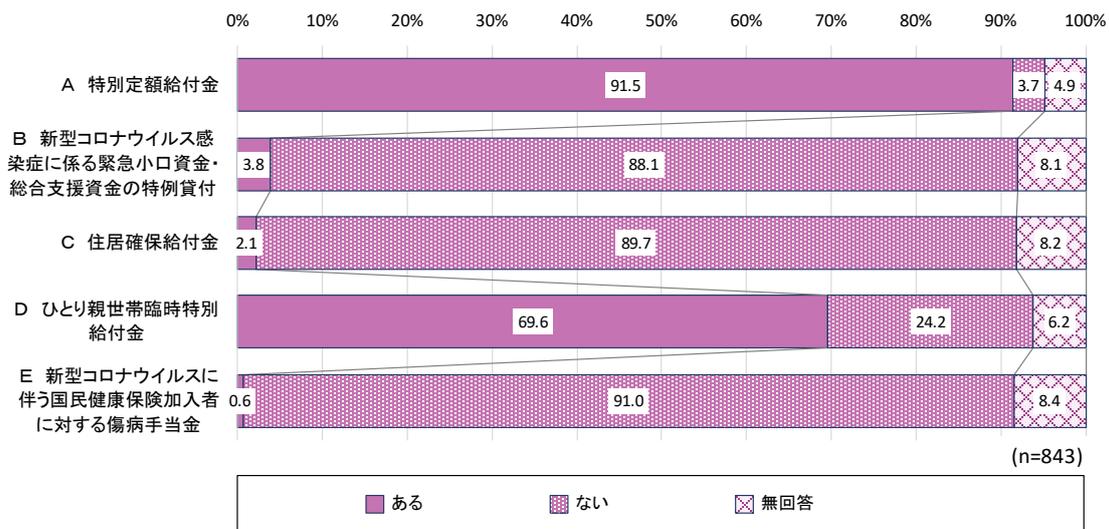
③新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国や区の支援制度

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国や区の支援制度の利用の有無を尋ねた設問に対して、利用したことが「ある」と回答した割合は、「特別定額給付金」では91.5%、「新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付」では3.8%、「住居確保給付金」では2.1%、「ひとり親世帯臨時特別給付金」では69.6%、「新型コロナウイルスに伴う国民健康保険加入者に対する傷病手当金」では0.6%であった。

設問 44①(新設) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、国や区では経済的支援をしています。

以下のA～Eの支援制度に関して、これまでに利用したことがあるかについて教えてください。(SA)

図表 2-2-10-3 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国や区の支援制度の利用経験の有無

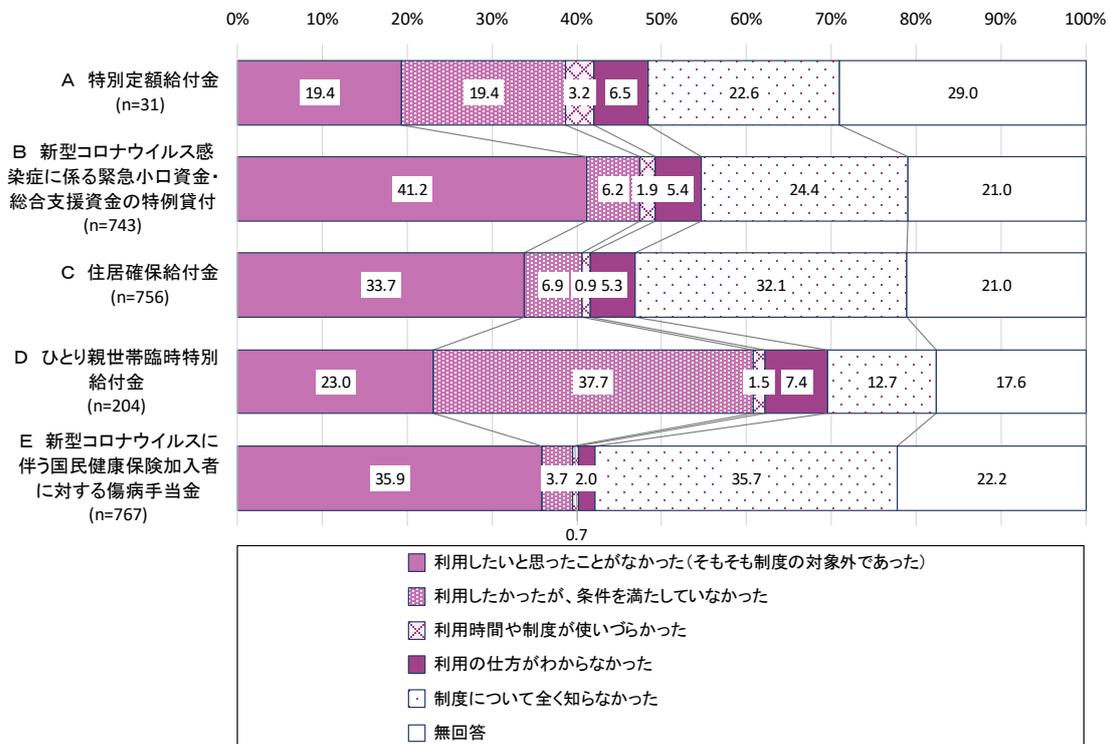


また、利用していない理由を尋ねた設問に対して、「制度について全く知らなかった」と回答した割合は、「特別定額給付金」では 22.6%、「新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付」では 24.4%、「住居確保給付金」では 32.1%、「ひとり親世帯臨時特別給付金」では 12.7%、「新型コロナウイルスに伴う国民健康保険加入者に対する傷病手当金」では 35.7%であった。

設問 44②(新設) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、国や区では経済的支援をしています。

以下の A～E の支援制度に関して、利用したことがない場合はその理由について教えてください。(SA)

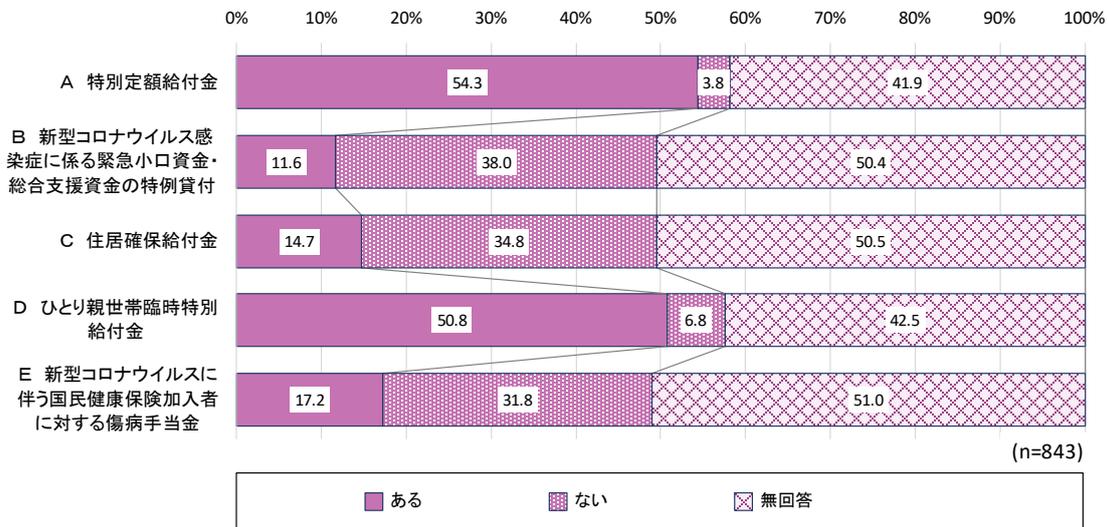
図表 2-2-10-4 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国や区の支援制度を利用したことがない理由



今後利用することに興味があるかを尋ねた設問に対して「ある」と回答した割合は、「特別定額給付金」では 54.3%、「新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付」では 11.6%、「住居確保給付金」では 14.7%、「ひとり親世帯臨時特別給付金」では 50.8%、「新型コロナウイルスに伴う国民健康保険加入者に対する傷病手当金」では 17.2%であった。

設問 44③(新設) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、国や区では経済的支援をしています。以下のA～Eの支援制度に関して、現在制度を利用することに興味があるか、教えてください。(SA)

図表 2-2-10-5 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国や区の支援制度の利用に関する興味の有無



④支援制度の認知度・利用ニーズ

各種の支援制度について知っているか、また、利用したいと思うかを尋ねた設問で、「知らなかったが、今後利用したい」の回答は、「子どもの学習支援」が42.5%、「母子及び父子福祉資金」が38.9%、「大田区奨学金」が37.5%、「生活福祉資金」が35.3%、「受験生チャレンジ支援貸付」が34.2%、「教育相談・就学相談」が27.9%であった。

前回調査結果と比較すると、次のようになっていた。

「病後児保育」、「ファミリー・サポート」、「子ども家庭支援センター（キッズな）」、「大田区生活再建・就労サポートセンターJOBOTA」では、「知っており、利用している（いた）」「知っており、今後利用したい」「知っているが、今後利用するつもりはない」の回答割合が高くなっていた。

「子どもの学習支援」、「ホームヘルパー派遣」、「ショートステイ・トワイライトステイ」、「子ども発達センター わかばの家」では、「知っており、利用している（いた）」「知っているが、今後利用するつもりはない」の回答割合が高くなっていた。

「就学援助費」では「知っており、利用している（いた）」の回答割合が高くなっていた。

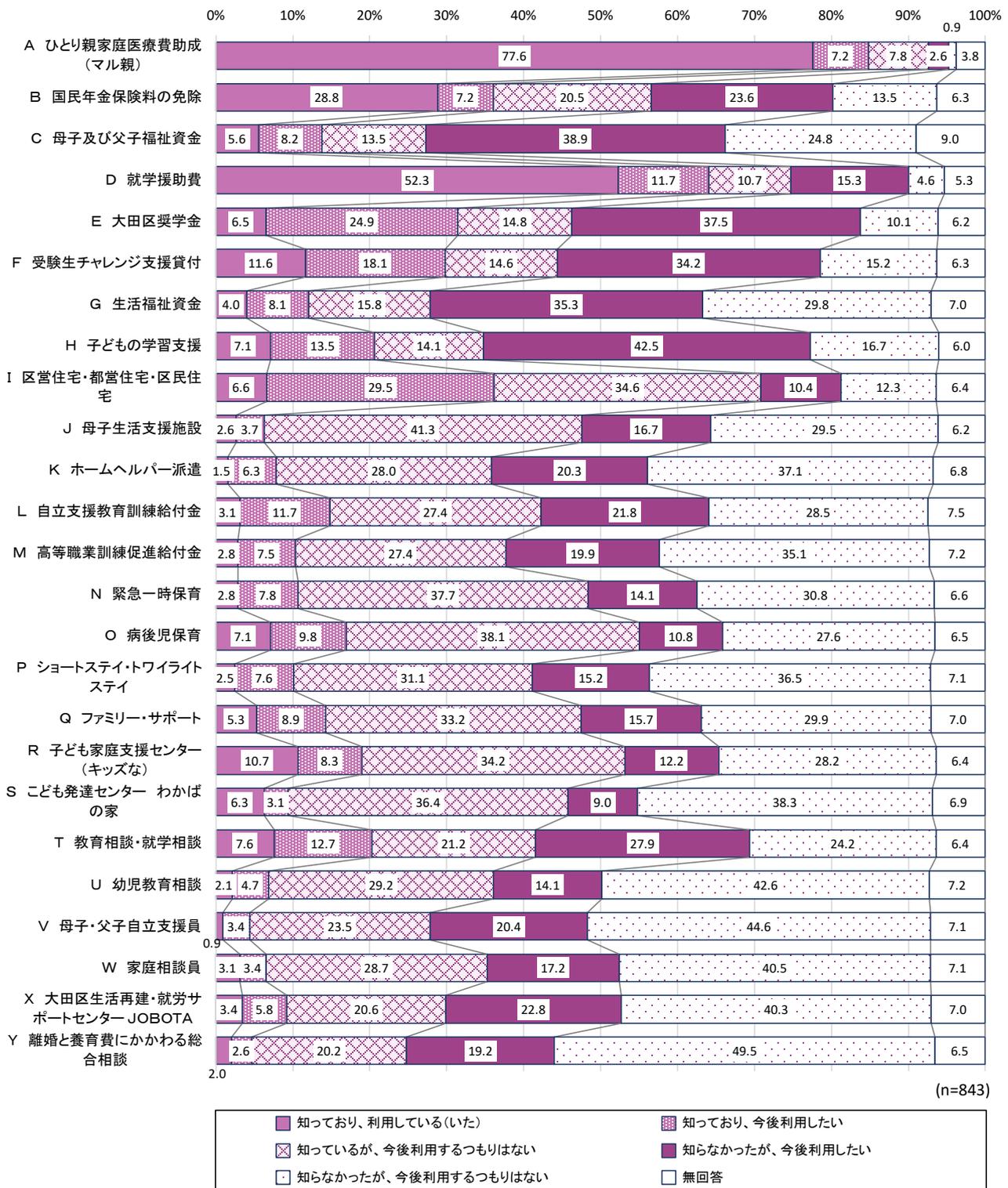
「国民年金保険料の免除」では「知っているが、今後利用するつもりはない」「知らなかったが、今後利用したい」「知らなかったが、今後利用するつもりはない」の回答割合が高くなっていた。

「受験生チャレンジ支援貸付」、「母子生活支援施設」、「自立支援教育訓練給付金」、「高等職業訓練促進給付金」、「母子・父子自立支援員」、「家庭相談員」では「知らなかったが、今後利用するつもりはない」の回答割合が高くなっていた。

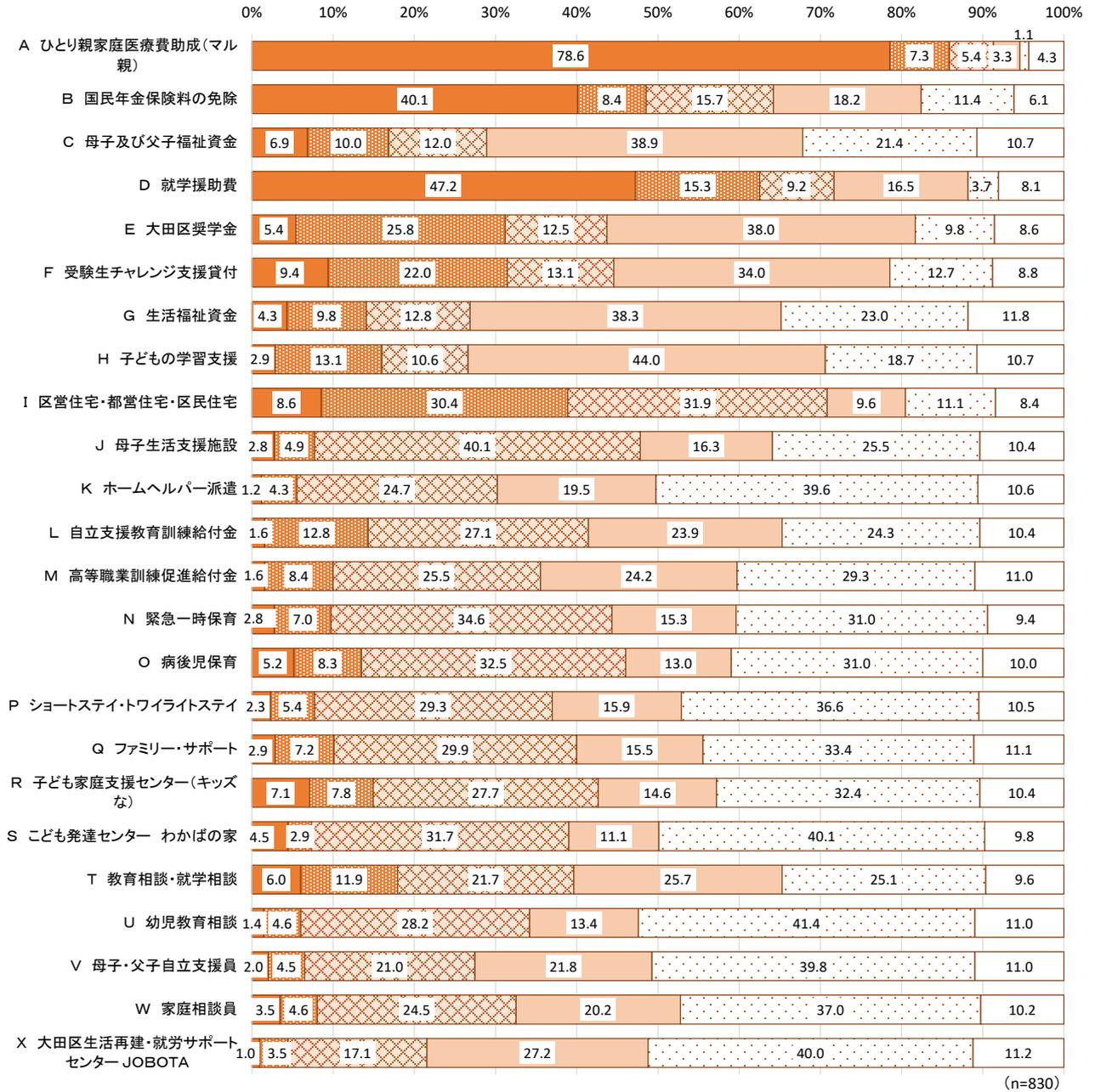
「生活福祉資金」では、「知っているが、今後利用するつもりはない」「知らなかったが、今後利用するつもりはない」の回答割合が高くなっていた。

設問 45 あなたは下記の支援制度を知っていますか、また、利用したいと思いますか。(SA)

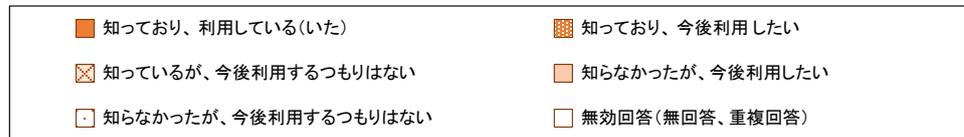
図表 2-2-10-6 支援制度の認知度・利用ニーズ



(参考) 前回調査結果



(n=830)



第3部 おおた 子どもの生活応援プランに 関する活動状況等調査

第3部 おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査

1. 調査の概要

(1)実施状況

アンケート調査は、以下のとおり実施した。

図表 3-1-1 おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査の実施概要

項目	概要
実施時期	令和2年9月18日（金）～10月9日（金） ※調査期間後に回収した調査票についても、できる限り結果に反映した。
調査対象	大田区区民活動情報サイト登録団体（自治会・町会除く）、大田区社会福祉法人協議会参加法人
実施方法	郵送・電子メールによる配布・回収
調査項目	活動団体の基本情報、プランに関連する団体の活動状況、活動の検討状況、子ども・家庭に必要な支援等に関する意見 など

(2)回収状況

回答状況は以下のとおりである。

図表 3-1-2 おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査 調査票の回収状況

	実回答数	有効回答数
おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査	111 件	106 件

(3)集計結果の表示方法

- 本報告書では、調査票の設問順に集計結果を掲載している。
- 文章中および図表内の「n=〇〇」はその設問についての有効回答数、「SA」は単一回答形式 (Single Answer)、「MA」は複数回答形式 (Multiple Answer) を示している。
- 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。

2. 調査結果

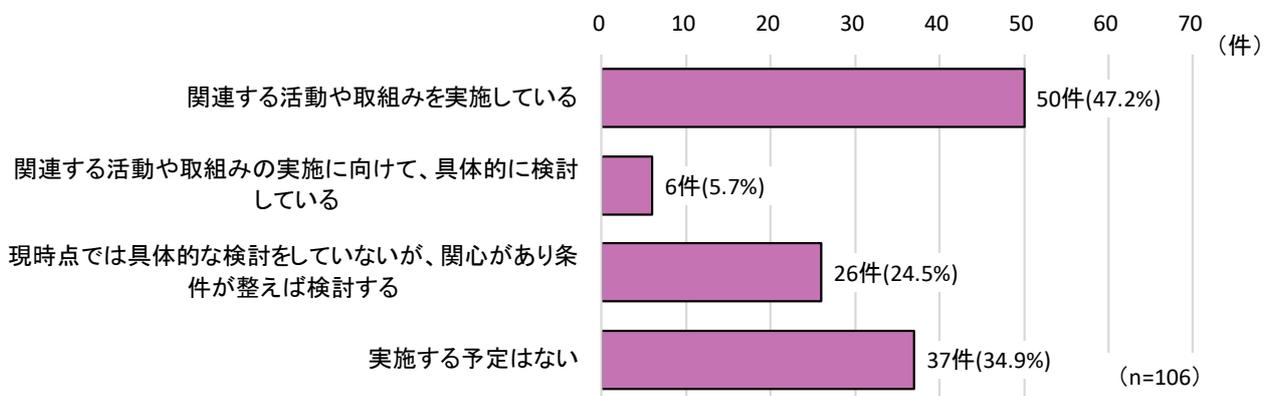
(1) おおた 子どもの生活応援プランに関すること

① 関連のある活動や取組みの実施・検討状況

子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みの実施・検討状況について尋ねたところ、50件（47.2%）が「関連する活動や取組みを実施している」と回答した。また、6件（5.7%）が「関連する活動や取組みの実施に向けて、具体的に検討している」に、26件（24.5%）が「現時点では具体的な検討をしていないが、関心があり条件が整えば検討する」に回答している。

設問 1 貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか（MA）

図表 3-2-1-1 関連のある活動や取組みの実施・検討状況

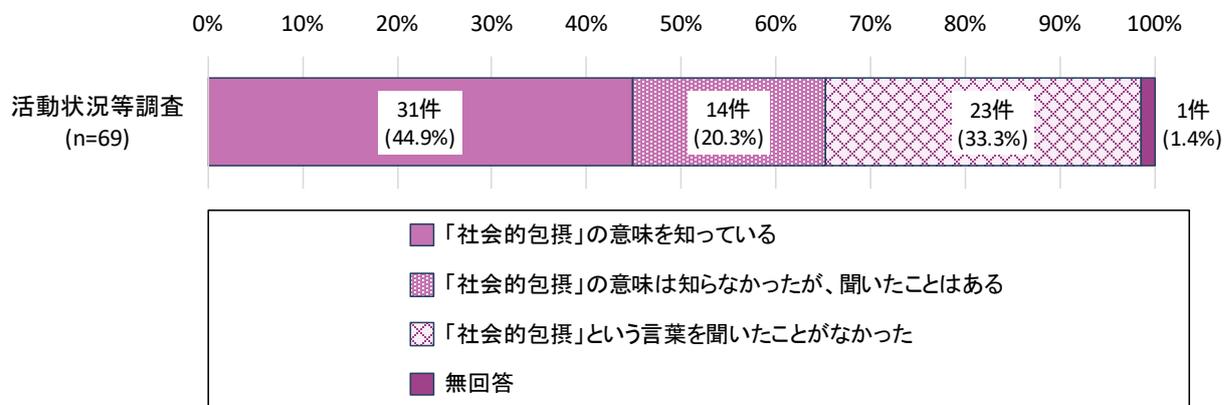


②社会的包摂の認知度

大田区内で子どもの生活応援を実施・検討している 69 団体¹²⁴のうち、31 件 (44.9%) が「社会的包摂の意味を知っている」と回答しており、14 件 (20.3%) が「社会的包摂の意味は知らなかったが、聞いたことはある」と回答している。一方で、23 件 (33.3%) は、「社会的包摂という言葉を知りませんでした」と回答している。

設問 2 大田区では、すべての子どもたちが地域社会から切り離されないよう、社会的に包み込むような支援「社会的包摂」(ソーシャル・インクルージョン)に取り組んでいます。「社会的包摂」という言葉を知っていますか？(SA)

図表 3-2-1-2 社会的包摂の認知度



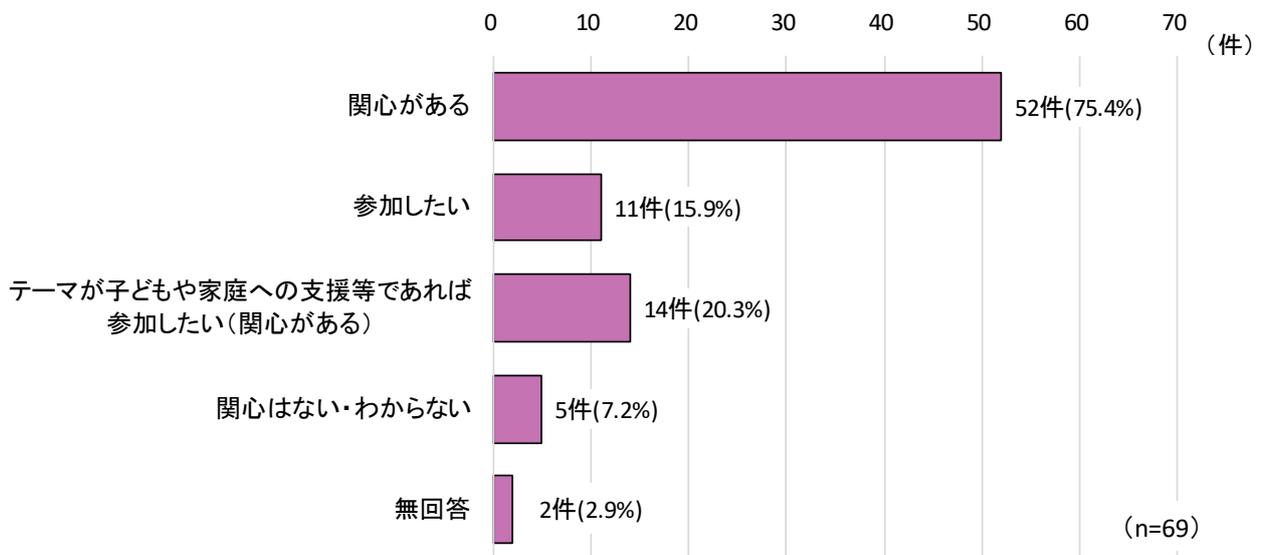
¹²⁴ 以降の設問においては、設問 1 で、「関連する活動や取組みを実施している」、「関連する活動や取組みの実施に向けて、具体的に検討している」、「現時点では具体的な検討をしていないが、関心があり条件が整えば検討する」のいずれかに回答した団体のみを集計の対象としている。

③地域での対話の場に対する関心

地域住民や支援団体が集まり、地域課題やその解決策について情報交換や対話する場を、大田区や大田区社会福祉協議会が設定していくことに対して、このような場に「関心がある」と回答した団体は、52件（75.4%）となっている。

設問3 今後、大田区や大田区社会福祉協議会では、地域住民や支援団体が集まり、地域課題やその解決策について情報交換や対話する場を設定していくことを検討しています。こうした場に関心はありますか？（MA）

図表 3-2-1-3 地域での対話の場に対する関心



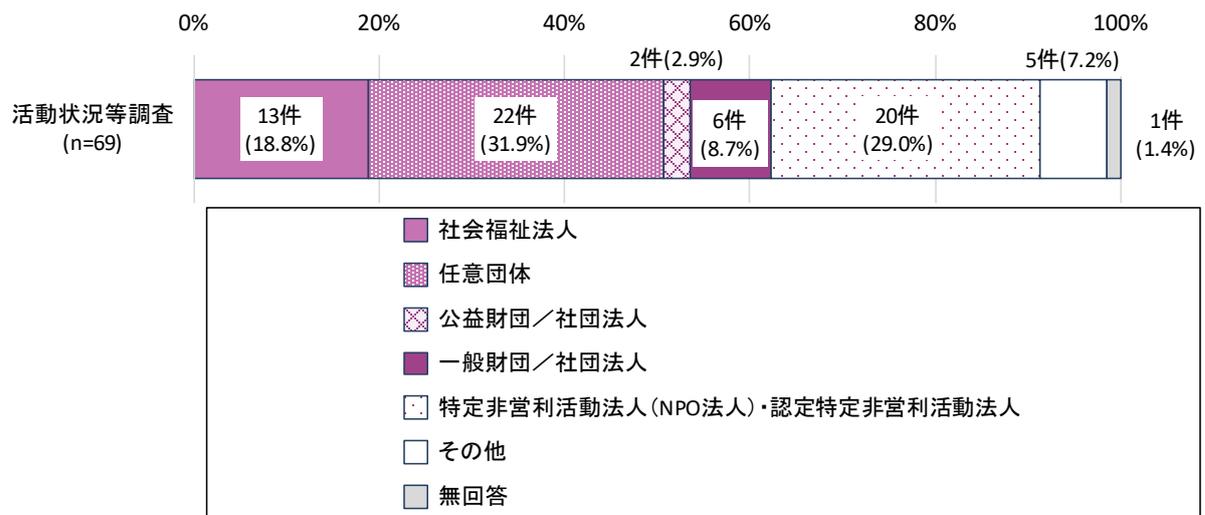
(2)団体情報

①団体・法人の種別

団体・法人の種別については、「任意団体」が最も多く、22件(31.9%)となっている。次いで、「特定非営利活動法人(NPO法人)・認定特定非営利活動法人」が20件(29.0%)となっている。

設問 団体・法人の種別 (SA)

図表 3-2-2-1 団体・法人の種別

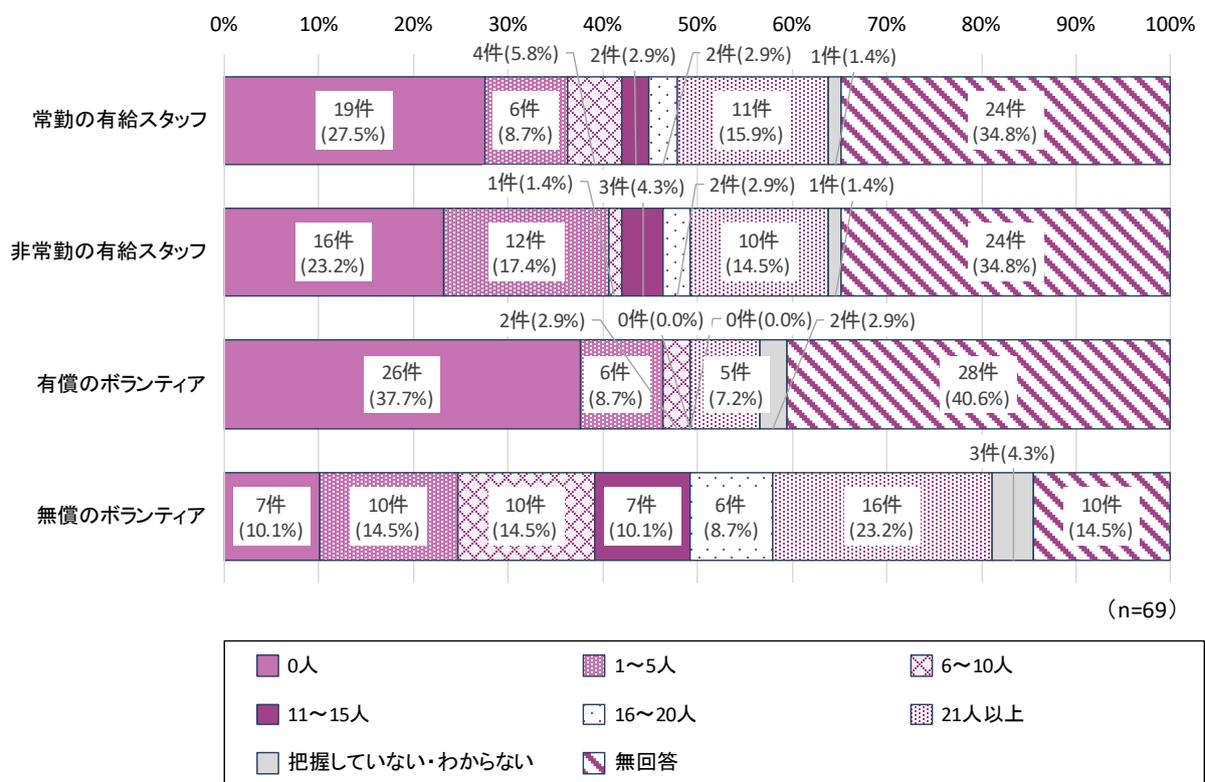


②団体の人員体制

団体の人員体制について尋ねた設問では、「常勤の有給スタッフ」、「非常勤の有給スタッフ」、「有償のボランティア」については、無回答を除くと「0人」と回答した団体が最も多く、それぞれ 19 件 (27.5%)、16 件 (23.2%)、26 件 (37.7%) となっている。一方で、「無償のボランティア」については、「21人以上」の回答が最も多く、16 件 (23.2%) となっている。

設問 貴団体の運営に関わっている職員やボランティアなどのスタッフの人数（9月1日時点）について、それぞれ当てはまる選択肢ひとつに○をつけてください。（SA）

図表 3-2-2-2 団体の人員体制



(3)活動・取組のテーマ・領域

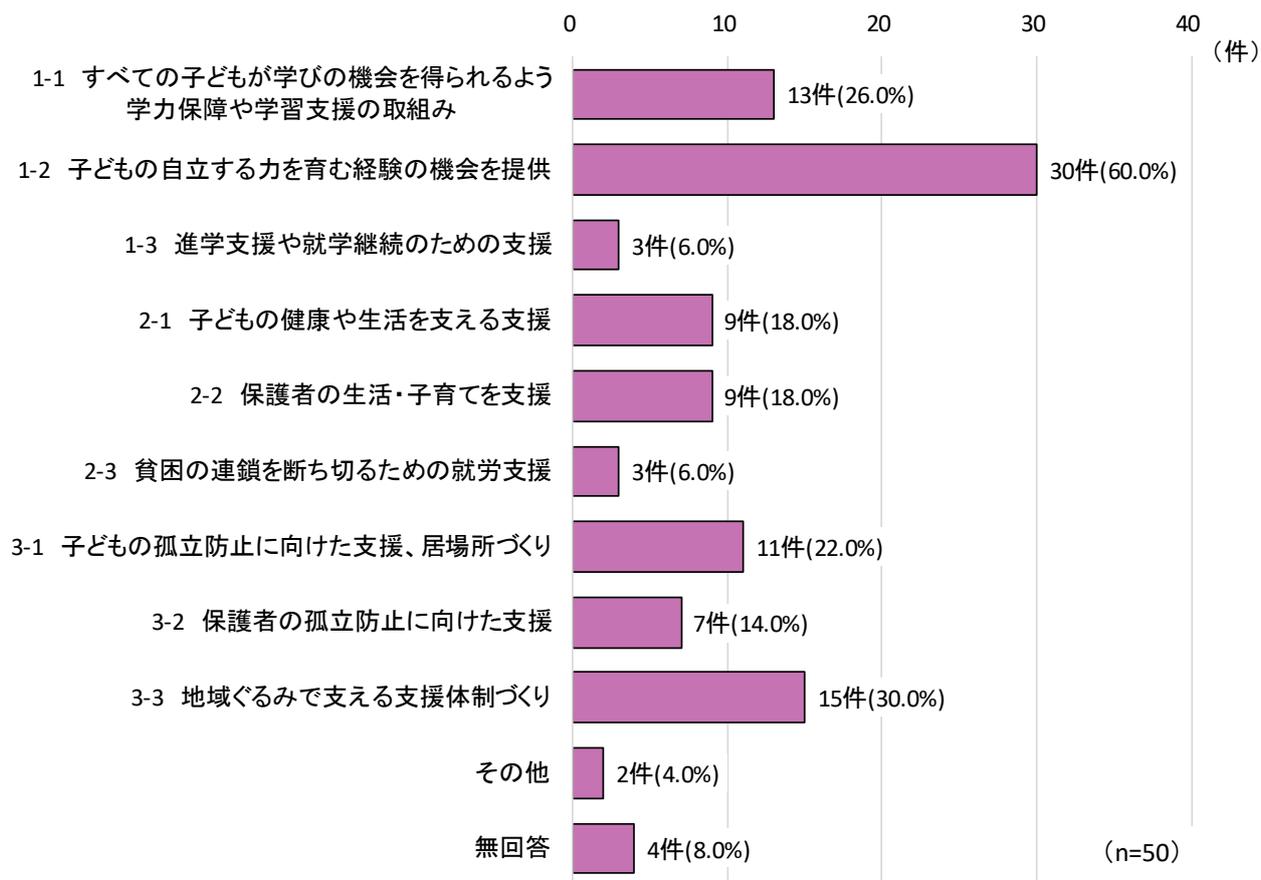
①活動・取組みの実施状況

子どもの生活応援などに関する活動・取組みを実施している 50 団体¹²⁵の実施状況について、「1-2 子どもの自立する力を育む経験の機会を提供」を活動テーマ・領域とする活動を行っている団体が 30 件 (60.0%) で最も多くなっており、次いで「3-3 地域ぐるみで支える支援体制づくり」を行っている団体が 15 件 (30.0%) となっている。

また、「1-3 進学支援や就学継続のための支援」、「2-3 貧困の連鎖を断ち切るための就労支援」に関連する活動をしている団体はともに 3 件 (6.0%) で、他の活動テーマ・領域と比較して活動を実施している団体数が少なくなっている。

設問 2-1A 子どもの生活応援などに関する以下の活動・取組みについて、貴団体が実施しているものに該当する、または近いと思う「活動テーマ・領域」に○をつけてください。
複数の活動を実施している場合、該当する選択肢すべてに○をつけてください。(MA)

図表 3-2-3-1 活動・取組みの実施状況



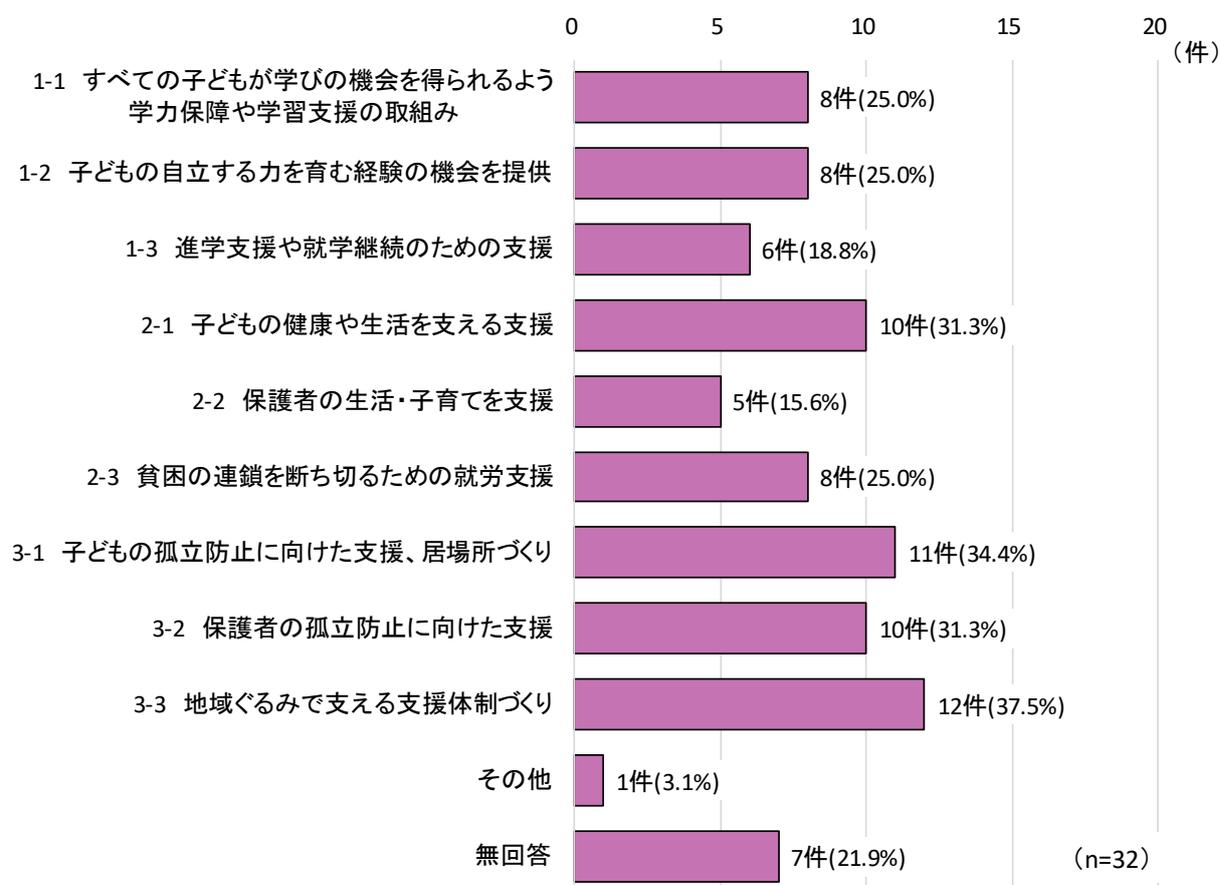
¹²⁵ 設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みを実施している」と回答した団体を集計対象としている。

②活動・取組みの検討状況

子どもの生活応援に関する活動・取組みを検討している 32 団体¹²⁶の検討状況について、「3-3 地域ぐるみで支える支援体制づくり」に関連する活動を検討していると回答した団体が、12 件（37.5%）で最も多くなっている。

設問 2-1B 子どもの生活応援などに関する以下の活動・取組みについて、貴団体が実施を検討しているものに該当する、または近いと思う「活動テーマ・領域」に○をつけてください。複数の活動を実施している場合、該当する選択肢すべてに○をつけてください。（MA）

図表 3-2-3-2 活動・取組みの検討状況



¹²⁶ 設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みの実施に向けて、具体的に検討している」、「現時点では具体的な検討をしていないが、関心があり条件が整えば検討する」のいずれかの選択肢を回答した団体を集計対象としている。

(4)子どもの生活応援に関連する活動個票¹²⁷

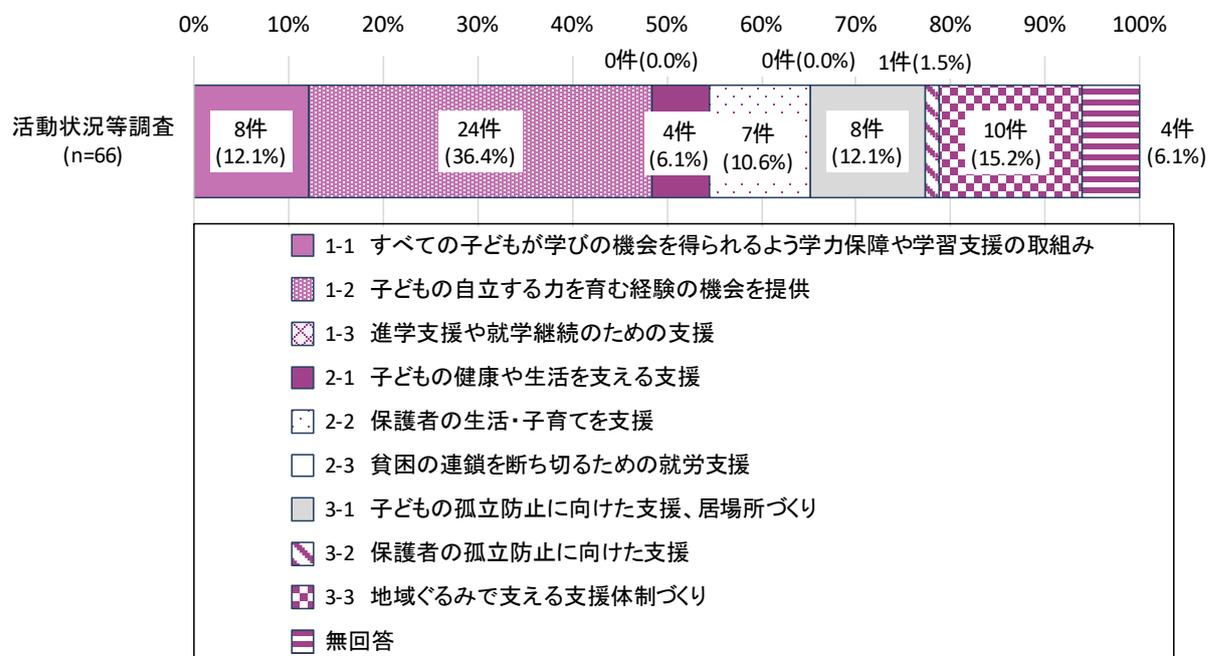
①最も関連の深い活動テーマ・領域

プランに関連する活動や取組みを実施している50団体が取り組んでいる、総計66種類の活動・取組みについて、最も関連の深い活動テーマ・領域を区の施策の柱別で見た場合、「柱1 経験・学力」に関する取組み¹²⁸が最も多く、32件(48.5%)となっている。

活動テーマ・領域別にみると、「1-2 子どもの自立する力を育む経験の機会を提供」に関連する取組みが最も多く24件(36.4%)となっている。一方で「1-3 進学支援や就学継続のための支援」、「2-3 貧困の連鎖を断ち切るための就労支援」を最も関連の深い活動テーマ・領域としている取組みは0件(0.0%)であった。

設問 3-2 最も関連の深いテーマ・領域 (SA)

図表 3-2-4-1 最も関連の深い活動テーマ・領域



¹²⁷ (4)子どもの生活応援に関連する活動個票については、設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みを実施している」と回答した50団体の、実施している総計66種類の活動・取組みを集計対象としている。

¹²⁸ 「おおた子どもの生活応援プラン」では、施策の柱の1つである「柱1 経験・学力」(子どもたちに良好な学習環境と多様な経験の機会を提供します)に基づき、「1-1 すべての子どもが学びの機会を得られるよう学力保障や学習支援の取組みを進めます」、「1-2 子どもの自立する力を育む経験の機会を提供します」、「1-3 進学支援や就学継続のための支援を行います」の3つの施策分野に関する事業を、各部局が展開することとしている。

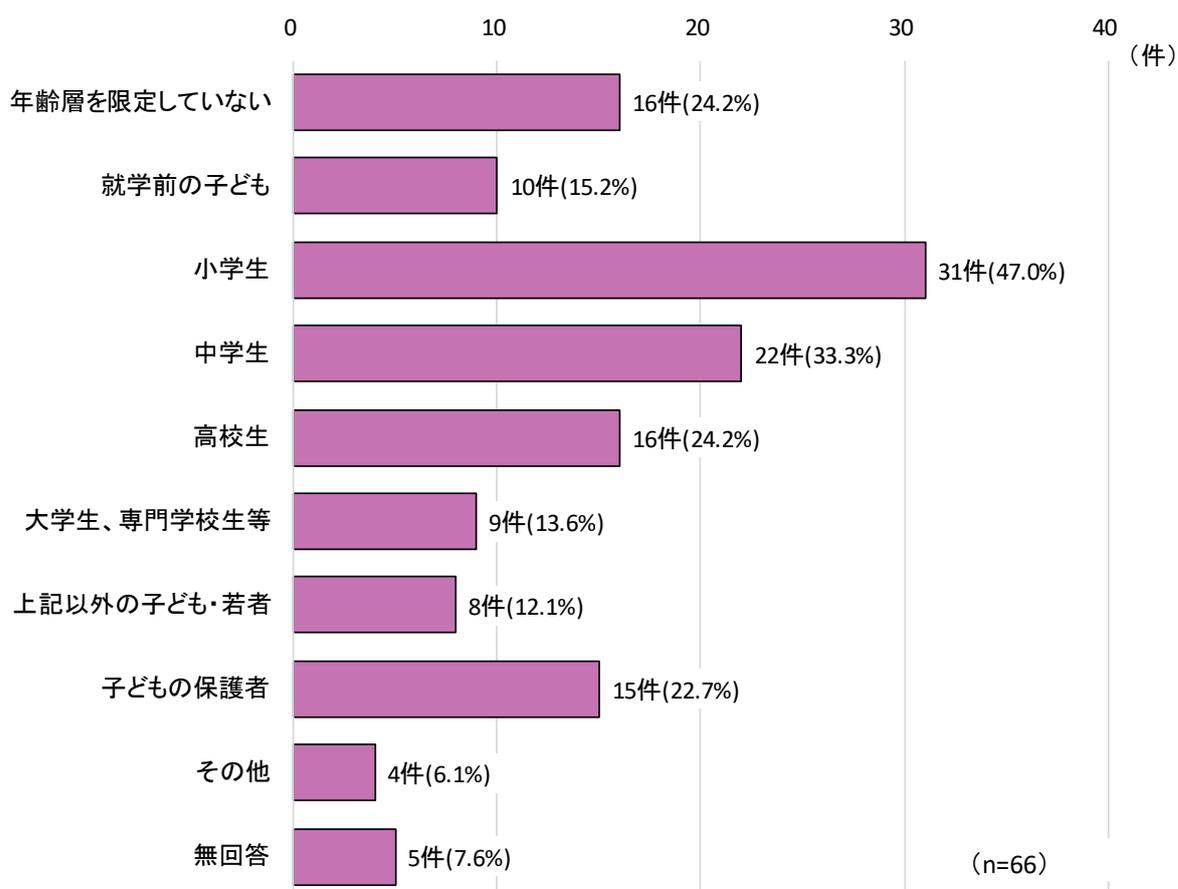
②活動・取組みの対象者の年齢層

実施している活動・取組みの対象者の年齢層を尋ねた設問について、「小学生」の回答が31件(47.0%)と最も多くなっており、次いで「中学生」の回答が22件(33.3%)となっている。また、「年齢層を限定していない」の回答は、16件(24.2%)となっている。

設問 3-5A 【活動・取組みの対象者・利用者】

年齢層、対象者の条件のそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。(MA)

図表 3-2-4-2 対象者の年齢層



③活動・取組みの対象者の条件

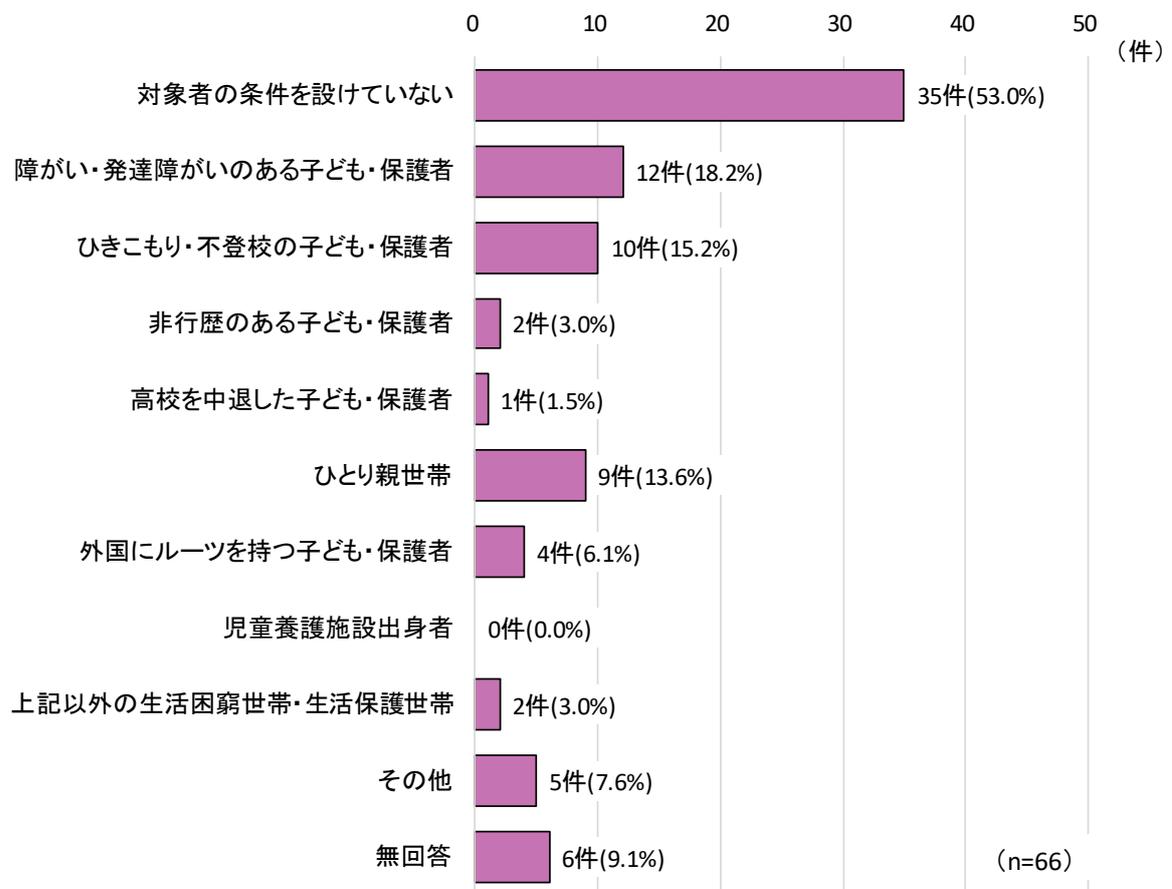
実施している活動・取組みの対象者の条件を尋ねた設問では、「対象者の条件を設けていない」の回答が35件（53.0%）と最も多くなっている。

また、「児童養護施設出身者」、「高校を中退した子ども・保護者」の回答がそれぞれ0件（0.0%）、1件（1.5%）となっている。

設問 3-5B 【活動・取組みの対象者・利用者】

年齢層、対象者の条件のそれぞれについて、あてはまるものにつけてください。（MA）

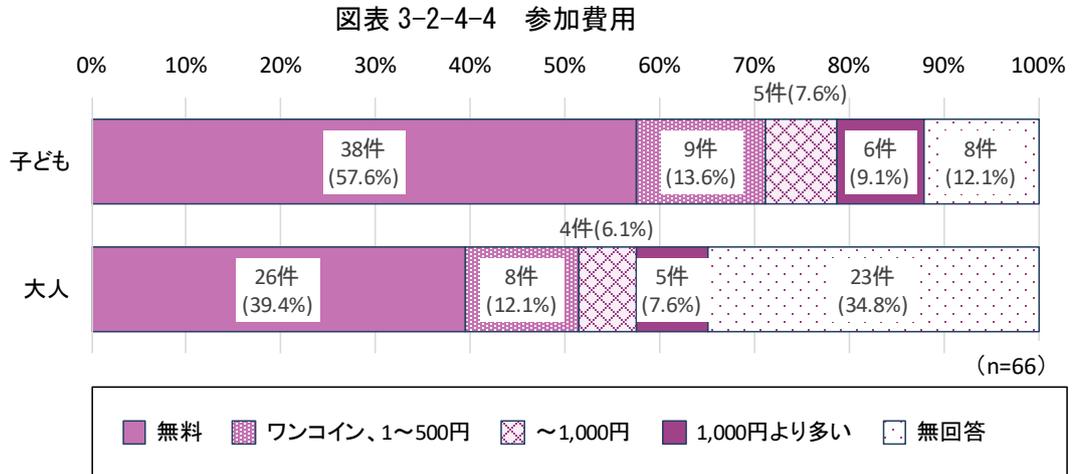
図表 3-2-4-3 対象者の条件



④参加費用

活動・取組みの1回あたりの負担額（参加費）を尋ねた設問について、子ども、大人ともに、「無料」の回答が最も多く、それぞれ38件（57.6%）、26件（39.4%）となっている。

設問 3-6 参加者が負担する1回あたりの負担額（参加費）は、次のどれにあてはまりますか（SA）

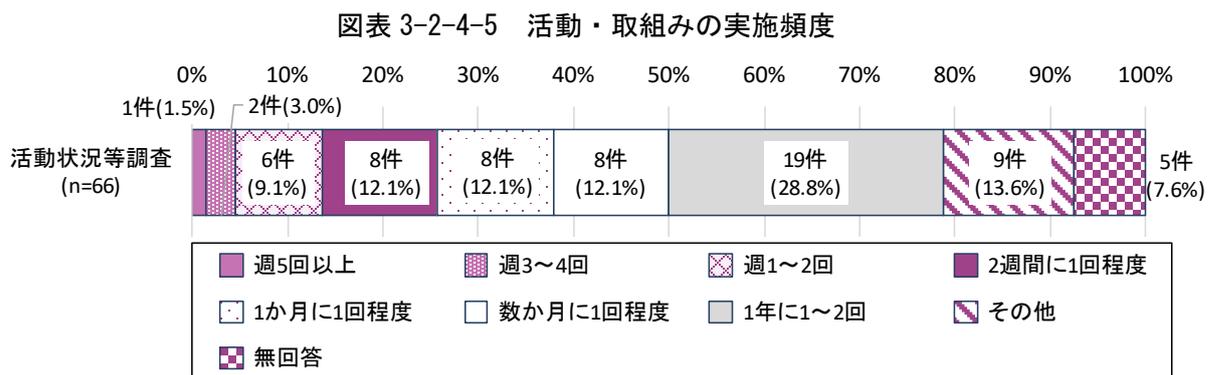


⑤活動・取組みの実施頻度

活動・取組みの実施頻度を尋ねた設問について、「1年に1~2回」の回答が最も多く、19件（28.8%）となっている。

設問 3-7 2019年の活動の実施頻度は、次のどれにあてはまりますか。

複数の拠点で実施している場合、最も頻度が高い拠点についてお答えください。（SA）

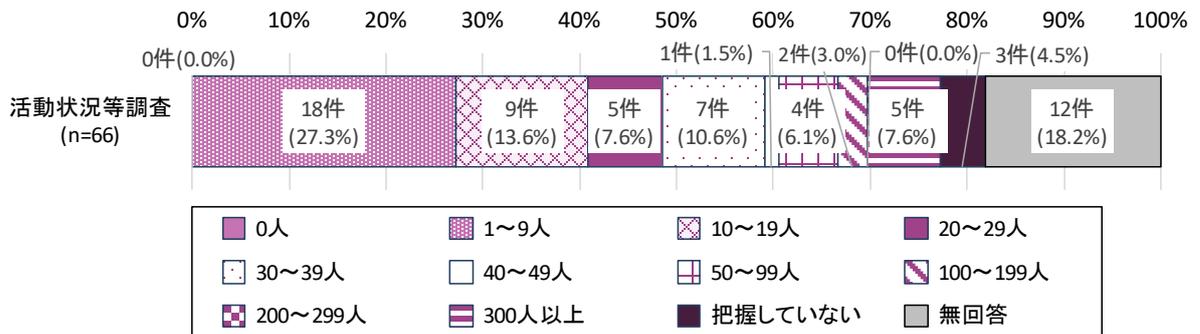


⑥利用者数

活動・取組みの月あたりの平均利用者数を尋ねた設問について、「1～9人」の回答が最も多くなっており、18件（27.3%）となっている。次いで、「10～19人」の回答が9件（13.6%）となっている。

設問 3-8 2019年の活動について、月の平均利用者数（延べ人数）は、次のどれにあてはまりますか。月単位で活動していない場合、月の平均に換算した延べ人数をお答えください。（SA）

図表 3-2-4-6 月平均利用者数



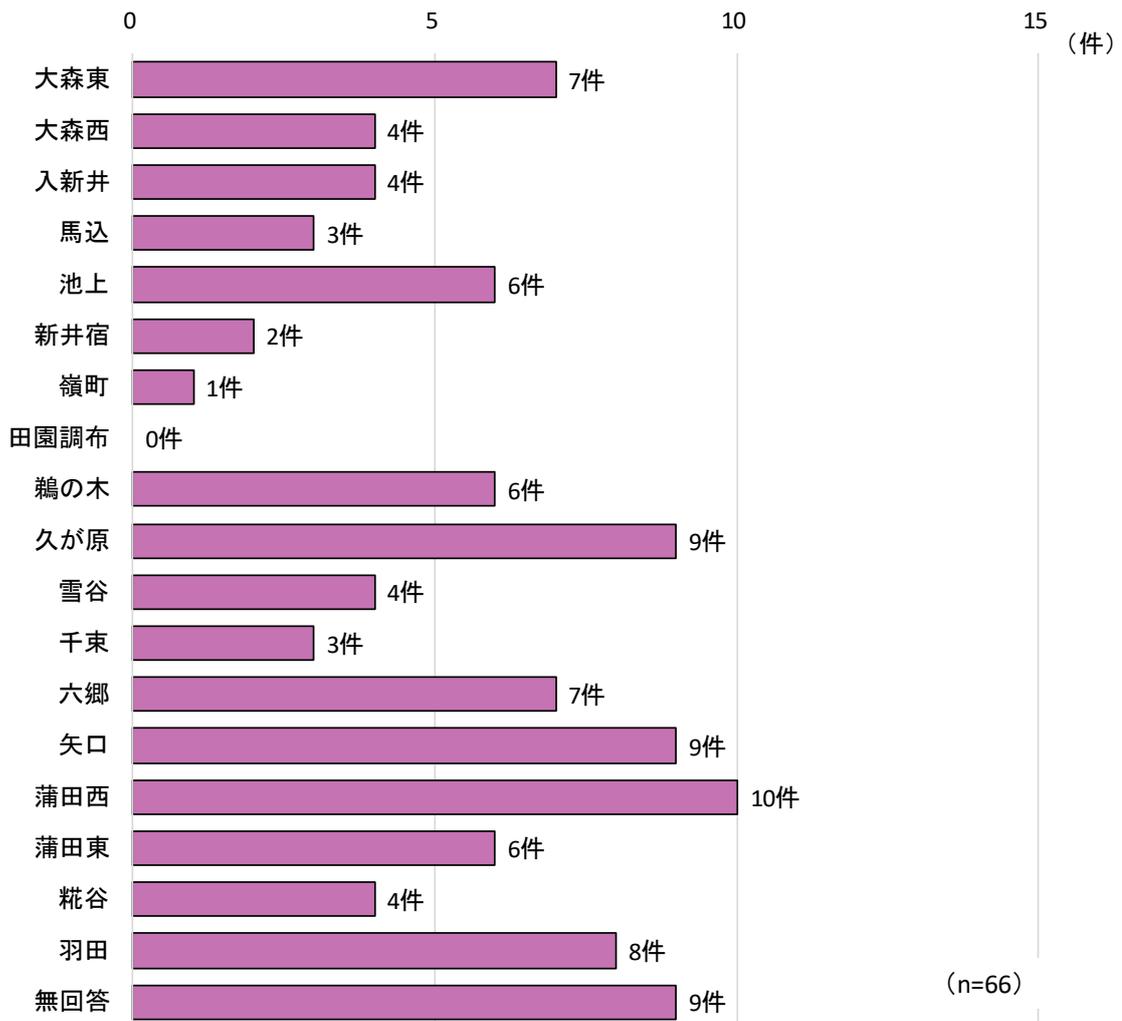
⑦拠点・場所

実施している活動・取組みの活動拠点・場所の所在エリア¹²⁹を尋ねたところ、「蒲田西地区」の回答が10件で最も多く、次いで、「久が原地区」、「矢口地区」の回答が9件となった。

また、「田園調布地区」の回答は0件、「嶺町地区」の回答が1件となっている。

設問 3-9 大田区内の活動拠点・場所の名称及び住所

図表 3-2-4-7 取組みの活動拠点・場所（地区別）



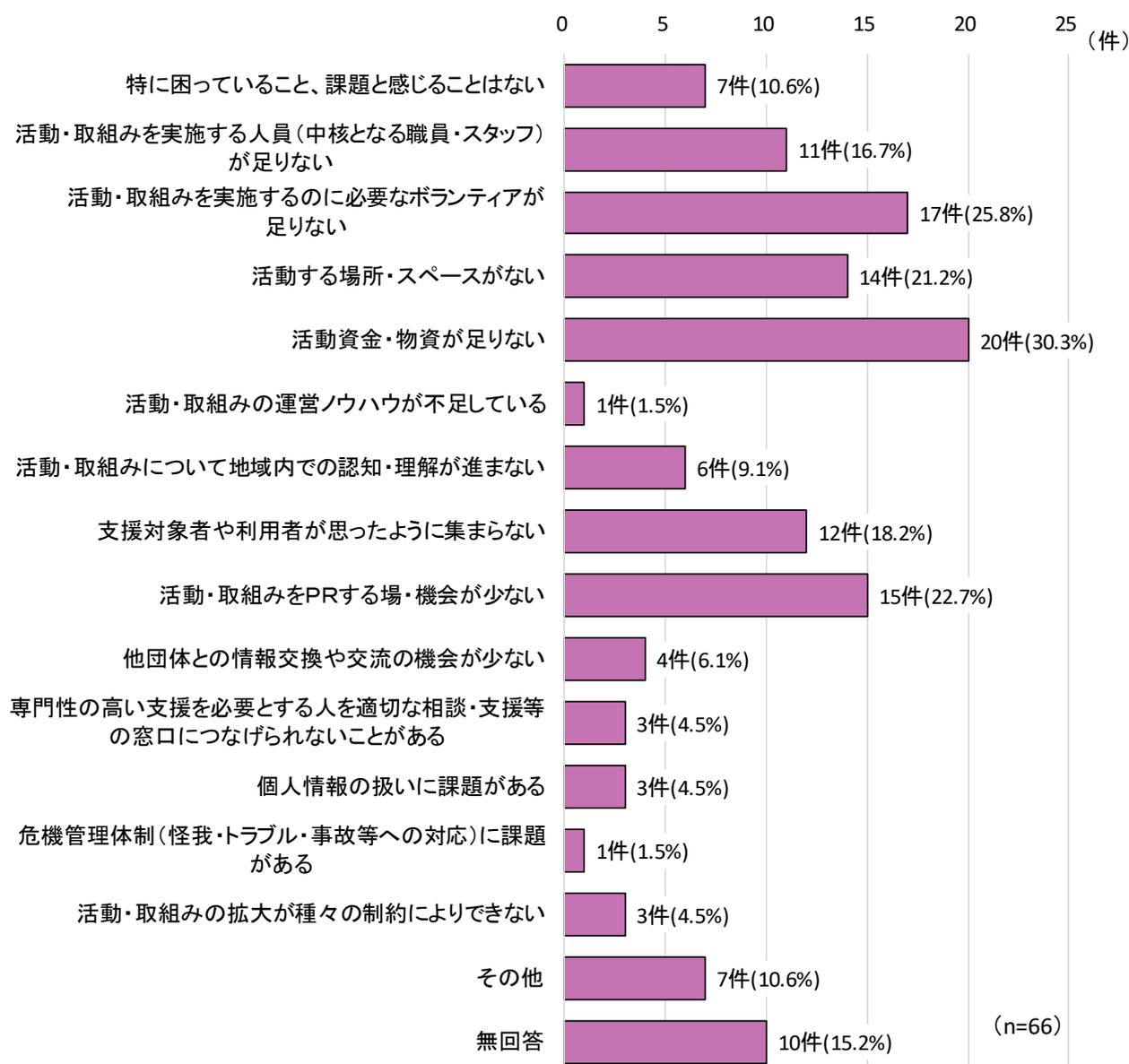
¹²⁹ 大田区内の地区区分ごとに、プランに関する活動拠点の数を把握することを目的に、当設問では、アンケート回答団体の活動・取組みごとに、その活動拠点の名称と住所を回答していただいた（最大6か所）。活動によっては、複数の地区にまたがって活動拠点が置かれている場合がある。同じ地区内に複数の活動拠点があると回答した場合は、それぞれを1つの活動拠点として集計している。

⑧活動・取組みの課題

活動・取組みの課題を尋ねた設問について、「活動資金・物資が足りない」の回答が20件(30.3%)と最も多く、次いで「活動・取組みを実施するのに必要なボランティアが足りない」の回答が17件(25.8%)、「活動・取組みをPRする場・機会が少ない」の回答が15件(22.7%)となっている。

設問 3-10 活動・取組みの中で困っている、課題に感じることはなんですか。(MA)

図表 3-2-4-8 活動・取組みの課題

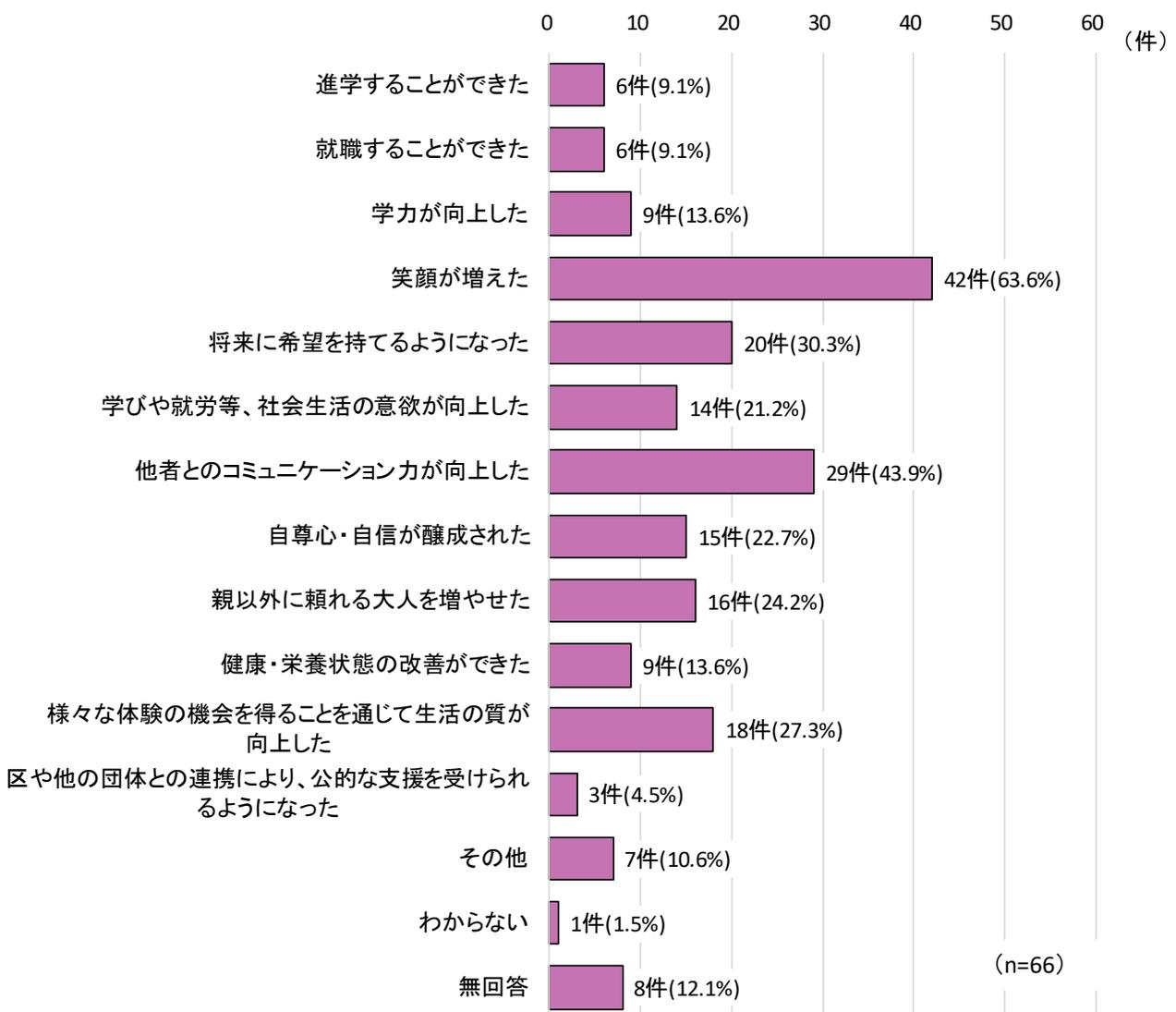


⑨子ども・保護者の変化

活動・取組みによる子ども・保護者の変化を尋ねた設問について、「笑顔が増えた」の回答が42件(63.6%)と最も多く、次いで「他者とのコミュニケーション力が向上した」の回答が29件(43.9%)となっている。

設問 3-11 活動・取組みを行った結果、子どもや保護者にどのような変化がみられたと考えますか。(MA)

図表 3-2-4-9 子ども・保護者の変化



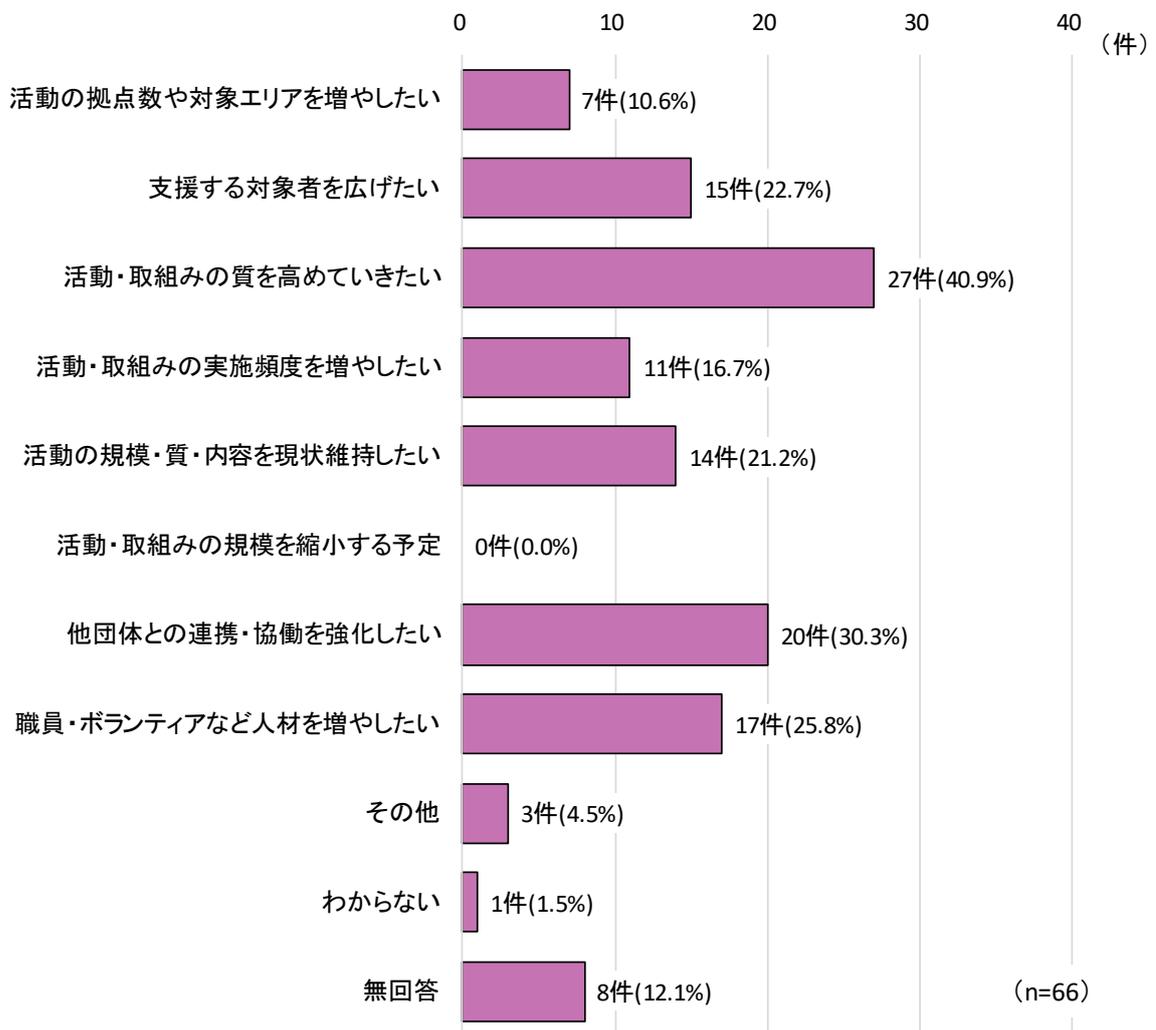
⑩今後の展望

活動・取組みの今後の展望を尋ねた設問について、「活動・取組みの質を高めていきたい」の回答が27件（40.9%）と最も多く、次いで「他団体との連携・協働を強化したい」の回答が20件（30.3%）、職員・ボランティアなど人材を増やしたいの回答が17件（25.8%）となっている。

また、「活動・取組みの規模を縮小する予定」の回答は、0件（0.0%）となっている。

設問 3-12 活動・取組みの今後の展望について、
あてはまる選択肢すべてに○をつけてください。（MA）

図表 3-2-4-10 活動・取組みの今後の展望



(5)子どもの生活応援などに関する活動状況¹³⁰

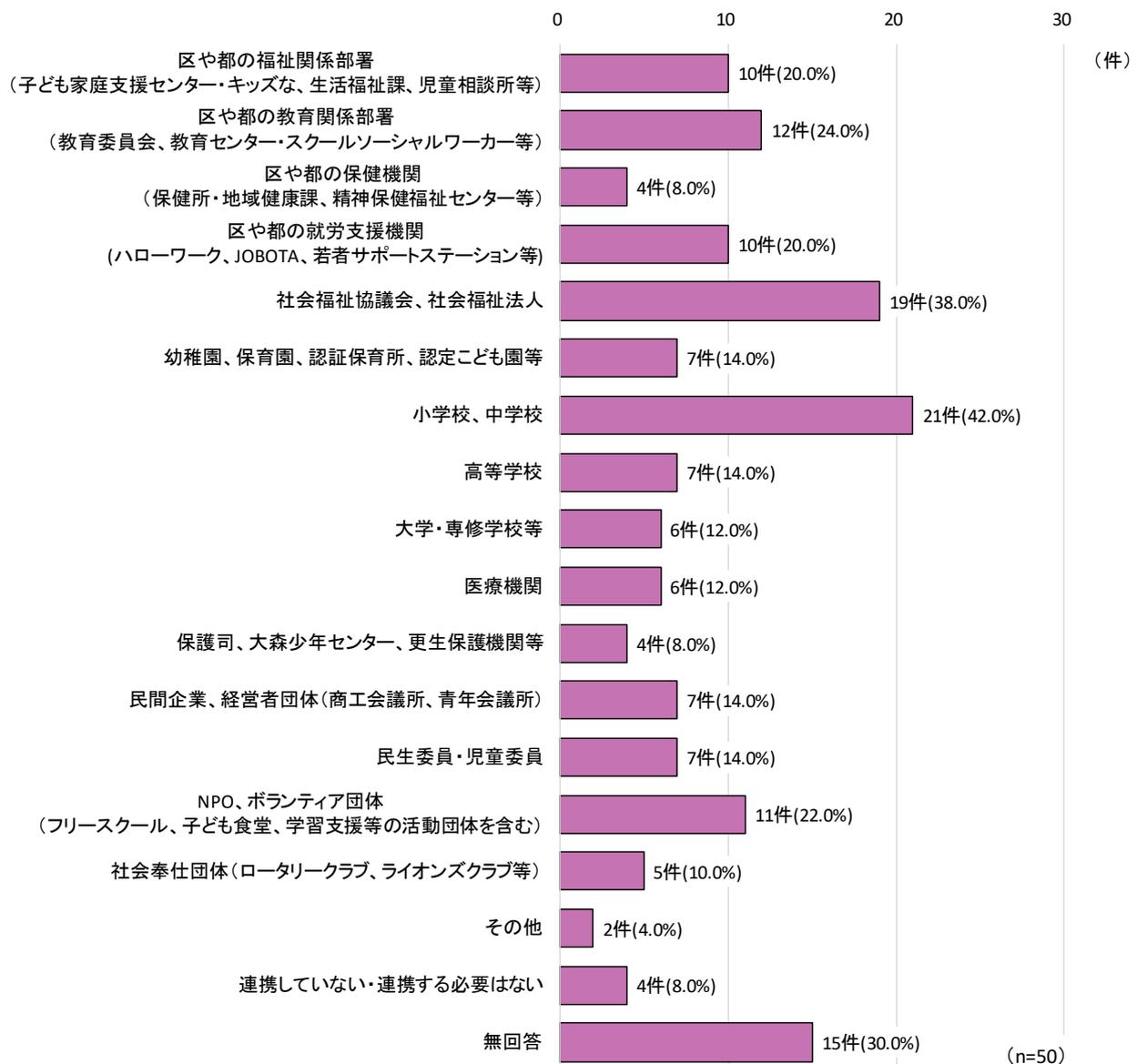
①現在連携している関係機関

子どもの生活応援などに関する活動・取組みを実施している50団体に、現在連携している関係機関を尋ねた設問について、「小学校、中学校」の回答が21件(42.0%)と最も多く、次いで「社会福祉協議会、社会福祉法人」の回答が19件(38.0%)となっている。

一方で、「区や都の保健機関(保健所・地域健康課、精神保健福祉センター等)」、「保護司、大森少年センター、更生保護機関等」の回答は、共に4件(8.0%)となっている。

設問 4-1A 貴団体が、子どもの生活応援等の活動・取組みを行うにあたり、現在連携している関係機関についてお答えください。(MA)

図表 3-2-5-1 現在連携している関係機関

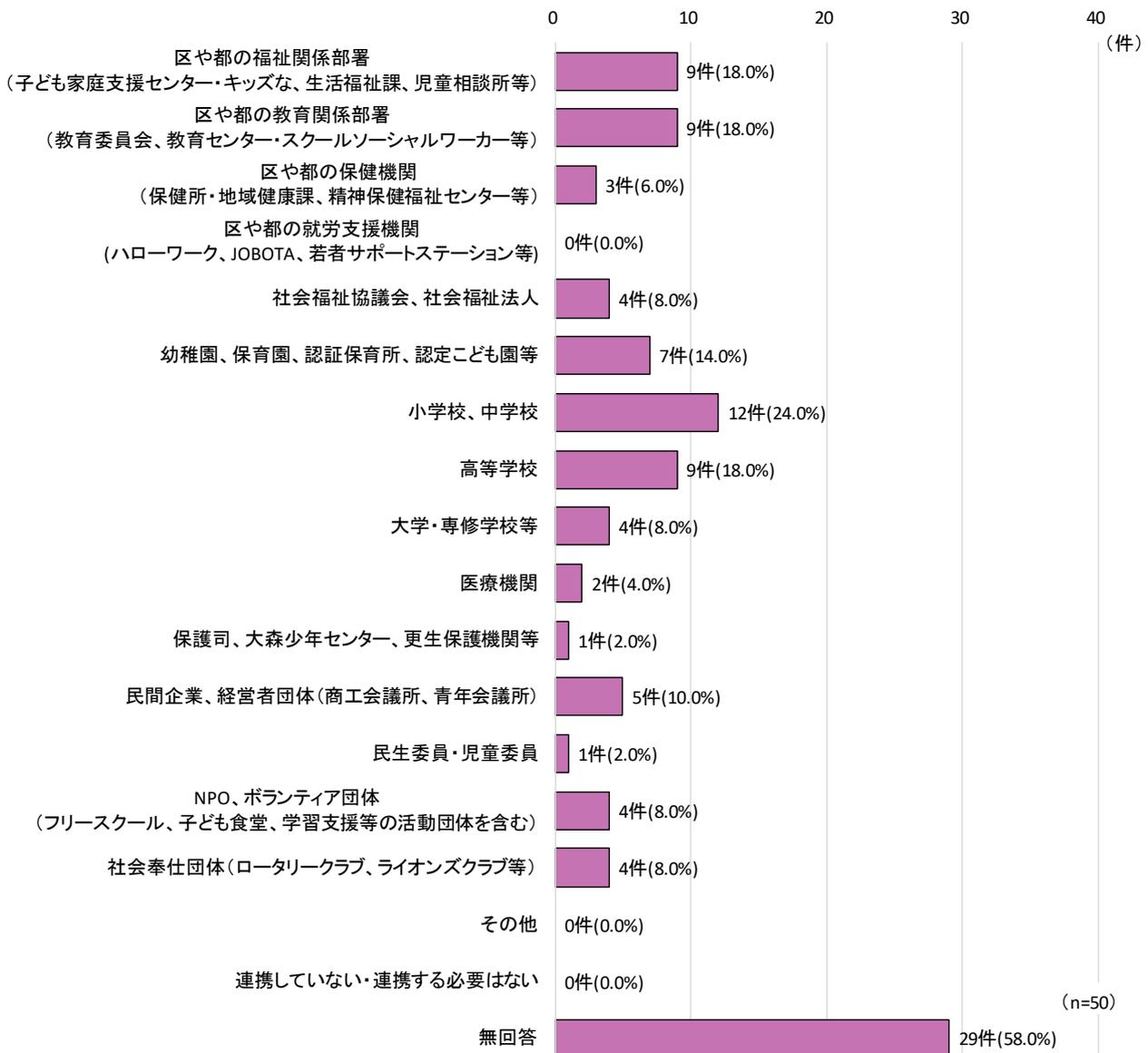


¹³⁰ (5)子どもの生活応援などに関する活動状況については、設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みを実施している」と回答した団体を集計対象としている。

②今後連携したい関係機関 今後連携したい関係機関を尋ねた設問について、無回答を除くと、「小学校、中学校」の回答が最も多く、12件(24.0%)となっている。次いで、「区や都の福祉関係部署(子ども家庭支援センター・キッズな、生活福祉課、児童相談所等)」、「区や都の教育関係部署(教育委員会、教育センター・スクールソーシャルワーカー等)」、「高等学校」の回答がともに9件(18.0%)となっている。

設問 4-1B 貴団体が、子どもの生活応援等の活動・取組みを行うにあたり、今後連携したい関係機関についてお答えください。

図表 3-2-5-2 今後連携したい関係機関



(6)子どもの生活応援に関する検討状況¹³¹

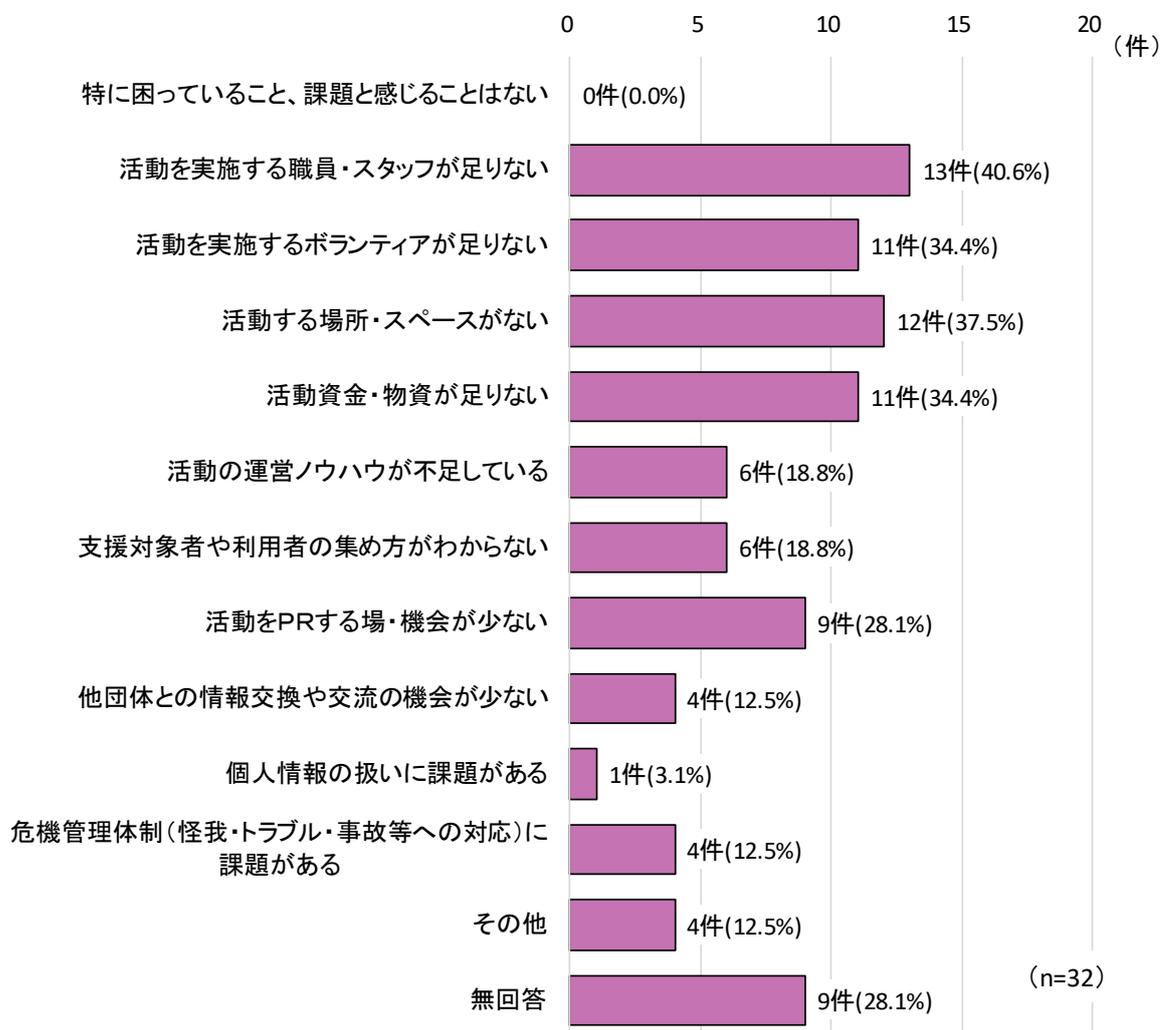
①検討段階での課題

子どもの生活応援に関する活動・取組みを検討している32団体に、活動・取組みを検討する中で課題を尋ねた設問について、「活動を実施する職員・スタッフが足りない」の回答が13件(40.6%)と最も多く、次いで「活動する場所・スペースがない」の回答が12件(37.5%)、「活動を実施するボランティアが足りない」、「活動資金・物資が足りない」の回答が11件(34.4%)となっている。

また、「特に困っていること、課題と感ずることはない」の回答は、0件(0.0%)となっている。

設問 5-2 活動・取組みを検討する中で、困っていることや課題に感ずることはなんですか。(MA)

図表 3-2-6-1 検討段階での課題



¹³¹ (6)子どもの生活応援に関する検討状況については、設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みの実施に向けて、具体的に検討している」、「現時点では具体的な検討をしていないが、関心があり条件が整えば検討する」のいずれかの選択肢を回答した団体を集計対象としている。

(7)自由記述について

①区の子どもの貧困対策として必要な取組み

活動・取組みを実施・検討している団体に対し、大田区の子どもの貧困対策として、どのような取組みが重要だと思うかを尋ねたところ、54の団体から合計71件の意見が寄せられた。

「連携の取組・仕組みづくり」に関する意見が最も多く、13件(24.1%)となっている。次いで「こども食堂・食事・栄養」に関する意見が10件(18.5%)、「居場所・つながり・社会的孤立の防止」に関する意見が8件(14.8%)となっている。

設問 活動・取組みを実施・検討している団体に伺います。大田区の子どもの貧困対策として、どのような取組みが重要だと思いますか。効果が高いと思う取組みや、区が力を入れるべき取組み、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言期間の状況を踏まえて、必要だと思う取組み等について、自由に意見をお聞かせください。(自由記述)

図表 3-2-7-1 区の子どもの貧困対策として必要な取組み

順位	自由記述の分類	件数 (n=54)	割合 (%)
1	連携の取組・仕組みづくり	13	24.1%
2	こども食堂・食事・栄養	10	18.5%
3	居場所・つながり・社会的孤立の防止	8	14.8%
4	親への支援(子育て支援・生活支援等)	7	13.0%
5	子どもへの学習支援	6	11.1%
5	貧困の実態の理解・啓発	6	11.1%
7	ICT活用・インターネット・オンライン学習	4	7.4%
7	子どもの多様な体験	4	7.4%
9	活動団体への支援	3	5.6%
10	新型コロナウイルスに関連する支援・対応	2	3.7%
—	その他	8	14.8%
	意見の合計数	71	—

上位5項目についての代表的な意見

(1)連携の取組・仕組みづくり

- 活動団体がお互いの活動を知り、有機的に連携できる仕組みづくり
- 企業の社会貢献の機運が高まる中、企業と地域の活動団体が連携する仕組みづくり
- 自立相談支援機関と教育関係機関とが連携し、困りごとがあれば相談できることを周知することが重要
- 民間団体だからこそそのネットワークと連携が、コロナなどの有事に対して子どもたちの支援に有効であり、活動団体の活動拠点の確保など民間団体が活動しやすい体制づくりが必要

(2)こども食堂・食事・栄養

- 子ども食堂は多世代の方に対して効果をあげている。市民の自由な活動の利点を活かしつつ、区が子ども食堂の活動を支援すると良い
- 子ども食堂は、食事支援だけでなく学習支援も行っており、有効な取組みであるので、活動を支える公的なシステムがあると良い

(3)居場所・つながり・社会的孤立の防止

- 経済的な対策だけでなく、子育てや生活の悩みを話し人とのつながりが持てる等、居場所が必要
- 子ども食堂や、屋外で体を動かし気分転換できる公的空間を活用した居場所が必要
- ひとり親など支援が必要な方が、お互いに相談や助け合う環境整備

(4)親への支援（子育て支援・生活支援等）

- 親への支援が大事
- 子育て世帯への経済的支援を
- コロナの影響による雇い止めなど、ひとり親世帯への経済的支援を

(5)子どもへの学習支援

- 学習の機会や様々な経験、体験の機会の確保

(5)貧困の実態の理解・啓発

- 貧困の原因を知り、地域ぐるみで子どもの貧困に取り組む必要のある問題である
- 行政が貧困家庭の現実を知ることが必要

②特に厳しい状況にある子どもや家庭への関わりや支援について

活動・取組みを実施している団体に対し、団体の活動・取組みで接点を持っている、特に厳しい状況にある子どもや家庭にとって、どのような関わりや支援が特に重要だと思うかを尋ねたところ、25団体から合計33件の意見が寄せられた。

「連携の取組・仕組みづくり」に関する意見が最も多く、7件（28.0%）となっている。次いで「居場所・つながり・社会的孤立の防止」に関する意見が5件（20.0%）、「障害（発達障害含む）・グレーゾーンの子どもの支援」に関する意見が3件（12.0%）となっている。

また、「地域の支え合い・地域力の育成」、「子どもの多様な体験」、「中間的就労等に関する支援」に関する意見が各2件（8.0%）寄せられた。

設問 活動・取組みを実施している団体に伺います。貴団体の活動・取組みで接点を持っている、特に厳しい状況にある子どもや家庭にとって、どのような関わりや支援が特に重要だと思いますか。（自由記述）

図表 3-2-7-2 特に厳しい状況にある子どもや家庭への関わりや支援について

順位	自由記述の分類	件数 (n=25)	割合 (%)
1	連携の取組・仕組みづくり	7	28.0%
2	居場所・つながり・社会的孤立の防止	5	20.0%
3	障害（発達障害含む）・グレーゾーンの子どもの支援	3	12.0%
4	地域の支え合い・地域力の育成	2	8.0%
4	子どもの多様な体験	2	8.0%
4	中間的就労等に関する支援	2	8.0%
—	その他	12	48.0%
	意見の合計数	33	—

上位3項目についての代表的な意見

(1)連携の取組・仕組みづくり

- 他機関と連携して見守りを行うことが重要
- 団体間の連携推進がうまくいかない場合も少なくない。連携における一定のガイドラインが必要

(2)居場所・つながり・社会的孤立の防止

- 様々な課題を抱えた子どもたちにとって、居場所と実感できる場の提供が重要
- 単なる居場所ではなく、そこで話を聞いてくれる場所が大切

(3)障害（発達障害含む）・グレーゾーンの子どもの支援

- 発達障害やグレーゾーンの判定だけによることなく、子どもとの関わりの中で支援することが必要なのでは
- 障がいがあるお子さんの健全育成には、家庭が福祉につながる流れが必要
- 障がいの重い子どもが、在宅のままで社会とつながりが持てない状況となっていないか、実態を正確に把握することが必要